

## 第6回 第2期西区地域福祉保健計画策定委員会

日時:平成22年2月1日(月)

13:30から

場所:西区役所3階研究室

### 次 第

開 会

委員長あいさつ

議 事 等

1 今後のスケジュール . . . 資料1

2 第2期計画素案に対する意見と対応 . . . 資料2

3 第2期計画案 . . . 資料3

4 その他

閉 会

## ○これまでの経過と今後のスケジュール

○これまでの経過と今後のスケジュール			意見募集の中心		備考
			区全域 計画	地区別 計画	
平成20年6月	推進・評価委員会(第7回)	地区別懇談会の開催 第2期計画策定委員会の設置を確認			
21年1月～7月	策定委員会(1～4回)開催	第1期計画の振返り 第2期計画素案の検討			
20年10月～22年1月	各地区の懇談会開催	地域の特性・課題の検討 第2期計画の地区別計画案の検討			各地区5～7回開催
21年5～6月	区民アンケート実施	第1期計画の進ちよく状況の確認			無作為抽出2,500人対象 44.8%(1,121人)から回答
21年7～10月	団体ヒアリング	団体の第1期の取組状況・課題・ 今後力をいれたい取組など			37団体
9月28日	月	策定委員会(第5回)			第2期計画の地区別計画の検討状況報告 第2期計画素案(案)作成
10月11、12日	日 祝	アンケート実施(各地区健民祭等)	○	◎	計6会場1,161人
10月27日	火	推進・評価委員会(第8回)			第2期計画素案とりまとめ
11月～		素案公表・意見募集開始	◎	◎	広報区版・区ホームページ等で案内
11月1日	日	区民まつり	◎	◎	意見募集実施の周知
11月下旬 ～ 12月中旬		素案説明会・意見交換会	◎	◎	自由参加型、計5回28人
		地区連を通じた周知・意見募集	○	◎	地区別計画の班回覧等
		地域の行事等での意見募集	○	◎	ケアプラザまつりでのアンケート
2月1日(月)		策定委員会(第6回)			意見を踏まえた素案修正 →計画案作成
2月下旬～3月上旬		推進・評価委員会(第9回)			→行政計画としての区長決裁
4月～		第2期計画スタート			

素案に対する意見と対応(案)

ご意見の分類	ご意見の概要	対応	対応案
重点推進目標	1 第2期の重点推進目標を推進するにはHOW TOをはっきりさせなければいけないのではないかと。	☆	計画では、個人、団体、行政、区社会福祉協議会、地域ケアプラザの取組を具体的に定めます。また、毎年それぞれの主体の取組状況を確認し、報告します。【20～31ページ「区全域計画」、59ページ「評価の仕組み」】
計画の周知	2 基本理念については非常に良いと感じているが、実際に地域住民はどれだけ理念のことを知っているのか？実際はほとんど知られていないのではないかと。区役所内でも周知ができていないのではないかと。周知する方法を検討すべきではないかと？	○	広報よこはま「にし区版」、西区ホームページを通じて計画について紹介したり、自治会・町内会や団体等に計画に関する説明を行っています。また、多くの区民の方が参加する区民まつり、地域ケアプラザまつり、地域の行事等で計画の目指す姿（基本理念）をお伝えしています。今後も、より広く計画を知っていただく方法を地区の皆さんや団体の方等と計画を推進する中で検討してまいります。
	3 素案説明会の参加者の少なさに驚いた。どの活動も同様の傾向があるが、このような活動を広げていくのが難しい。	○	素案説明会については、広報よこはま西区版、ちらしの配布、団体への説明等を通じてお知らせしました。今後も計画の取組への理解と皆さんに御参加いただけるよう周知方法を工夫していきます。
地区別計画	4 計画づくりに参加した人の気持ちが伝わってくる。町内会の方のこまめな働きかけが大切なこと、ボランティアどうしの活動も連携していくと良い。	◇	地区別計画は平成20年度から各地区で懇談会を複数回重ね、地区の皆さんが検討してきました。活動の中での課題や地区の自慢等を共有し、自分たちの住むまちをより住みやすく、地域のつながりを持ち続けられるようなまちにするために連携を深めていく目標を立てて取組を進めていきます。
	5 地区計画策定の話し合いを行っているが、話し合いばかりで具体的な行動実行まで繋がっていない。また、話し合いに関するフィードバックがない。	☆	地区別計画には、区、区社協、地域ケアプラザが地域の取組を支援する計画も掲載し、より住みやすいまちづくりに一緒に取り組みます。【32ページ～57ページ「地区別計画」、58ページ「推進支援の仕組み」】
区社協・地域ケアプラザの役割	6 活動を広げるネットワーク等の育成を誰がどのように推進するのか。	◇	区社会福祉協議会では、ボランティアや団体が地域生活に密着した活動が行えるよう、地域と連携できる仕組みづくりに取り組みます。地域ケアプラザなどではボランティアグループ、サービス提供事業者等が交流できる場を提供し、地域のつながりづくりに取り組みます。
	7 団体どうし、ボランティアをつなげていくのが区社会福祉協議会、地域ケアプラザの役割である。		
	8 ボランティア団体どうしが互いの活動に招待しあい、交流を図る。また自治会と団体でも交流を図り、これまで参加していなかった人も参加できる環境をつくれれば、つながりの大切さを感じていくのではないかと。	○	基本目標4「地域全体がつながりを持つまち」の中で「団体どうしの連携を図る」という重点推進目標を定めています。いただいたアイデアは、地域の皆さんの話し合いの場等で紹介し、関係する団体どうしがお互いを知り、つながりあい、協力することで活動の活性化を目指していきます。

対応区分 ☆:御意見を踏まえ計画案に加えました。◇:素案に含まれています。○:計画推進の具体的な取組みの中で対応します。-:その他

### 素案に対する意見と対応(案)

ご意見の分類	ご意見の概要	対応	対応案
取組主体	9 「住んでいる人」も「働いている人」もどちらも地域で「生活」していると言えると思う。働いている人も地域の構成員なのだから安全な町をつくる上では、巻き込めたらよいと思う。	◇	西区は昼間人口率が横浜市の中で最も高いという特徴があります。西区で働く方や学ばれている方も地域づくりを共に進めていく主体と位置づけられています。
	10 自分のまちは自分でよくしないといけない。他人に任せられない。	◇	この計画は狭い意味の「福祉」や「保健」だけでなく、生活課題全般を対象としています。目標達成に向け、個人・団体・行政がそれぞれ取り組んでいく計画です。皆さん一人ひとりの取組が計画を進めます。
	11 文章で『子ども』や『高齢者』と書かれているがこの中には障害児や障害者も含めることがわかるような文面にしてほしい。	☆	計画では障害の有無にかかわらず、子ども、高齢者、サポートが必要な人等全ての区民の方と取組を進めていくことを目指していくことを明記します。【18ページ「基本理念と基本目標」、58ページ「推進支援の仕組み」】
	12 区役所、区社協、地域ケアプラザ、区民の連携が大切な時代になっている。よかれと思ってなされる「トップダウン」の考えは利用者にとっては不自由な結果になることもあると思う。	◇	西区地域福祉保健計画は、生活課題を整理し、地域の福祉保健活動を継続し、広げていくための取組を、地区別懇談会や団体ヒアリング、アンケート等を通じて区民の皆さんとともに策定してきました。取組を進めるにあたって、個人・団体・行政・区社協・地域ケアプラザの役割分担や協働により、より住みやすいまちづくりを目指します。
	13 商店街と地域の接点をつくってほしい。	○	商店街や商店街で働く方々も地域づくりを共にすすめていく主体と考えていますので、計画推進を広く働きかけていきます。
	14 一人ひとりにやる気を起こす施策が必要。ボランティア活動に積極的に取り組む気持ちを持ってもらうなど。	○	地域活動の担い手不足や次の担い手育成が課題の一つになっています。区社会福祉協議会、地域ケアプラザでは様々な世代が楽しみながら参加する企画を通じて、ボランティアの発掘や育成をしていきます。
	15 あいさつする、声をかける、イベントに参加等、自分のできることを取り組んできた。目標値が上がったものの多くは法整備が進んだものだと思う。地域では草の根活動をし、行政は意識を高めるなど役割を担ってほしいと思う。	◇	この5年間でさまざまな制度も改正されるなど整備されたことに加え、区民の皆さん一人ひとりの力が生かされて、計画が進んできました。第2期計画においても、個人、団体の活動をより多くの方々に知っていただき、ともに取り組んでいただけるよう行政、区社会福祉協議会、地域ケアプラザも働きかけをしていきます。

素案に対する意見と対応(案)

ご意見の分類	ご意見の概要	対応	対応案
安全なまちづくり	16 一方通行路などにおける違法駐車について、登下校の子どもたちの安全や通勤などの妨げになり、区民の安全を脅かしているため対応が必要。	○	基本目標1【安全が確保され、安心なまち】の達成のためには一人ひとりがマナーを守ることが必要です。自治会町内会や商店街では路上駐輪の排除や朝の交通パトロール等の取組を行っています。PTAでは地域と協力し登下校時の見守り活動も積極的に行っています。行政は関係機関と連携し、地域での活動を支援していきます。なお、いただいたご意見については警察署に伝えます。
	17 安全なまちを作るために、まち全体を明るくしてほしい。(街灯、防犯灯)	◇	自治会町内会では、防犯の取組として、防犯灯の維持管理を行っています。自治会町内会の役割として広く皆さんに知ってもらい、ともに活動してもらえるようPRしている地区もあります。いただいたご意見は、地域の皆さんの話し合いの場等で紹介していきます。
	18 町の中で夜間暗いところがある。ある町内会自治会が夜間の町の明るさをチェックし、町を明るくした事例を聞いたが、他の地区にも広げた方がよいのではないか。	◇	防犯への取組は安心なまちづくりのために進めていく必要があると考えています。基本目標1の中で防犯に関する意識を高める地域での取組が地域で広がるようPRをしていきます。
	19 ひったくり、空き巣、車上あらしなどの事件をマップに落として、地域として欠けているものはないかを確認し、対策を考えることが必要ではないか。	◇	地区別計画の中で防犯への取組を進めていく地区があります。いただいたご意見を地区にお伝えし、行政・区社協・地域ケアプラザも取組を支援していきます。
災害時の要援護者への対応	20 高齢者・障害者など災害時の要援護者にどのような対応が必要か検討していく必要がある。	☆	災害時の要援護者支援の仕組みづくりについて、基本目標1の重点推進目標として定めることとします。区民の関心の高い災害に備えた取組を通じて、お互いのことを知り合い、日ごろから地域で助けあう関係を築き、安全で安心な暮らしを実感できるまちを目指します。 【20ページ 基本目標1 安全が確保され、安心なまち】
	21 社協と障害者の避難所体験をした。普段は理解してもらえないと感じていたことを話せて、理解してもらえたと思う。西区は高齢者も多く、障害者と一緒に防災について考えていけないのではないか。		
高齢者の見守り	22 ふれあい会など地域の中で高齢者の見守り活動を行っているが、若年の障害者の方なども対象にしてほしい。	○	自治会町内会単位で結成されているふれあい会や区老人クラブ連合会の友愛活動でも、一人暮らしや夫婦のみでお住まいの高齢者の見守りや訪問活動などを行っています。見守りの対象を拡大するという御意見は今後の参考とさせていただきます。
	23 他区の社協では防災グッズを高齢者に配布し、定期的な電池交換などをきっかけに訪問をしている例がある。	○	ひとり暮らし高齢者等の見守りについては、現在、隣近所の方、自治会町内会、民生委員・児童委員や老人クラブを始めとしたボランティア団体などが協力しあい、活動しています。普段からあいさつを交わしたり、顔を合わせる方等周囲に働きかけ、共に見守りができる人を増やす取組を進めていきます。
	24 高齢者の見守りは新聞店の方が配達時にポストに郵便物がたまっていないかなど確認してもらおうなど町全体で見守ることが大切。	○	いただいたご意見は、地域の皆さんの話し合いの場等で紹介していきます。

対応区分 ☆:御意見を踏まえ計画案に加えました。◇:素案に含まれています。○:計画推進の具体的な取組みの中で対応します。-:その他

素案に対する意見と対応(案)

ご意見の分類	ご意見の概要	対応	対応案
マナー	25 ペットの排泄物の放置などマナーが悪くなっている。	○	誰もが暮らしやすいまちをつくるためには、一人ひとりがマナーやルールを守って生活することが大切です。基本目標1に「マナーやルールを守り、お互いの信頼を深める」という小目標があります。お互いにルールやマナーを教えあい、行政や団体はマナーやルールを伝える場をつくりま
障害理解	26 区役所、地域ケアプラザ職員が障害への理解や配慮が足りないように思うときがある。	○	基本目標3「一人ひとりの個性を認め合い、みんなが共存するまち」において、障害理解のための啓発講座やサポートが必要な人と共に活動できる場を増やしていくという重点目標があります。目標達成に向け、区民の皆さん、行政、関係機関の職員等の理解を深めるための仕組みづくりについても、区民の皆さんとともに取り組んでいきます。
	27 障害特性を一般に伝えるリーフレットがあるとよいのではないか。	○	
	28 介護する側も障害に対する理解をきちんとしなければいけない。障害の対応の基本をマニュアル化してはどうか？そして、介護サービス事業者への啓発や指導を区として行ってはどうか。	○	
	29 計画には「学校」が抜けていると思う。子どもにきちんとと教育して育てることができれば、障害に理解のある人が増える。学校での福祉教育のあり方を見直してほしい。	☆	
障害者の発信	30 障害者から地域に発信することが大事と言うけれど発信できない。地域に気軽に入っていけない。そんな自分たちがどのように地域の中に入っていけばいいのか。	☆	サポートが必要な人から地域への情報発信について、目標3の重点推進目標に「サポートが必要な人が自分の気持ちや活動を発信し、一人ひとりが地域や社会にかかわりをもちます」を追加し、目標達成に向けたそれぞれの主体の取組を定めます。 【24ページ「目標3 一人ひとりの個性を認めあいみんなが共存するまち」】
	31 障害者も自ら啓発活動をしていかないと地域交流につながらない。		



素案に対する意見と対応(案)

ご意見の分類	ご意見の概要	対応	対応案
地域でのコミュニケーション	32 新しい人に参加してもらうための企画をしながら地区の行事を行っている。行政の行事も地域に密着した内容のものがよいと思う。	○	地区別計画の中で行事を工夫し、地域の交流の場とする地区があります。区域で行事を行う際にも区民の方に企画の段階から参画していただき、地域の特性や普段の活動を広く周知する場となるよう検討していきたいと考えています。
	33 地域にはさまざまな人がいる。まずはあいさつから始める。コミュニケーションがまちを作ると思う。	◇	地区別懇談会ではあいさつの大切さがどの地区でも話題となり、目標や行動計画として掲げた地区もあります。いただいた御意見を地区にお伝えし、行政・区社協・地域ケアプラザも取組を支援していきます。
	34 声をかけ、あいさつをみんなで意識していける地区になれば、西区全体も良くなると思う。	◇	近年、近隣関係の希薄さが問題となり、安全・安心なまちづくりや地域のつながりを広げていくことが課題になっています。ご意見のとおり、身近にお住まいの方へのあいさつから顔の見える関係をつくり、住みよいまちづくりを皆さんとともに目指していきます。
	35 近年自殺が増えているが、地域で孤立しないようにコミュニケーションが取り合えるような取組を考えた方がよい。	☆	皆さんが近隣の人と顔見知りになり、日常生活での支援が必要になった時に見守りあう関係を築くことを目指し、行政、区社会福祉協議会、地域ケアプラザが団体と連携し取組を進めます。また、心の健康づくりの視点で、行政はうつ病の予防に関する啓発や相談できる支援者の支援に取り組みます。 【22ページ「目標2 活気にあふれ、健康なまち」】
一人ひとりと地域のつながり	36 近年、地域の横のつながり、絆が薄くなっている中、どの世代もいきいきと暮らすことができるのか。	◇	第2期計画は「地域のつながり・新たな地域福祉の担い手を広げる」という方向性で策定をしてきました。基本目標4では「どの世代も活躍できる場面を持つ」という重点推進目標を定め、区民の皆さんと誰もがいきいきと暮らしつづけることができるまちづくりを目指していきます。
	37 自治会町内会に入っていない人が増えている。	○	地区別懇談会の中でも地区の課題として、自治会町内会の加入について検討がされてきました。自治会町内会の活動や役割を広く知っていただける工夫や仕組みを皆さんと引き続き検討していきます。
	38 あいさつができる子が増えてほしい。家庭教育が大事だと思う。	◇	基本目標5では「子どもは自分やみんなの子どもとして、みんなで育てる」という重点目標を定め、あいさつを始め、地域の中で子どもを育てる仕組みづくりに取り組みます。
	39 家族の一員として何かができる生きがいになる。家族の絆を通して外とつながっていくことが大切。	◇	様々な事情で家族と離れて暮らす人が増え、一人暮らしや夫婦のみ世帯が増加しています。家族との絆を始めとして人との信頼関係を構築できるよう第2期計画では人と人のつながり、地域のつながりを広げる取組を皆さんとともに進めていきます。
	40 地域の行事を企画したり、サークルに参加し、人と人のつながりの大切さや楽しさを感じることで、次回また参加したいという人が増えると思う。	◇	現在も各地区で盛んに行事が行われ、世代をこえた交流の場となっています。地区別計画では、楽しい時間を共有することで、活動をとっていきっかけをつくるのが大切であるとし、引き続き、取組を進めていきます。

対応区分 ☆:御意見を踏まえ計画案に加えました。◇:素案に含まれています。○:計画推進の具体的な取組みの中で対応します。-:その他

### 素案に対する意見と対応(案)

ご意見の分類	ご意見の概要	対応	対応案
高齢者の交流の場	41 高齢者が気軽に通えるところが少ない。高齢者が集える場所を作ってほしい。	○	区内に誰もが自由に行けるサロンや集える拠点があります。また、身近な福祉保健活動の拠点である地域ケアプラザでは地域の皆さんが気軽に集まり、活動できる場を提供しています。今後もさまざまな世代の方が顔見知りになり、交流できる場を増やしていきます。
高齢者への意見聴取	42 高齢者に生きがいや、やりたいこと、望んでいることなどアンケートを行うとよいのではないか。	○	行政や地域ケアプラザ、地区社協が行う事業や訪問活動の中で高齢者のニーズをうかがい、さまざまな場面、分野、地域づくりに高齢者も参加でき、活躍できる仕組みづくりを推進します。また、団体と連携し、高齢者へのアンケート等の実施については計画の推進において検討します。
情報伝達	43 広報紙やチラシは、高齢者等にわかりやすいものにしないで、情報は伝わらない。	○	基本目標6「必要な情報が正確につたわるまち」では個人は正しい情報を高齢者に伝え、団体や行政、区社会福祉協議会、地域ケアプラザではわかりやすい広報紙やチラシづくりを目指します。
	44 区の広報を配布する立場になって初めてきちんと広報を読むようになった。住民の多くは広報を読んでいるのか疑問である。		
第1期計画の振り返り	45 第1期で掲げていたリーディング事業の達成度はどの程度か。(特にバリアフリーの指針づくりについて)	◇	達成したものと不十分なものがあると認識をしています。第2期計画でも、社会的偏見をなくすための啓発事業の実施や障害者に情報が的確に届くよう取組を進めていきます。
	46 第1期の計画の取組の結果がどうだったのかを記載するべき。	◇	個人、団体、行政の第1期計画における取組結果として、個人は区民アンケートにより意識の変化を図り、団体、行政については、取組数や新たな取組についてまとめ、振り返りを行っています。(素案p.61～)2期計画では、6つの基本目標ごとに重点的に取組を進める「重点推進目標」を結果を確認しやすいように定めます。
	47 1期計画における団体、行政の取組の結果、どうなったかを知りたい。	◇	団体、行政の取組は毎年「振り返りシート」をそれぞれ提出し、結果をまとめ、団体にお返しし、活用していただいていた。取組の結果については、素案の第1期計画の振り返り(素案p.61～)をご参照いただくとともに、団体のヒアリングのまとめでご確認ください。
福祉保健推進の目標値	48 目標値にばらつきがあるがどうやって決めたのか。	—	福祉保健推進の目標値は、第1期計画において設定しました。第2期計画は、第1期計画期間5か年の推移を踏まえ、策定委員会において設定しました。
	49 数値について、細かいパーセントまで表記する必要はないのではないか。目標値の調査方法について教えてほしい。	☆	広く区民へ周知する計画書の概要版などで目標値を示す際は、表記を工夫し、傾向をわかりやすくします。【「概要版」において対応します】調査方法については、西区民2,500人対象、無作為抽出、郵送でアンケートを行いました(回答者1,121人、回答率44.8%)。

対応区分 ☆:御意見を踏まえ計画案に加えました。◇:素案に含まれています。○:計画推進の具体的な取組みの中で対応します。—:その他



### 素案に対する意見と対応(案)

ご意見の分類	ご意見の概要		対応	対応案
表現等	50	記載されている言葉だけ見てもピンと来ない。具体的に誰が読んでもわかるように書いてほしい。	☆	計画策定にあたっては、団体、自治会・町内会の方で構成される策定委員会を設置し検討してきました。わかりにくい用語や専門的な用語等について、巻末に用語集や注釈をつけます。【「用語集」を作成します】
数値データ・グラフ等	51	グラフの標記で西暦と平成が混じっているのを統一した方がよい。また、古いデータの箇所がある。	☆	グラフ等の標記について、平成に統一し、データの時点についても統一しました。【3ページ～9ページ「地域福祉を取り巻く状況の変化」】
文字の大きさ	52	字が小さすぎて高齢者には読みにくい。大きい字にしたり、見出しを大きくしたり工夫してほしい。	☆	皆さんにお読みいただけるように、見出しの字体を変更し、写真や地図、グラフ等を修正しました。また、内容をコンパクトにわかりやすくまとめた概要版を作成します。【計画書全体、概要版】
意見の集約	53	西区全体の計画なら、このような話し合いに参加しない人の意見も吸い上げてほしい。	◇	素案への意見については、FAX、封書、電子メール等でお寄せいただくこととしました。団体には出向いて説明をしたり、各地区の健民祭や区民まつりでアンケートを行う等、多くの方からご意見をいただきました。今後も、皆さんから広くご意見をうかがい、計画や取組に反映させていきます。
まちの整備	54	人のつながりだけでは難しい。ハード面での拡充が必要だと思う。	○	福祉のまちづくり条例等に基づき、誰もが利用しやすい設備の整備についても、必要に応じて関係機関と調整してまいります。
	55	車いすです通るには難しい。歩道橋などのスロープが広いと嬉しい。		
	56	まちづくりの視点でいうと、都市計画が他都市に比べて無計画であるように思う。歩道の広さや街路樹、公園などの整備も充分でないように感じている。		
	57	西区はみなとみらいにお金をかけていて、旧市街地ではケアプラザも坂の上にあるなど、施設面でも住民に目を向けた取組をしてほしい。		
その他意見等	58	高齢者・障害者等も含めた全ての方が自分で移動できるような環境づくりを進めていく視点が欠けているように思う。「ハマちゃんバス」を区民で支え続けることができなかった点から、これ以上路線バスの廃止が進まないよう福祉の視点から生活交通を確保すべく、まずは既存の路線バスをより使いやすくしていくことに取り組むための目標を立てる必要があるのではないか。また、区民に対し路線バスを支えていくには過度のマイカー依存を改め、外出時に路線バスを選択することで街の交通インフラを支えていくための意識改革を促していくことも求められる。	—	関係部署に提案をお伝えします。
	59	浅間コミュニティハウスは地域住民が集ったり、学んだりできる身近な場所である。なくなってしまうと地域で交流できる場が減ってしまう。	—	

## 第2期西区地域福祉保健計画（案）

# ～ 目 次 ～

第1章 第2期西区地域福祉保健計画の策定にあたって	・・・	1
1 横浜市の都市づくりの方向性	・・・	1
2 2025年の西区と地域福祉保健計画が指すもの	・・・	1
3 地域福祉・保健を取り巻く状況の変化	・・・	2
4 第1期西区地域福祉保健計画・西区社協プランの振り返り	・・・	10
5 第2期西区地域福祉保健計画策定の基本的な考え方	・・・	13
6 策定過程	・・・	15
第2章 第2期西区地域福祉保健計画	・・・	17
1 基本理念と基本目標	・・・	18
2 福祉保健推進の目標値	・・・	19
3 区全域計画	・・・	20
4 地区別計画	・・・	32
5 推進支援の仕組み	・・・	58
6 評価の仕組み	・・・	59
参 考 第1期計画の振り返り	・・・	61
団体ヒアリングまとめ	・・・	作成中
用語集	・・・	作成中

# 第1章 第2期西区地域福祉保健計画の策定にあたって

## 1 横浜市の都市づくりの方向性

本市においては、平成 18 年 6 月に横浜市基本構想（\*）（2025 年頃を展望した長期ビジョン）により「市民力」と「創造力」により新しい「横浜らしさ」を生み出す都市を目指すことが示され、横浜市の都市づくりの方向性として、市民主体の地域運営（エリアマネジメント（\*））を支援していくことが示されました。

さらに、平成 21 年 1 月には、大都市・横浜にふさわしい新たな地方自治制度について検討してきた横浜市大都市制度検討委員会（\*）が、報告書「新たな大都市制度（\*）創設の提案」をまとめ、広域自治体（\*）から独立した新しい大都市制度の下で、大都市の地域レベルに「市民協働型の地域自治組織」を設置することが提案されました。

## 2 2025 年の西区と地域福祉保健計画が目指すもの

少子高齢化の進展や世帯構成の変化に伴い、介護を始めとして、地域で支援が必要な人が増えるため、限りある人材や資源をいかし、誰もが安心して生活できるような社会の仕組みをつくる必要があります。地域で暮らす人々が、他人を思いやり、お互いを支えあう気持ちを持ち、住みなれた地域で誰もがその人らしい、安心して充実した生活が送れるような地域づくりを進めるといふ地域の福祉・保健の推進が、ますます重要になっています。

横浜市基本構想が展望する 2025 年は、団塊の世代が 75 歳以上となり、福祉保健サービスの担い手から受け手へ移行し、福祉保健サービスの受け手が大幅に増大することが予想されています。

地域の状態を見ると、現在は、地域とのつながりを持つ意識の低下、交流の場の減少、地域活動の担い手や後継者不足が課題となっています。

このような状態が続き 2025 年を迎えた場合、地域におけるさまざまな福祉・保健活動や日ごろの隣近所の支えあいが衰退し、安心して次世代が暮らすことができなくなる可能性があり、西区も例外ではないと思われます。

しかし一方で、西区は、ふれあい会（\*）や災害時に備えた地域住民による高齢者の見守り活動や幅広い世代が集う健民祭・運動会やおまつりが数多く活発に実施されるなど昔ながらの隣近所の温かな人間関係が残る地域です。

また、近年、人口が増加に転じ、特に今後の地域の支え手となりうる子どもや子育て世代が増えており、その中には、今は仕事が忙しいなど何らかの理由により地域活動への参加ができていないが、今後は参加してみたいと考えている人も多いため、地域とこのような人々との「つながり」ができれば、西区の未来を支える大きな力になります。

西区地域福祉保健計画は、2025 年以降の西区においても、区民・団体・行政・区社会福祉協議会（\*）・地域ケアプラザ（\*）など西区に暮らす全ての人々が力を合わせ、生活課題の解決を図るとともに、地域の力を維持・向上し、「誰もがいつまでもにこやかに、しあわせに、いきいきとくらし続けること」ができる西区を目指しています。

### 3 地域福祉・保健を取り巻く状況の変化

福祉や保健などのさまざまな生活課題に地域全体で取り組む仕組みをつくり、住み慣れたまちで「誰もががにこやかに、しあわせに、いきいきとくらし続けること」を目指した第1期西区地域福祉保健計画の策定から5年が経過し、地域福祉・保健を取り巻く状況は、次のような変化がありました。

#### (1) 福祉制度などの改革

平成18年度に、介護保険法の改正により予防重視型のシステムへ転換が図られました。身近な地域で総合的な相談支援を行う地域包括支援センター(\*)の機能を地域ケアプラザ等で担うとともに、地域密着型サービスが創設されました。

また、障害者自立支援法(\*)の施行により、障害の種別にかかわらずサービス利用の一元化が図られました。

医療制度改革では、療養病床の再編(\*)や在宅医療推進の方向性が示されました。

平成20年3月には、厚生労働省の「これからの地域福祉のあり方に関する研究会」が報告書をまとめ、福祉施策における地域福祉の位置づけを明確にするとともに、地域福祉の推進は、地域における「新たな支えあい」(共助)を確立すること、住民が主体となり参加する場であることなどが提示されました。

#### (2) 横浜市の状況

##### ア 少子高齢化の進展【平成17年度 横浜市将来人口推計】

本市においても少子高齢化が着実に進み、人口がピークになる平成32年には、市民の4人に1人が65歳以上の高齢者(25.6%)となり、15歳未満は約1割(10.7%)に減少する見込みです。これ以降、人口は減少に転じ、高齢化はさらに進むと予測されます。

##### イ 世帯構成の変化【平成17年度 横浜市将来人口推計】

非婚・離婚の増加や、仕事・学業などの都合で家族と離れて暮らす人が増え、平成32年には、一人暮らし(単独世帯)が約49万8千世帯に増加(平成17年と比較し約6万2千世帯増加)するとともに、少子化などにより夫婦のみの世帯数も36万5千世帯に増加(平成17年度と比較し約6万6千世帯増加)しています。

##### ウ 深刻な社会経済状況下における生活困難者の増加【国勢調査より】

都市部では、職がない若者(平成7年7,178人→平成12年21,687人)や生活保護を必要とする家庭の増加(平成15年29,613世帯→平成20年37,429世帯)、ホームレスやワーキングプア(\*)の問題など、個人の責任だけでは解決できない生活困難者の課題が多く見られます。

##### エ 地域の間人関係【平成19年度横浜市市民意識調査】

横浜市民は大都市の希薄な人間関係・近隣関係をそれほど否定的には考えず、程よい距離感を望む市民像(65%)がみられますが、一方で、地域での交流やつきあいを必要と思う市民も多く(77%)なっています。



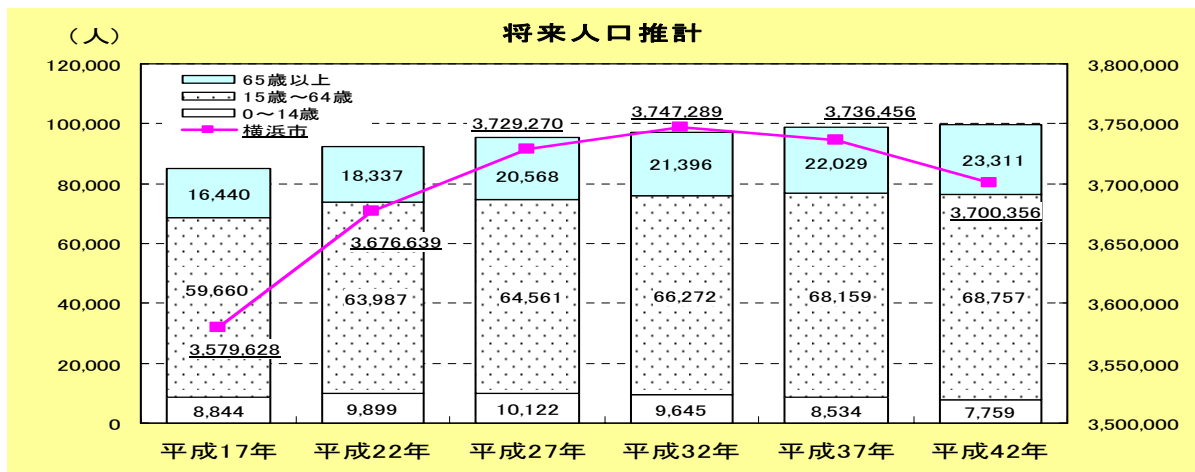
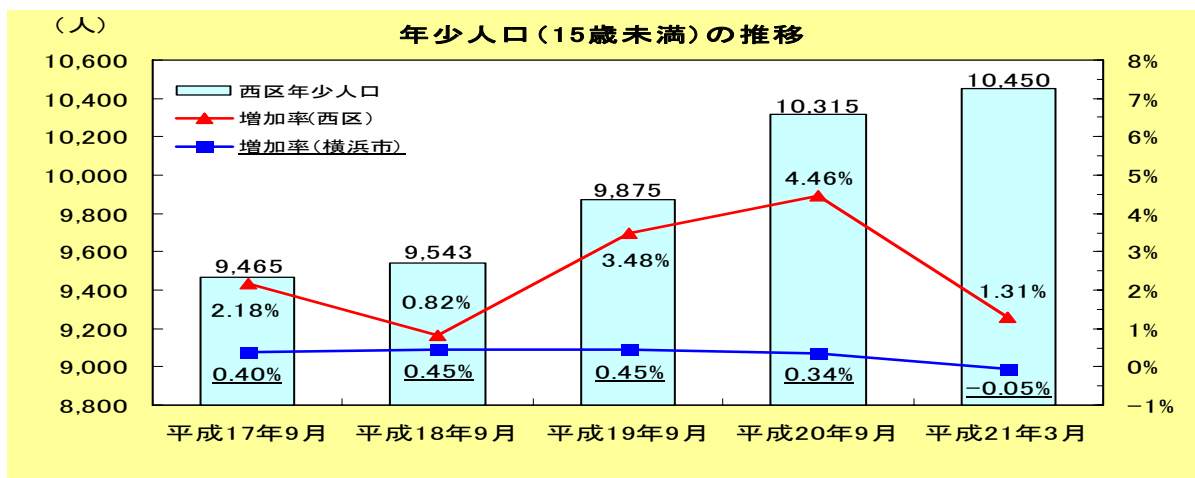
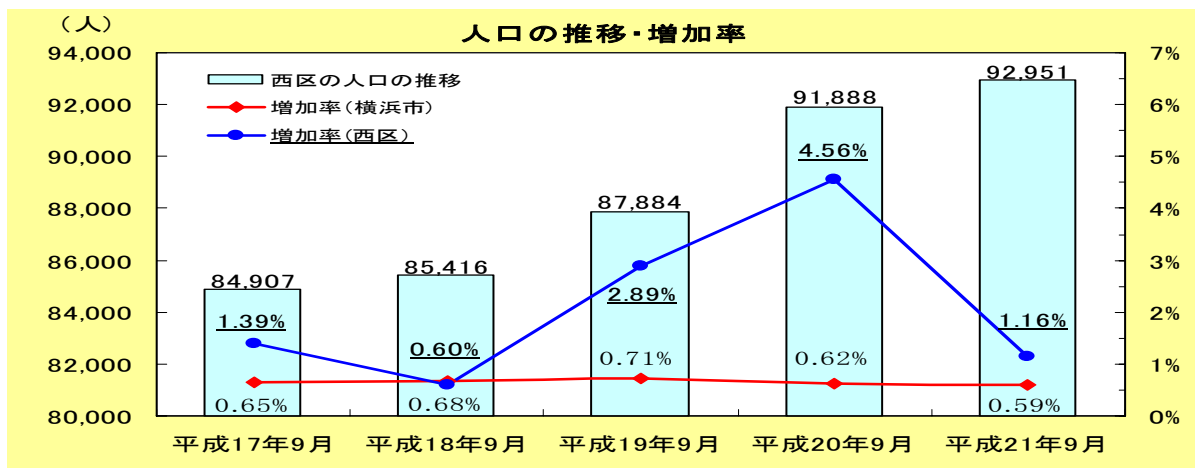
### (3) 西区の状況

#### ア 人口の増加

西区は、横浜市のほぼ中央に位置し、面積 6.98 k<sup>2</sup>、人口 93,852 人(平成 21 年 9 月現在)で、18 区中最も小さい区です。

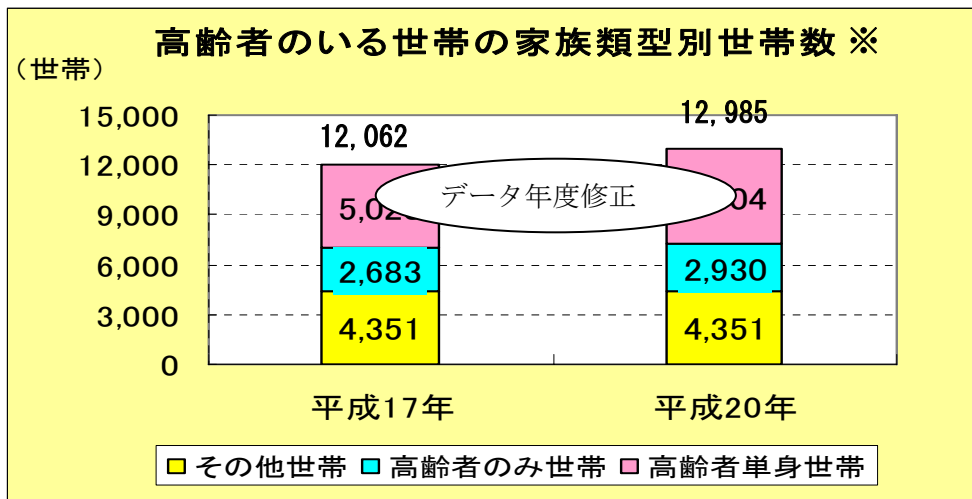
みなとみらい 21 地区を始め横浜駅周辺などの交通至便なところに、マンション開発などが進んだこともあり、平成 9 年度から増加に転じた人口は、平成 20 年 2 月には、33 年ぶりに 9 万人を突破するなど、引き続き高い伸びを示しており、当面この傾向が続きます。

また、横浜市全体は急速な高齢化が進む一方で、西区では近年子どもの数が増加するなど若い世代も増えています。

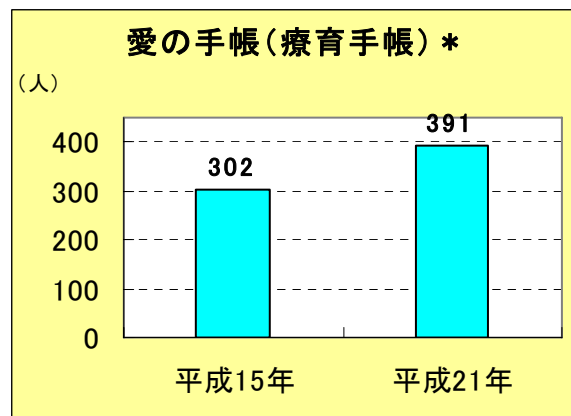
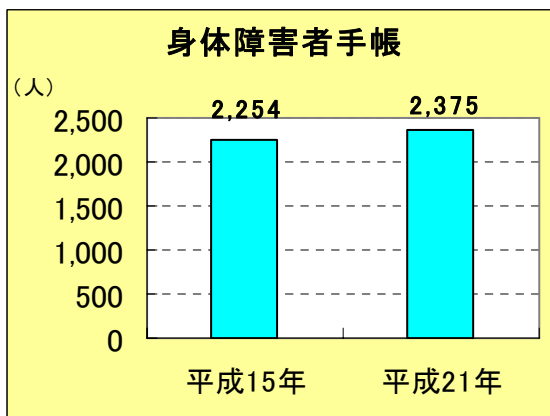


## イ 地域に暮らす要支援者の増加

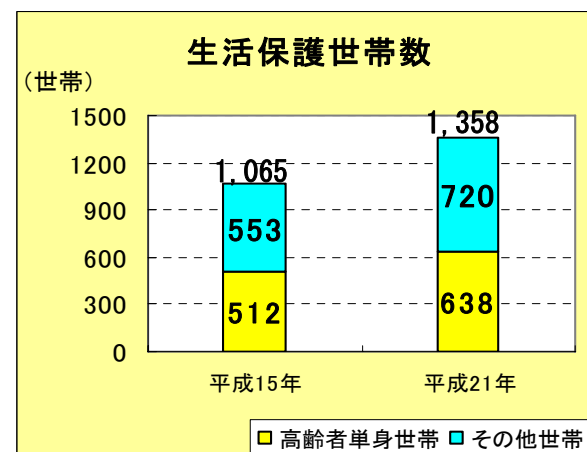
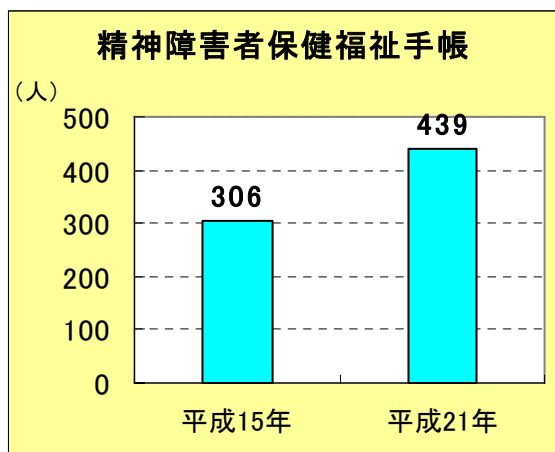
少子高齢化の進展、医療や福祉制度の改革、社会経済情勢の変化により、地域に暮らす支援を必要とする人（要支援者）が増加しています。



※ 住民基本台帳の値（高齢者単身世帯及び高齢者のみ世帯には世帯分離世帯を含む）



※ 知的障害者に交付される手帳



## ウ 福祉保健推進のための基盤整備の充実

西区においても地域の身近な福祉保健を推進するための基盤整備が進んでいます。

平成 20 年 1 月 福祉保健活動拠点（\*）「フクシア」

平成 20 年 12 月 精神障害者生活支援センター（\*）「生活支援センター西」

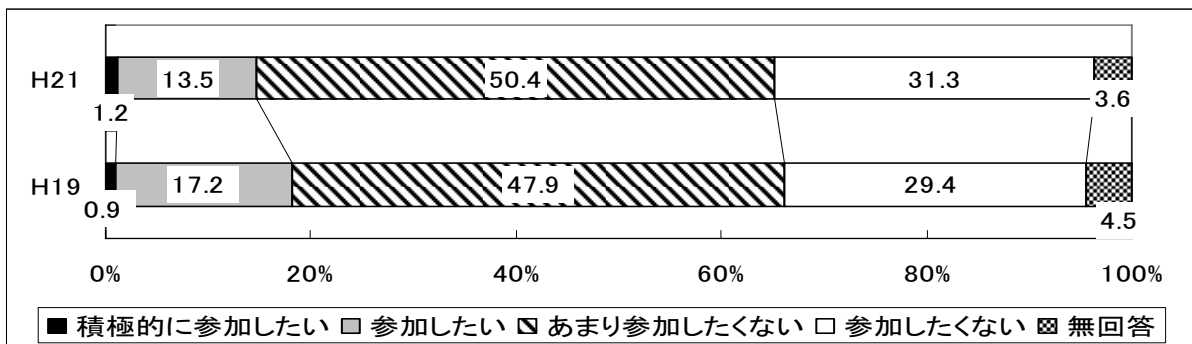
平成 21 年 6 月 法人型地域活動ホーム（\*）「ガッツ・びーと・西」

平成 22 年 1 月 地域子育て支援拠点（\*）「スマイル・ポート」

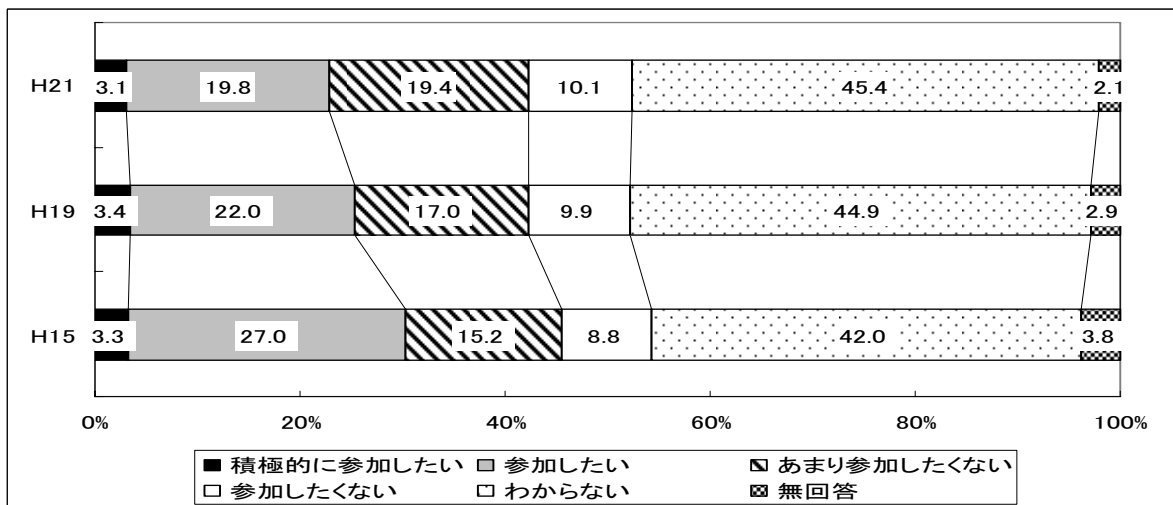
## エ 地域活動に対する区民意識の変化

区民アンケート（意識調査）では、地域活動への参加、異なる世代や障害児・者との交流など地域とのつながりに対する意欲が減少しています。（※区民アンケートは第 1 期計画策定時の平成 15 年、中間振り返りの平成 19 年、最終年の平成 21 年に同様の内容で実施。無作為抽出の 18 歳以上の区民 2,500 人を対象としました。）

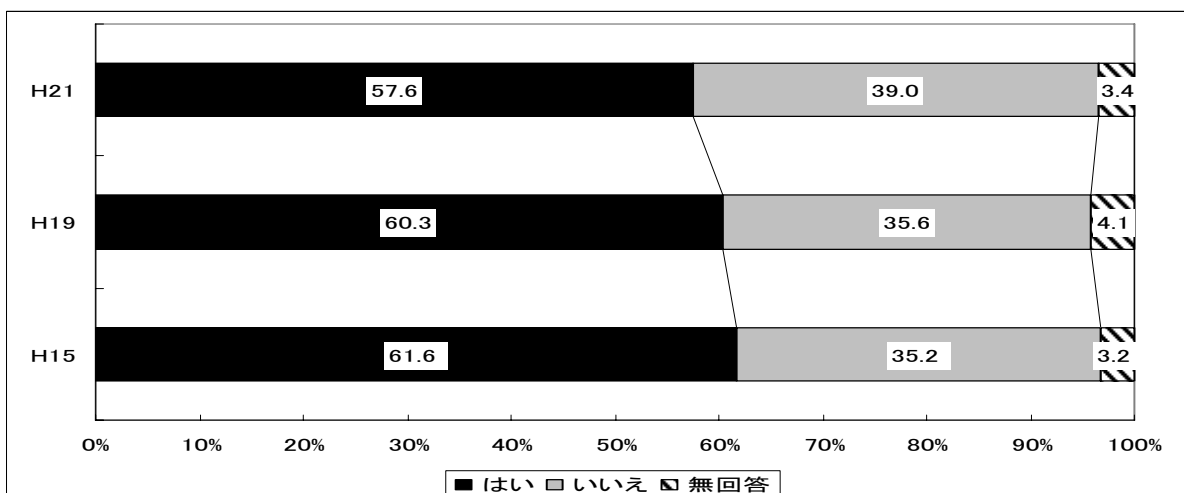
- 自治会町内会などの活動（役員活動）へ参加したいですか  
（「これまで参加したことがない」と答えた人に対する質問の回答）



- 障害児・者と共に活動する機会があれば参加したいですか

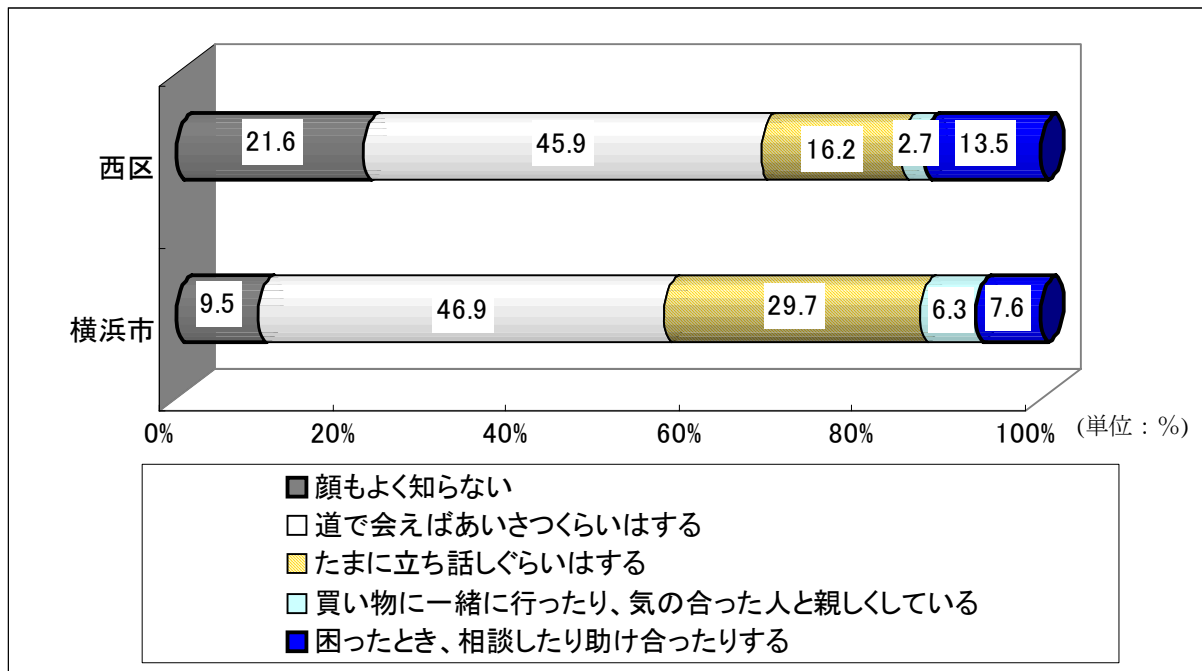


- 困ったことがあったときに近隣の方に助けてもらいたいですか



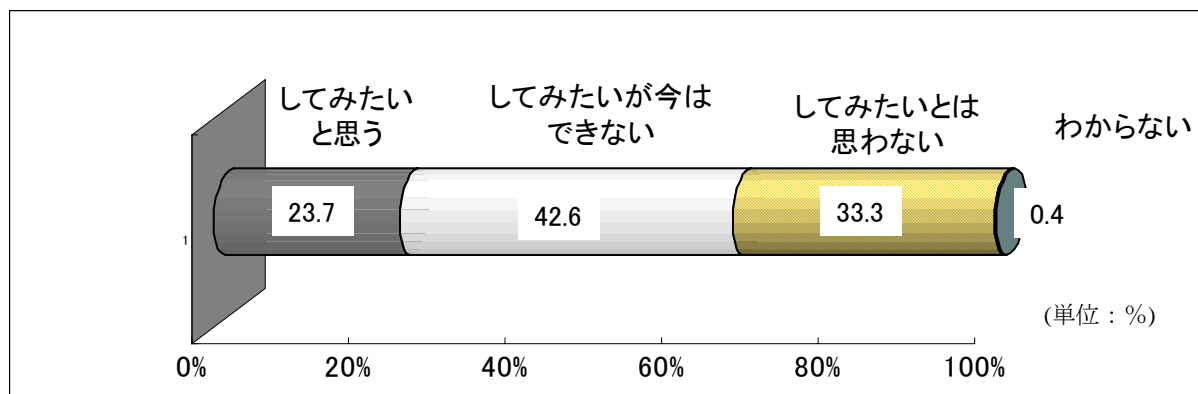
一方、市民意識調査によれば、西区は、隣近所とのつきあい方について、顔もよく知らないと回答した人の割合が18区の中で最も多くなっている反面、困ったとき、相談したり助け合ったりする人の割合も最も多く、昔ながらの隣近所の支えあいや助けあいの関係も残っています。

○ 隣近所とのつきあい方（平成17年度市民意識調査、横浜市）



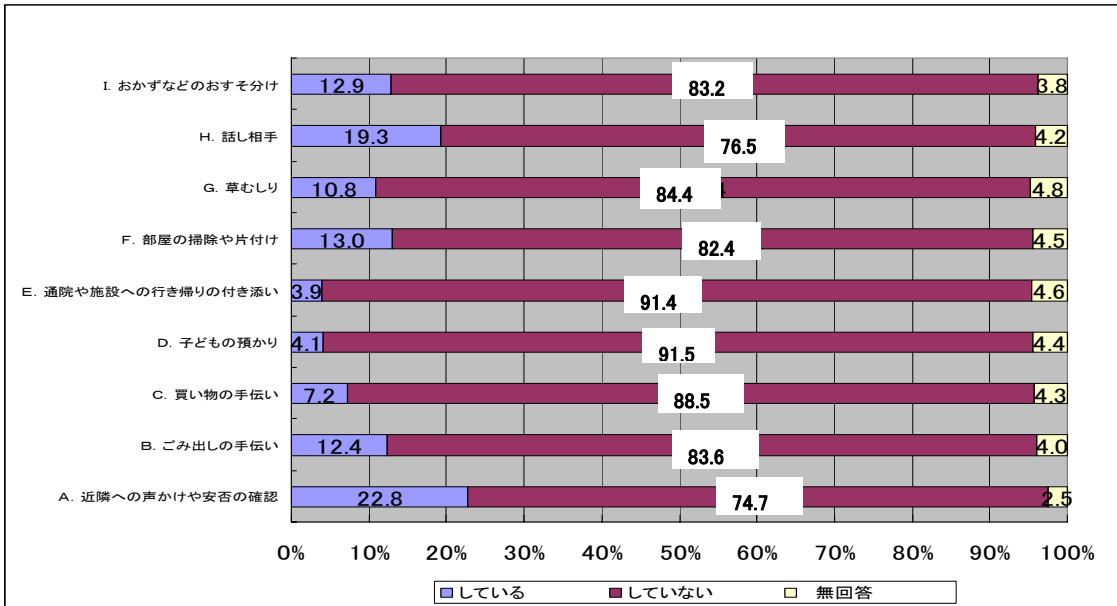
地域活動については、担い手の高齢化や減少、負担の増加などが課題となっていますが、一方で、地域活動へ参加してみたい又はしてみたいが今はできない人が7割近くおり、仕組みやきっかけがあれば、かなりの人が何かしてみたいとの意向があります。

○ 今後の地域活動への参加意向（平成18年度市民意識調査、横浜市）

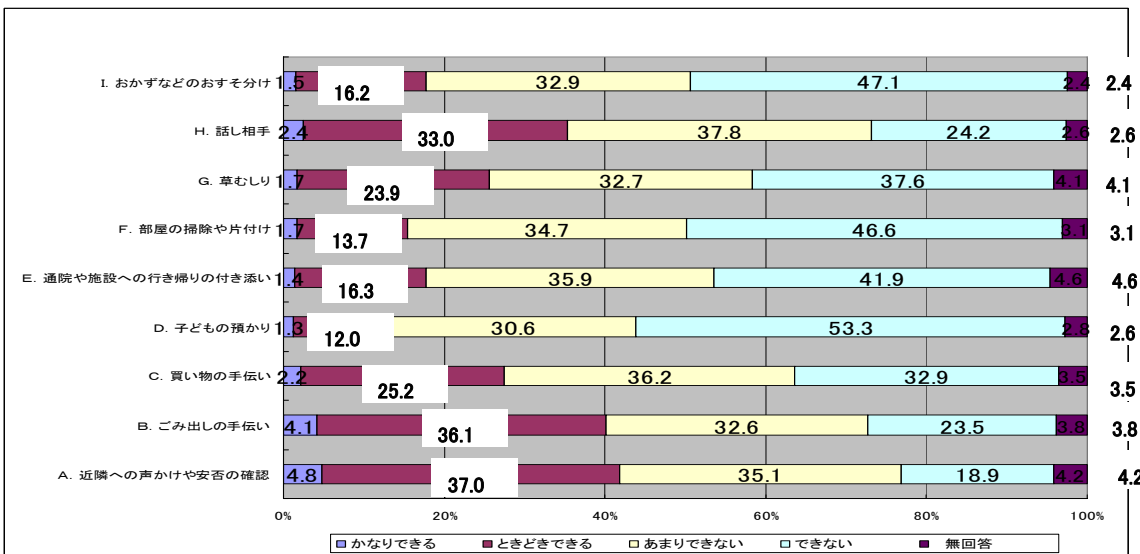


また、西区における区民アンケート（意識調査）でも、現在、地域のさまざまな活動に参加していない人でも、近隣への声かけ・安否確認やごみ出しの手伝いなど項目によっては「できる」と考えている人が4割近くに達しています。

○ 近隣との関係のなかで、ちょっと困っている人がいた場合に、あなたが行っていることがありますか



○ 行っていない場合、今後「できること」はありますか



○ 【参考】自治会町内会運営上の課題について

平成 20 年度横浜市自治会町内会アンケート調査報告書によれば、自治会町内会運営上の課題について、役員のなり手が少ないこと、役員・会員の高齢化が大きな課題となっています。



## オ 地域・課題の多様化 ～地域主体の課題解決の取組が必要に～

西区では、マンション建設などにより、人口増加や人口構成の変化が生じています。

また、住居形態・地形・福祉施設や公園といった利用できる社会資源などが地域により異なり、そこに暮らす人々の生活課題も異なっています。

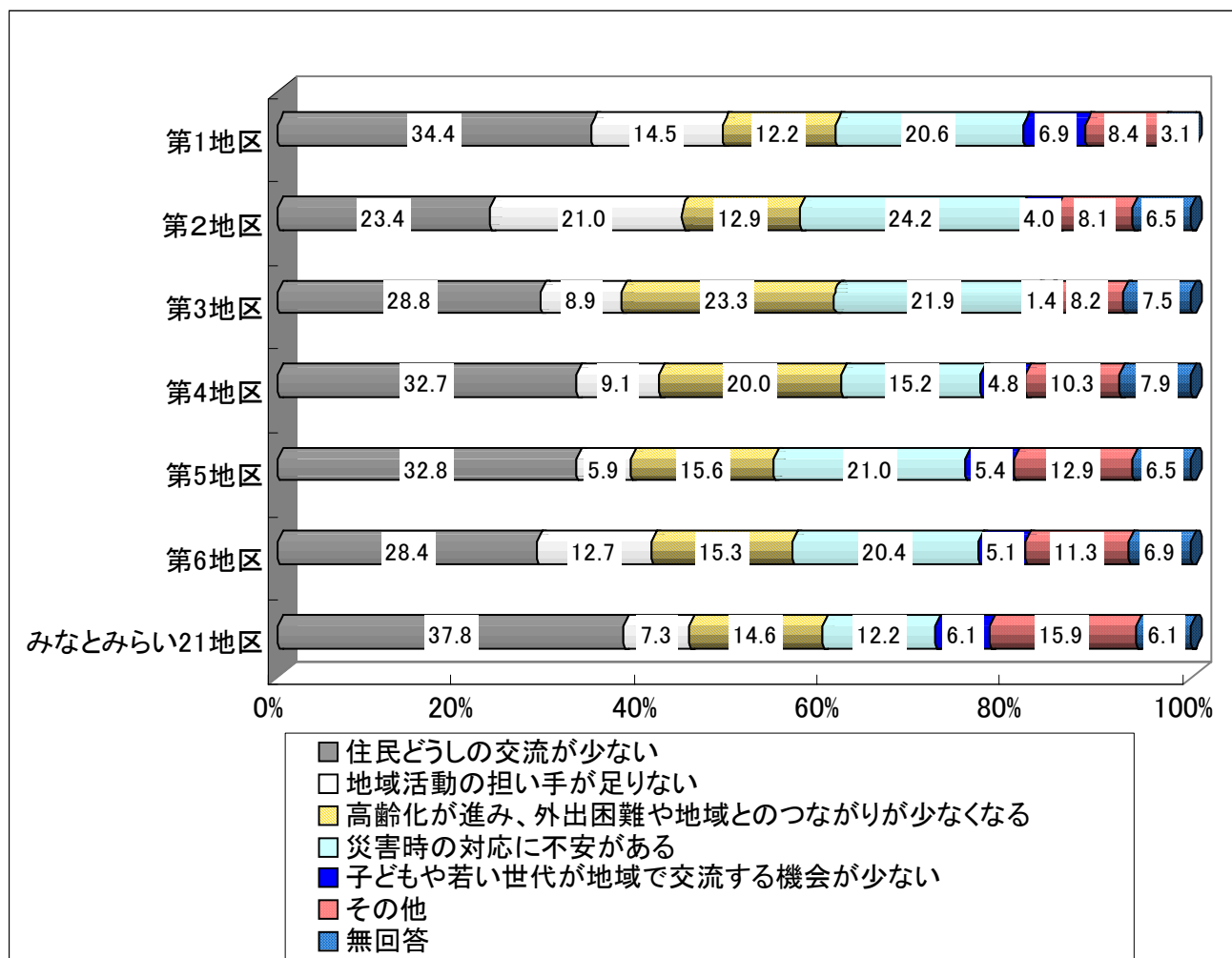
また、地域活動の担い手の減少、住民どうしの交流が少ないことは西区の共通の課題ですが、地区により割合に差が生じています。

区内においては、住民が集える拠点が身近に存在していることや地域の見守り活動が活発に行われていること、おまつりがさかんであることといったそれぞれの地域の特性があります。課題の解決に向けては、これらの地域特性をふまえ、地域が主体的に取り組んでいく必要があります。

### ○ 地域で活動する主な団体の数 (平成20年3月)

組織	総数	1地区	2地区	3地区	4地区	5地区	6地区	みなとみらい21地区
自治会町内会	100	14	11	16	17	20	21	1
ふれあい会	55	9	10	8	11	8	9	0
子ども会	72	7	10	14	11	13	17	0
老人クラブ	72	12	9	16	14	7	14	0

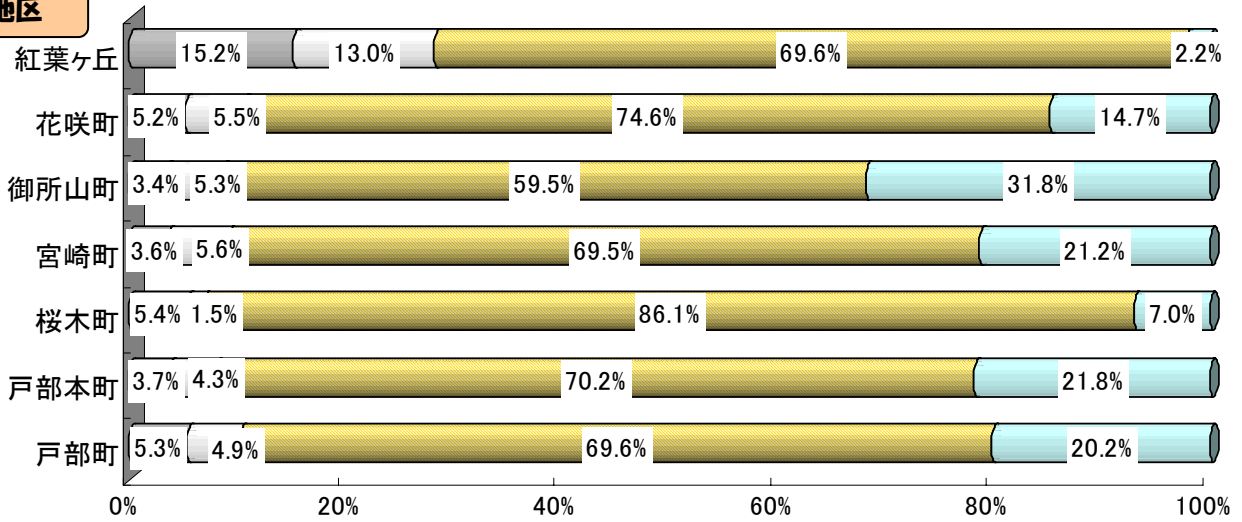
### ○ 住みよい地域にするためどのような課題が解決されるとよいと思いますか



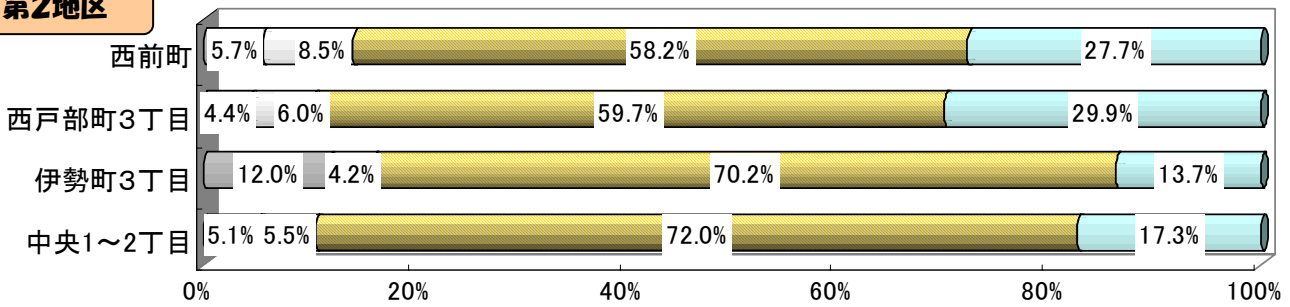
～町別年代別人口割合～



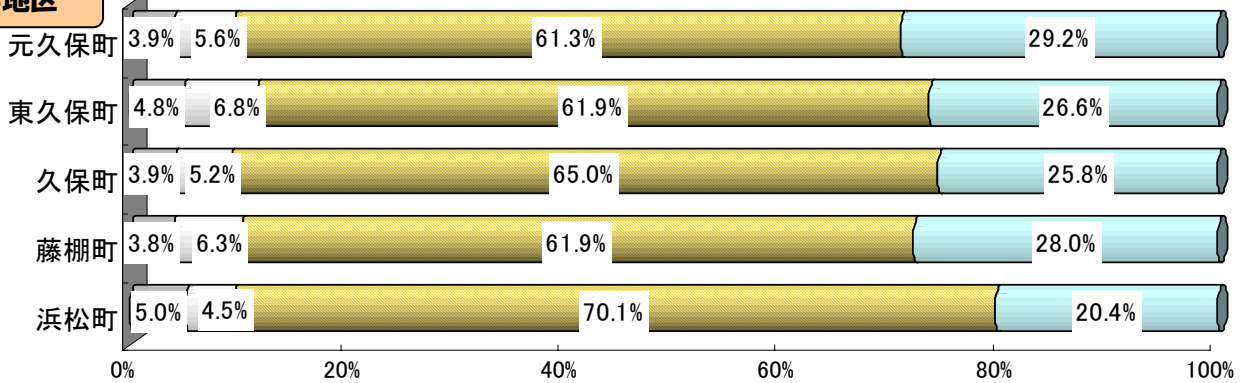
**第1地区**



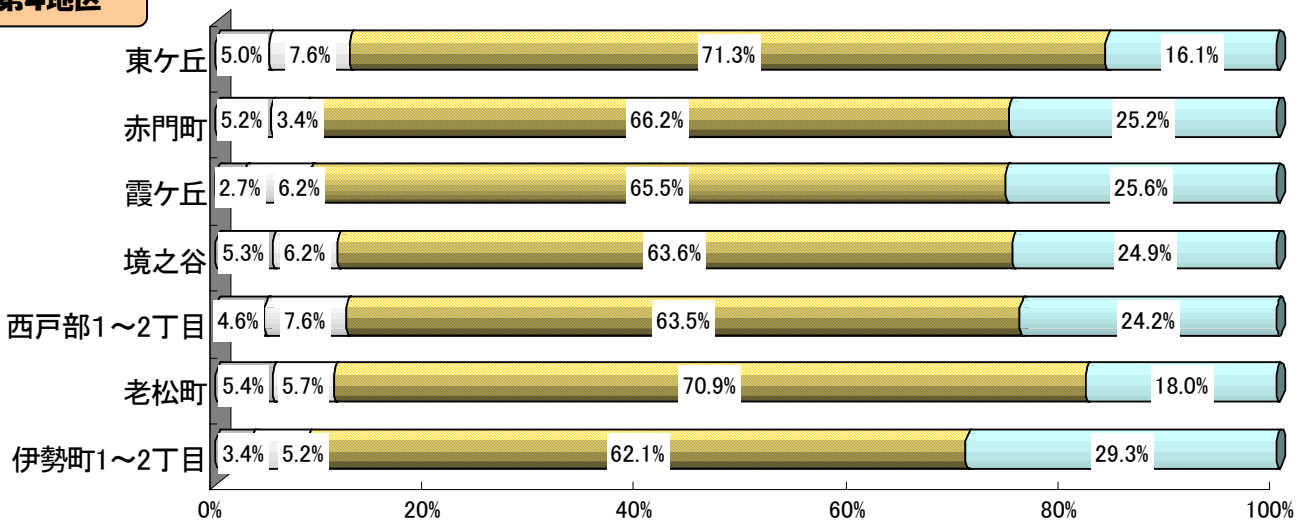
**第2地区**



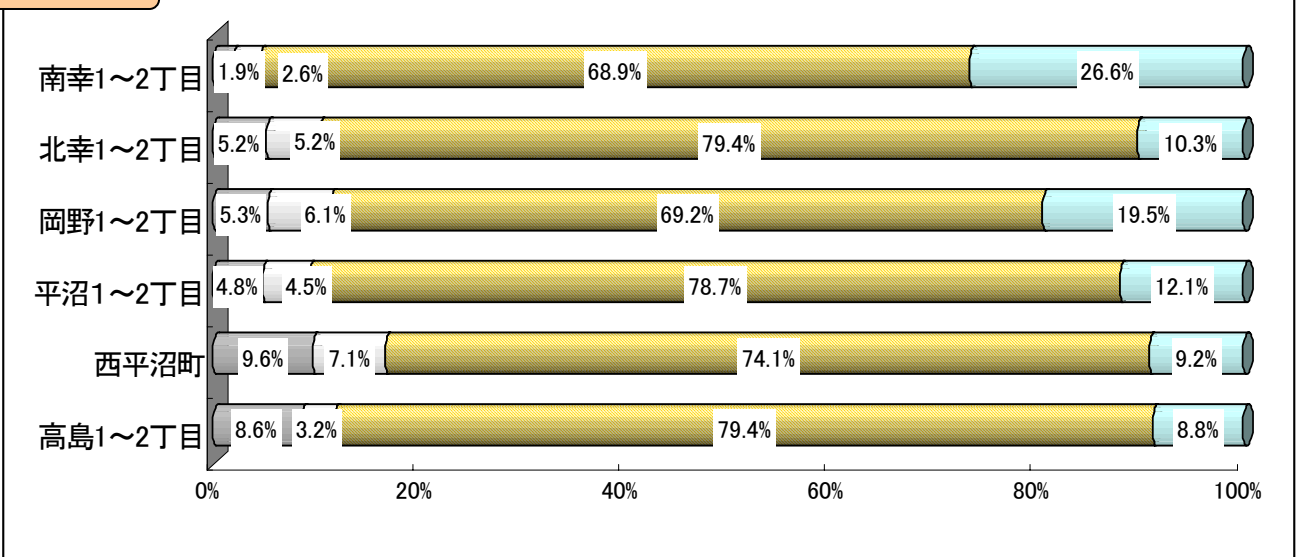
**第3地区**



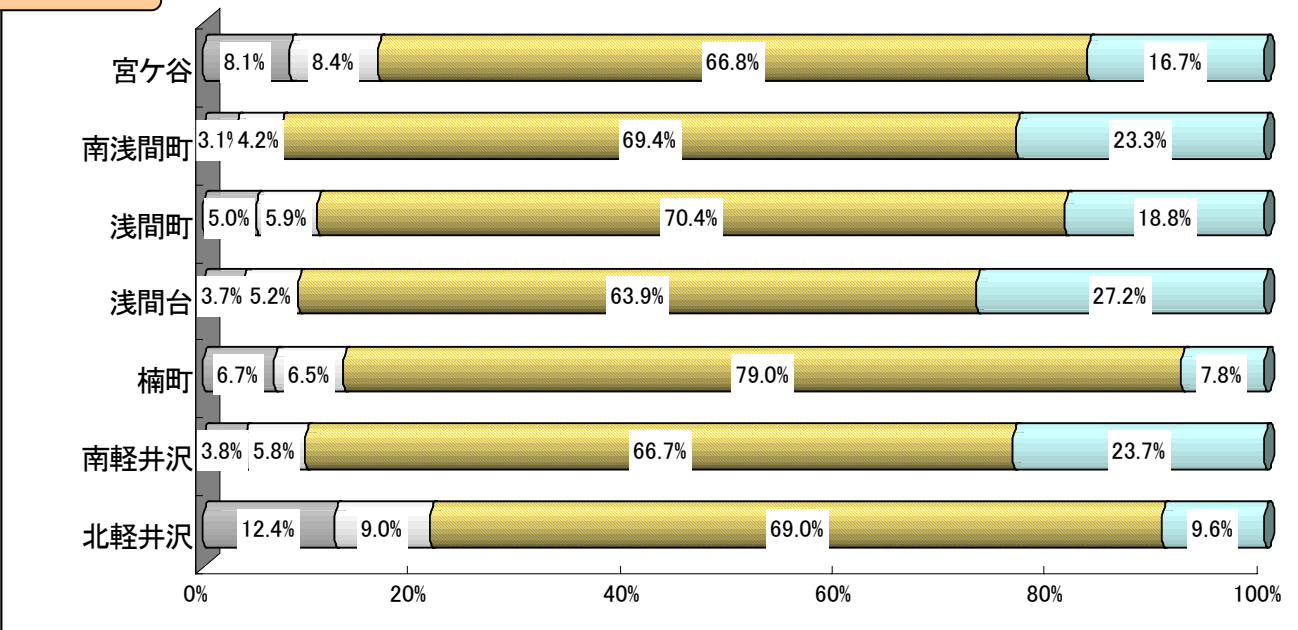
**第4地区**



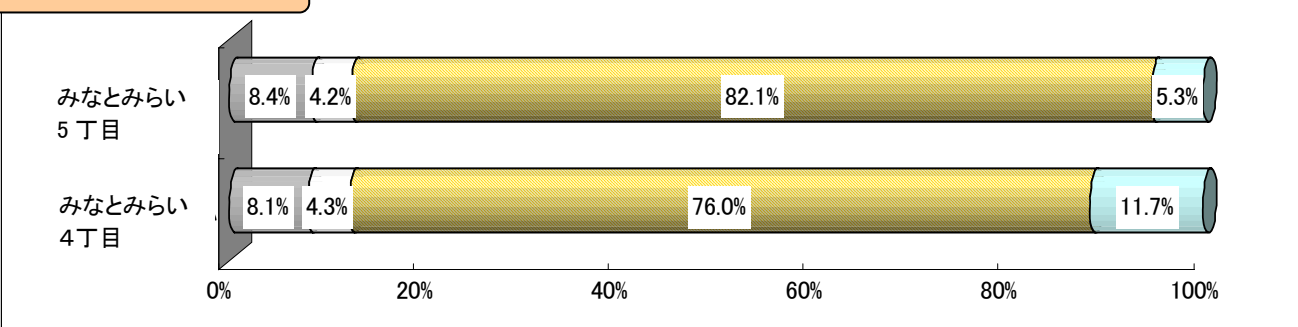
### 第5地区



### 第6地区



### みなとみらい21地区



## 4 第1期西区地域福祉保健計画・西区社協福祉プランの振り返り

西区地域福祉保健計画と西区社協福祉プランはともに、地域で福祉のまちづくりを推進するための計画であり、相互に補完し、連携・役割分担をするものです。

西区においては、第1期においても、同じ目標を掲げ、共同で推進してきました。

### (1) 西区地域福祉保健計画

#### ア 概要

平成17～21年度を対象とし、福祉や保健などのさまざまな生活課題に地域全体で取り組む仕組みをつくり、住み慣れたまちで「誰もがにこやかに、しあわせに、いきいきとくらし続けること」を目指しました。

- 区民の声を広く集め、一緒に考え、策定しました。
- 地域福祉保健推進の指標を設定しました。
- 個人・団体・行政のそれぞれの取組を定めました。

#### イ 取組状況

##### (7) 個人・団体・行政それぞれによる推進

第1期計画は西区全域を対象として、地域の身近な福祉保健課題の解決を目指しました。目標達成に向けた団体や行政の取組は第1期の5か年で大きく増加（振り返りシート（\*）取組数合計 平成17年度 567件→平成20年度 942件）し、それぞれの活動を通じて、区域全体で計画を進めてきました。

##### (4) 災害時要援護者避難支援の取組み

地震や台風などの災害時に、一人暮らし高齢者や障害者などの特別な支援を必要とする人の支援体制づくりが始まりました。災害時に支援を必要とする人の把握や支援の仕組みづくりを通し、地域で日ごろから助けあう関係づくりやつながりづくりを進めています。

##### (ウ) 地区別懇談会の開催

平成20年度からは、地域の特性や課題に合わせ、きめ細やかな計画推進を目指し、地域住民と区役所、区社会福祉協議会、地域ケアプラザがともに地域の課題や解決方法などについて話しあう懇談会を各地区で開催しています。

#### ○地区別懇談会について

地域に暮らす人たちが中心となり、身近な地域におけるきめ細やかな福祉保健の推進を図るための話しあいの場です。

また、懇談会を通じて、区全体で推進してきた取組を、地域特性や課題に合わせ、より身近な地域での取組へと広げていきます。

【開催単位】各地区連合町内会（みなとみらい21地区は今後実施予定）全6地区

【メンバー】各地区で町内会や子ども、障害、高齢者、防犯などさまざまな分野・団体で活動されている方など（各地区で10～18人）、アドバイザー

【支援体制】区役所、区社会福祉協議会及び地域ケアプラザは、支援チームを組んで話しあいに参加するとともに、懇談会の運営や懇談会の取組を支援します。

アドバイザーは懇談会の進め方や他地域の取組などについて助言します。

#### 【懇談会で話しあうこと】

- ① 地域の現状を確認します。  
地区の特性、各団体の活動、地域の拠点、社会資源など
- ② 課題を整理し、地域全体の課題を抽出します。  
課題の優先度や重要度などを確認します。
- ③ 地域の目指す姿（目標）に到達できるように、具体的な活動につなげます。

## (2) 西区社協福祉プラン

### ア 概要

西区社協福祉プランは、平成 18～21 年度を対象とし、区の計画と基本理念と基本目標を共有し、区社会福祉協議会や地区社会福祉協議会（\*）を構成する団体や機関が、自らの役割や特色を活かして、協働しながら取組むことにより、目標が達成されることを目指しました。

○地区社会福祉協議会としての取組みを、区社会福祉協議会の会員全体で検討しました。

○区社会福祉協議会としての取組みを、障がい児・者団体や関係機関、ボランティア活動団体、地区社会福祉協議会を中心に検討しました。

### イ 取組状況

地域福祉の推進を目的としている社会福祉協議会は、その事業実施を通じて目標達成に取り組んできました。

#### (7) 区社会福祉協議会による推進

平成 19 年度に区社会福祉協議会の組織を見直し、課題別分科会（\*）を設置しました。これにより会員が主体的に参加する仕組みができ、地区社会福祉協議会と施設や、ボランティア・市民活動団体などが、互いの活動内容を理解し、テーマに沿った協働の活動を展開しました。

##### ボランティア・市民活動分科会

○基本目標 2 どの世代も活躍できる場面を持つ

- ・活動紹介、担い手募集のために活動紹介紙「みらい」を発行

##### 障がい福祉関係分科会

○基本目標 1 安心が確保され安全なまち

- ・「災害時にサポートが必要な人のための支援マニュアル」（\*）作成

○基本目標 3 一人ひとりの個性を認めあいみんなが共存するまち

- ・障害者週間キャンペーンなどの実施による啓発活動の実施

##### 児童福祉関係分科会

○基本目標 5 子どもが健やかに成長できるまち

- ・「地域での子育て支援」をテーマに研修会を開催

##### 高齢者福祉関係分科会

○基本目標 6 必要な情報が正確に伝わるまち

- ・身近な地域情報提供のために「高齢者おたすけマップ」を作成

#### (4) 地区社会福祉協議会による推進

○基本目標 4 地域全体がつながりを持つまち

- ・地区内で活動している団体間の交流の場づくりに取り組みました。
- ・災害時に支援が必要な人への対応について検討しました。
- ・親子ふれあい会を実施し、地域ぐるみで子育て支援を行いました。
- ・高齢者会食会を実施し、地域全体での見守り活動を行いました。



### (3) 第1期計画の課題

#### ア 地域が主体となった課題解決の仕組みづくり

人口構成・住居形態・地形・福祉施設や公園といった利用できる社会資源などが地域により異なるため、区全域計画を推進するだけでは、一般論になりがちで、支援が必要な人の課題の解決に結びつく仕組みにつながりにくいため、地区の特性・課題に合わせ、きめこまやかにかつ具体的に計画を推進する仕組みが必要です。

#### イ 区計画と区社協福祉プランの一体的な推進

西区の区計画と区社協福祉プランは、第1期においても同じ目標を掲げ、区社協福祉プランの取組主体である区社会福祉協議会（以下「区社協」という）や地区社会福祉協議会（以下「地区社協」という）は、区計画の推進にあたって非常に重要な役割を担ってきましたが、2つの計画が別立てであることは区民にとってわかりにくいものとなっていました。

地域福祉保健計画が住民主体で推進される計画であることから、地域に暮らす全ての人々（個人）・団体・行政が力を集結して「誰もがにこやかに、しあわせに、いきいきと暮らし続けること」を実現するためには、1つの計画として一体的に推進することがなにより必要です。

#### ウ 地域ケアプラザの役割の明確化

地域ケアプラザは、誰もが住み慣れたまちで、安心して暮らせる地域をつくっていくための拠点です。西区では、4つの地域ケアプラザが、担当する地域の特性やニーズにあわせ、福祉・保健活動を支援し、身近な場所で総合的に福祉・保健サービスなどを提供しています。

第1期計画においても、地域ケアプラザは、地域福祉保健計画の推進を念頭において取組を進めており、地域福祉の推進に果たす役割は非常に重要であることから、計画においても明確に位置づけていくことが必要です。

#### エ 健康づくりの視点の強化

健康づくりや保健の活動は、自分らしくいきいきと暮らし続けるために、心身の状態をつくり、保っていくことを目指しています。

健康づくりや保健の取組としては、公的機関が各種の予防事業や情報提供を行うとともに保健活動推進員（\*）や食生活等改善推進員（\*）など保健人材も地域で健康づくり活動を実践してきました。

「健康づくり」は誰もが関係し、関心の高いテーマです。住民主体の健康づくり活動を展開することは地域の活性化にもつながるため、健康づくりの視点を強化していくことが必要です。

#### オ 社会情勢の変化への対応

一層の少子高齢化の進展や社会経済情勢の変化などにより、地域で暮らす人々の生活課題も多様化・複雑化し、個人の努力や公的な支援だけで対応することは困難です。

多様化・複雑化する生活課題を解決するためには、地域において日ごろから顔の見える関係を築き、

- 住民どうしで助けあい・支えあう仕組み
- 支援が必要な人を見つけられる仕組み
- 支援が必要な人が福祉的サービスへつながる仕組み

をつくるのがこれからの社会では一層求められています。

## 5 第2期西区地域福祉保健計画策定の基本的な考え方

### (1) 第1期計画の継承

幅広く多くの区民の声を集めて定めた第1期西区地域福祉保健計画は、計画期間5か年で完結するものではなく、誰もが住みやすい西区を目指すうえで、普遍的・永続的な計画となっています。

そのため、引き続き第2期計画において第1期計画の基本理念や6つの基本目標を継承したうえで、社会の変化などを踏まえた見直しを行い、第2期計画とします。

#### 【基本理念】

西区に住む私たちは健康で楽しく豊かな生活をおくれます。地域での生活に定年はありません。自分たちでできることは自分たちで考え、人々がつながり、地域に根を張り、その枝葉を伸ばしていきます。

#### 【基本目標】

- 1 安全が確保され、安心なまち
- 2 活気にあふれ、健康なまち
- 3 一人ひとりの個性を認めあい、みんなが共存するまち
- 4 地域全体がつながりを持つまち
- 5 子どもが健やかに成長できるまち
- 6 必要な情報が正確に伝わるまち

### (2) 3つの方向性

第2期計画は、横浜市の都市づくりの方向性、地域福祉をとりまく状況の変化及び第1期計画の振り返りを踏まえ、次の3つの方向性に沿って策定します。

#### <方向性1>地域のつながり・新たな地域福祉の担い手を広げます

- ・一人ひとりと地域とのつながりを強化するための取組
- ・新たに地域の福祉保健活動に参加する人を増やすための取組

#### <方向性2>具体的な地域の課題解決の仕組みをつくります

- ・地区の特性・課題を踏まえたプランづくり
- ・地域・団体・行政の協働(\*)による取組

#### <方向性3>支援が必要な人を地域で支える仕組みをつくります

- ・地域におけるセーフティネット(\*)づくり
- ・地域と専門機関のネットワーク構築

### (3) 計画の特色

#### **重点推進目標の設定**

第1期計画の基本理念や基本目標を継承したうえで、6つの基本目標毎に構成されている小目標の中から、「3つの方向性」に沿って、第2期で特に重点的に取り組む項目を「重点推進目標」として選びます。

また、「重点推進目標」を達成するための具体的取組と6年後（第2期計画最終年度）の目標値を新たに設定します。

#### **地区別計画の策定**

地域・団体・行政がともに力を合わせ、地域の課題解決に具体的につなげていくため、区全域計画に加え、各地区別の計画を策定します。

#### **区・区社協・地域ケアプラザの協働の強化**

第1期計画では別々に策定していた区計画と区社協プランを一体化します。

また、区・区社協・地域ケアプラザが協働して計画を推進するため、基本目標毎に三者の取組を定めます。

### (4) 計画の期間

#### **○ 計画期間を6か年とします。**

平成22年度～27年度の6か年を計画期間とします。

### (5) 計画の根拠と位置づけ

市町村の地域福祉計画策定は、平成12年に社会福祉法で定められました。

横浜市においては、地域の生活課題を十分に反映させるため、区ごとに「地域福祉計画」を策定し、市レベルでは区計画を支援するための計画を策定し、推進しています。

## 6 策定過程

区内の福祉保健関係団体の代表者からなる西区地域福祉保健計画推進・評価委員会の下に、策定委員会(\*)を設置しました。策定委員会では、第1期計画の振り返り、区民アンケート及び団体ヒアリングなどを踏まえ、区全域計画をまとめました。

また、平成20年度から各地区において地域に暮らす人々が中心となり、身近な地域福祉を推進するために設置した懇談会において地区別計画案をまとめました。

策定委員会及び西区地域福祉保健計画推進・評価委員会において、区全域計画と地区別計画をあわせ第2期計画としました。

### (主な策定過程)

平成20年 6月	推進・評価委員会(第7回)	懇談会・策定委員会設置
10月～ (～平成22年3月)	地区別懇談会	各地区6～8回開催 地区別計画案の検討他
平成21年 1月～7月	策定委員会(第1回～第4回)	区全域計画の検討他
5月～6月	区民アンケート実施	無作為抽出2,500人・郵送方式 (回答者1121人、回答率44.8%)
7月～10月	団体ヒアリング	37団体
9月	策定委員会(第5回)	素案まとめ
10月	アンケート実施(各地区健民祭など) 推進・評価委員会(第8回)	6会場にて実施(回答者1,011人) 素案確定
11月～12月	素案公表・区民意見募集 素案説明会・意見交換会	郵送・FAX・電子メールなど 4会場にて5回開催
平成22年 2月～3月	策定委員会(第6回) 推進・評価委員会(第9回)	区民意見などを踏まえた素案修正計画案確定
4月	第2期計画スタート	

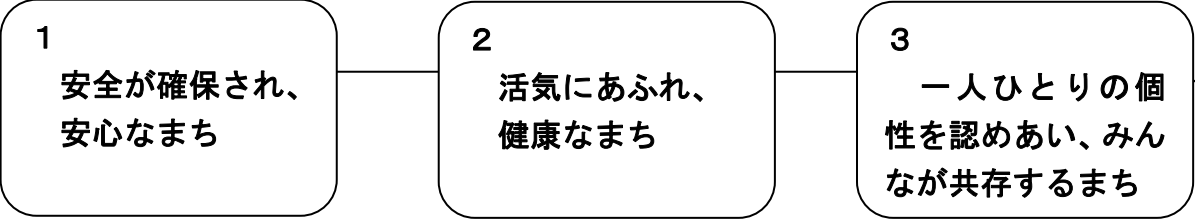
## 第2章 第2期西区地域福祉保健計画



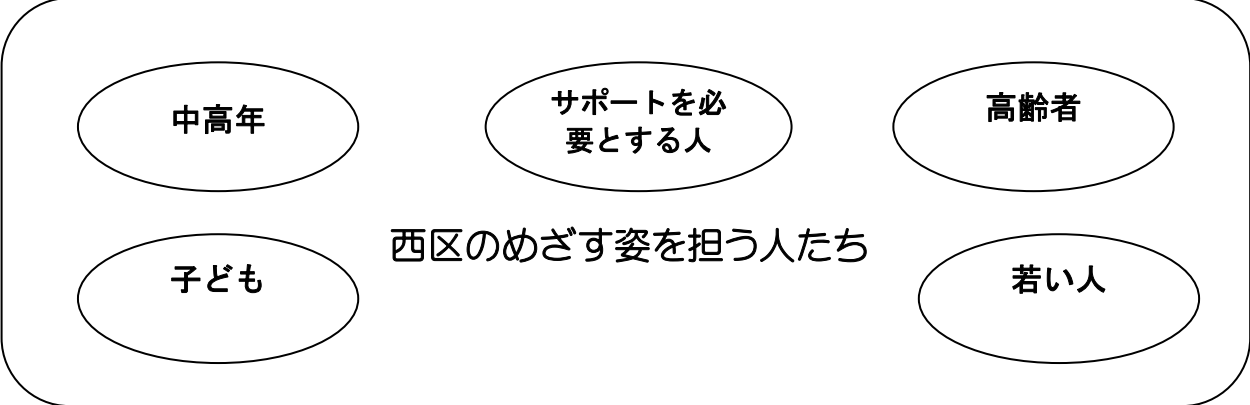
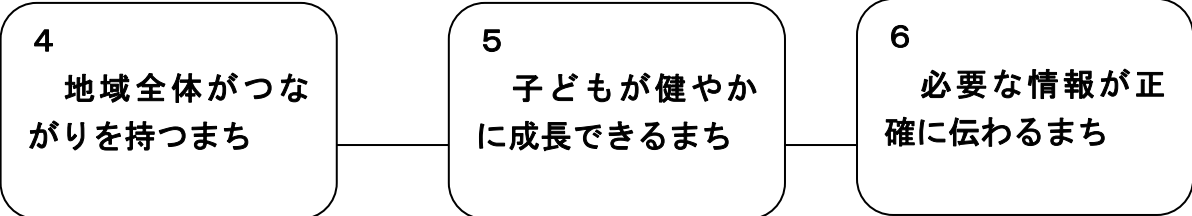
# 1 基本理念と基本目標

## 基本理念

西区に住む私たちは、健康で楽しく豊かな生活をおくれます。地域での生活には定年はありません。自分たちでできることは自分たちで考え、人々がつながり、地域に根を張り、その枝葉を伸ばしていきます。



## 基本目標 西区のめざす姿



～それぞれの世代が、共通したテーマで集まり  
つながりあうことで、基本目標が実現されます～



## 2 福祉保健推進の目標値

地域福祉保健の推進が計画の最終年次である 6 年後にどの程度図られたのかを把握し、判断するため、「福祉保健推進の目標値」を設定しました。目標値が達成されると、西区のめざす姿の実現に近づきます。基本理念の指標である「今後も西区に住み続けたい」と思う人が増えるよう取組を進めます。

目標	項目	平成 15 年度	平成 21 年度	目標値
基本理念	今後も西区に住み続けたい	56.5%	57.7%	90%
1	西区は治安が良く、安全が確保されたまちだと思う	38.1%	56.7%	60%
1	ごみ出しのルールを必ず守る	75.9%	74.8%	100%
1	ポイ捨てをしないというルールを必ず守る	71.3%	78.9%	100%
1	公共の乗り物でのマナーを必ず守る	44.3%	41.0%	100%
1	駐輪・駐車を守る	63.4%	72.2%	80%
1	ルールを守らない人を見かけたときに注意することができる	22.0%	23.0%	35%
2	自分が健康だと感じている	77.9%	79.8%	80%
2	過去 1 年の間に健康診断を受けた	70.4%	70.4%	80%
2	健康診断などの結果、生活習慣病が特にならない	39.7%	45.7%	50%
2	体調が悪くなったときに、相談できるかかりつけの医師がいる	55.0%	54.5%	90%
2	体調が悪くなったときに、相談できるかかりつけの歯科医師がいる	53.1%	53.0%	90%
2	体調が悪くなったときに、相談できるかかりつけの薬剤師がいる	17.8%	21.4%	30%
2	健康を維持するのに必要な身体を動かすことに既に取り組んでいる	35.8%	34.4%	40%
2	健康を維持するために食生活の改善に既に取り組んでいる	47.6%	51.4%	80%
4	家族以外で自分の世代とは違った人と共に活動する機会があった	38.0%	40.1%	70%
4	自分の世代とは違った人と共に活動する機会があれば参加したい	39.4%	36.9%	60%
3	障害児・者と共に活動を行う機会があった	17.1%	16.0%	30%
3	障害児・者と共に活動する機会があれば参加したい	30.3%	22.9%	50%
3	ちょっと困ったことがあった場合に助けてくれる近隣の人や近くの友人がいる	53.9%	49.3%	80%
5	地域で未成年の喫煙をほとんど見かけない	11.1%	27.9%	100%
5	近隣の子どもにあいさつなどの声をかけることがある	57.0%	57.9%	90%
5	近隣の子どもに注意することができる	60.1%	56.4%	90%
6	西区からのお知らせや催し物の情報をホームページから得る	2.4%	4.0%	10%



### 3 区全域計画

第2期計画では、各基本目標の小目標の中から、重点的に取組を進める「重点推進目標」を定めます。「重点推進目標」の実現に向けて、個人、団体、行政、区社会福祉協議会、地域ケアプラザが取組を進める指標として、6年後の目標値を新たに定め、共に推進していきます。

#### 基本目標1 安全が確保され、安心なまち

##### 小 目 標

- ①地域全体でサポートを必要とする人を見守る
- ②近隣の人と顔見知りになる
- ③地域で助けあう関係を築く
- ④マナーやルールを守り、お互いの信頼関係を深める

～第2期計画の重点推進目標～

#### 地域で助けあう関係を築く

災害時の要援護者への支援の仕組みづくり

#### 6年後の目標値

- ◆高齢者や子どもの見守り活動を行う団体数を増やします。  
団体数を 127 団体（現在）→ 135 団体（平成 27 年）
- ◆地域の防災訓練への参加者数を増やします。  
参加者を 約 3,800 人（現在）→ 4,500 人（平成 27 年）
- ◆災害ボランティアネットワーク（\*）への参加団体・参加者を増やします。  
参加団体を 4 団体・31 人（現在）→ 6 団体・46 人（平成 27 年）
- ◆防犯に関する講座、イベントの実施回数を増やします。  
実施回数を 身近な地区で 1 回以上開催（平成 27 年）

#### 目標達成への方向性

西区では、子どもの登下校時の見守り、ひとり暮らし高齢者等の見守り活動など地域の支えあいの取組が活発に行われています。また、第1期計画の5年間では、地域の防犯パトロールでも団体どうしが連携した取組みが広がっていますが、一方で区民アンケートでは、防犯面や災害時の対応が不安との意見が多くあります。

第2期計画では、災害時に支援を必要とする人の把握や支援の仕組みづくりを通して、お互いのことを知りあい、日ごろから地域で助けあう関係を築き、安全で安心な暮らしを実感できるまちを目指します。



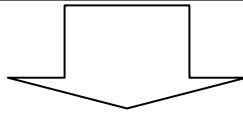
## 目標達成に向けた取組

個人	<p>高齢者や子どもの見守り活動を行う団体数を増やします。</p>	<p>災害時への対応を連携して考えます。(防災訓練への参加者数増、要援護者支援)</p>	<p>防犯に関する講座、イベントの実施回数を増やします。</p>
団体	<p>ひとり暮らし高齢者等の見守りについて、周囲に働きかけ、共に活動できる人を増やします。 【ふれあい会、友愛チーム(*)、民生委員児童委員協議会、西ともしび、みつわの会、ほっと幸せ会、赤い靴】</p>	<p>防災訓練への参加者が増えるよう、団体どうしが連携し、参加を促します。 また、災害時に支援が必要な人へ働きかけ、備えについてともに考えます。 【自治会町内会、災害ボランティアネットワーク、障害者団体】</p>	<p>防犯に関する意識を高め、地域での防犯への取組みを増やします。  【PTA、自治会町内会、警察】</p>
行政	<p>団体間や関係機関のつながりを密にし、見守り体制を強化します。 判断能力が不十分となったり、虐待されているなど自ら声をあげられない人の権利擁護に取組ます。</p>	<p>地域における災害時の要援護者の把握や支援の仕組みづくりを進めます。</p>	<p>防犯に関する講座やイベントなどの実施により防犯への関心を高め、地域での防犯に関する取組を支援します。</p>
区社会福祉協議会	<p>見守り活動を行う団体への支援を行うとともに、新たな担い手向けの研修・講座等を行います。</p>	<p>災害ボランティアネットワークの拡充を推進します。サポートが必要な人が地域の防災訓練に参加できるような情報提供を行っていきます。</p>	<p>ひとり暮らし高齢者等を狙った犯罪を防止するための取組を支援します。</p>
地域ケアプラザ	<p>孤立している高齢者等に対し、区役所と連携して支援し、地域とつなげていきます。</p>	<p>施設内で防災訓練や避難訓練を行います。 地域の防災訓練にも参加し、災害時への備えを行います。</p>	<p>悪徳商法やオレオレ詐欺などひとり暮らし高齢者などを狙った犯罪防止のための講座を実施します。</p>

## 基本目標2 活気にあふれ、健康なまち

### 小 目 標

- ① 自分が健康であるために、健康の意識を高める



～第2期計画の重点推進目標～

自分が健康であるために、健康の意識を高める

### 6年後の目標値

- ◆がん検診・健康診断の受診者数を増やします。  
受診者数 約 5,900 人（現在）→ 8,000 人（平成 27 年）
- ◆ウォーキングへの取組を増やします。  
各地区での取組をすすめ、区内で年間 30 回程度開催（平成 27 年）
- ◆食習慣の改善に取り組む人を増やします。  
区民アンケートで「健康を維持するために食生活の改善に既に取り組んでいる」と回答する人 51.4%（現在）→80%（平成 27 年）
- ◆介護予防講座への参加者数を増やします。  
参加者数 約 1,900 人（現在）→ 2,400 人（平成 27 年）

### 目標達成への方向性

健康は、個人の問題ととらえられがちですが、地域生活の視点で住民がともに健康を考え、共通の課題や対応策を検討することで、幅広い取組や支援を具体化することができます。

第1期計画では、健康維持への関心の高まりともあわせ、介護予防のための体操、ウォーキングや講座など、様々な人が参加して地域で一緒に活動する健康づくりの取組が進められました。

第2期計画では、より多くの人に関心を持ち、楽しんで参加できる取組を実施し、新たに地域活動に参加する区民を増やすとともに、健康づくり活動の場を住民相互の交流・人間関係づくりを進める場にします。

# 目標達成に向けた取組

	がん検診・健康診断の受診率を上げます。	ウォーキングへの取組を増やします。	食習慣の改善に取り組む人を増やします。	介護予防講座への参加者数を増やします。
個人	定期的に健康診断を受け、健康への意識を高めます。	食生活の改善や運動など仲間と一緒に考え、楽しく参加する機会を増やします。		健康への意識を高め、心身の機能を維持することを心がけます。
団体	身近な地域で、検診・健診に関心をもってもらえるよう働きかける機会を増やします。【医師会、歯科医師会、薬剤師会、保健活動推進員会】	ウォーキング等運動習慣を身につける機会を提供します。  【保健活動推進員会】	食の安全を学ぶ機会を増やし、食生活を中心とした健康づくりに取り組む人が増えるよう支援します。  【食生活等改善推進員会】	元気なうちから健康づくりへの関心を持ち、介護予防の取組に参加する人を増やします。  【シルバー体操指導員、老人クラブ連合会】
行政	健康への意識を高め、がん検診の受診率を上げます。 また、うつ病の予防について広報等で広く啓発し、相談できる支援者の育成を図ります。	運動習慣を身につける機会を提供する団体を支援します。	食を通じての健康づくりを推進し、食育活動(*)を提供する団体を支援します。	介護予防のための健康づくりへの取組を支援します。 介護予防講座を実施し、いきいきと地域で生活できるよう支援します。
区社会福祉協議会				会食会や高齢者サロンなど、居場所づくりを進めます。
地域ケアプラザ	地域住民に健康づくりに関する啓発を行います。	地域での行事等で介護予防体操等を紹介し、普段から健康維持に努められよう働きかけます。	男性の料理教室や子育て支援の事業等を通じて、幅広い世代に食の大切さを伝えます。	介護予防講座を実施し、いきいきと地域で生活できるよう支援します。

## 基本目標3 一人ひとりの個性を認め合い、みんなが共存するまち

### 小 目 標

- ① 地域と接点を持つ
- ② 自分からも気持ちを伝える
- ③ サポートを必要とする人をありのままに受け入れる姿勢を持ち、支援をする
- ④ 障害児は、いろいろな人といろいろなところ（場面）で多くの体験をする

～第2期計画の重点推進目標～

(Ⅰ)サポートを必要とする人が自分の気持ちや活動を発信し、一人ひとりが地域や社会にかかわりを持ちます

(Ⅱ)サポートを必要とする人をありのままに受け入れる姿勢を持ち、支援をする

### 6年後の目標値

- ◆作業所や自主活動グループ、団体などの活動を広く紹介します。（広報紙の発行、ちらし作成、ホームページに掲載）  
取組団体数（延べ数）約 60 団体（現在）→70 団体（平成 27 年）
- ◆サポートを必要とする人（\*）についての啓発講座への参加者や共に活動できる場（イベント自治会町内会活動、小中学校での活動等）を増やします。  
啓発講座等への参加者数 約 950 人（現在）→1,100 人（平成 27 年）  
行事への作業所や自主活動グループ等の参加団体数（延べ数）  
約 40 団体（現在）→60 団体（平成 27 年）

### 目標達成への方向性

障害の種別にかかわらず一元的に福祉サービスを利用できる仕組みとして障害者自立支援法が制定され、西区では、（法人型の）障害者地域活動ホームや精神障害者生活支援センターが開所するなど、近年、障害児者が地域で生活するための基盤整備が進みました。

第2期計画では、地域の拠点を中心に地域とのつながりづくり、関係づくりを進めます。また、障害児者を始めとしたサポートを必要とする人が、自らの活動や気持ちを発信し、地域に溶け込み、いきいきと暮らし続けることができるような仕組みづくりに取り組めます。



# 目標達成に向けた取組

目標達成に向けた取組				
作業所や自主活動グループ、団体等の活動を広く紹介します。		サポートを必要とする人についての啓発講座への参加者や共に活動できる場を増やします。		
	自ら伝える	互いの理解を深める	共に活動する	関係団体の連携
個人	サポートを必要とする人が自分から気持ちや状況を伝えます。	認知症の人や障害児・者への理解を深め、身近な地域で生活できるよう支援します。当事者もできる範囲で地域や社会とかかわりを持ち発信します。	近隣でサポートが必要な人に声をかけ、安否確認や話し相手、ごみ出しの手伝いなど自分ができることを手伝います。	
団体	障害者団体は自分たちの活動状況を発信します。 【みらい工房西、はーと工房、西区生活支援ネットワーク、生活支援センター西、まつぼっくり会学校部、無限夢工房、手をつなぐ会、エプロンよこはま】	認知症の人や障害児・者への理解を深め、見守る人を増やします。 【キャラバンメイト(*)、あけぼの会、'98 愛ネットワーク、みらい工房西、さくら連絡会、第一戸部荘、レスパイト・ケアサービス萌】	町内会活動、行事、イベント等を行う時にサポートが必要な人に声をかけ、ともに活動します。【自治会町内会、小学校・中学校、手話サークル西、自主活動グループ、はーとメンバーズ自治会、獣医師会】	障害者団体、作業所、グループホーム、民生委員・児童委員等関係機関は課題等を話しあい、連携して活動を進めます。 【自立支援協議会(*)・障がい福祉関係分科会、はーとの会、どりーむ横浜二番館】
行政	障害者団体、作業所などの活動を紹介し、活動の活性化を支援します。		障害理解のための啓発講座を開催し、共に活動する機会を増やす支援をします。	障害者団体、作業所、グループホーム等関係機関のネットワークをつくる自立支援協議会を支援します。
区社会福祉協議会	当事者団体が、自らの活動を伝えるための発信力を高めるよう支援していきます。	認知症のある人や障がいのある人等サポートを必要とする人に対し理解を深めるため、研修会・講座等を開催し啓発に努めます。	当事者団体等が主体となって行う「共に活動する機会づくり」を支援します。	自立支援協議会に参加し、関係機関との連携を推進します。当事者団体のネットワーク化を一層推進します。
地域ケアプラザ	ケアプラザまつりや行事等で作業所の製品を紹介したり、事業の中で日頃の活動を伝える機会をつくります。	認知症の人や障害児・者への理解を深める研修会を実施し、地域でサポートできる人やキャラバンメイトを広めていきます。	作業所や障害者団体と連携し、地域との交流の機会をつくります。	自立支援協議会に参加し、支援の輪を広げていきます。

## 基本目標4 地域全体がつながりを持つまち

### 小 目 標

#### 【団体どうしが連携する】

- ① 自分たちの活動を見つめなおす
- ② 関係する団体どうしの連携を図る

#### 【地域活動に参加する】

- ③ 共に地域をつくる姿勢を持つ
- ④ どの世代も活躍できる場面を持つ

～第2期計画の重点推進目標～

(I) 関係する団体どうしの連携を図る

(II) どの世代も活躍できる場面を持つ

### 6年後の目標値

- ◆連絡会や講座、行事などに新たな団体と共に取り組みます。  
団体が新たな団体と1回以上連携して取り組む。
- ◆学生、子育て世代、団塊の世代、高齢者など対象者にあわせて、活動に関心を持ってもらう講座や行事を増やします。  
担い手育成の講座・行事の参加者数 約780人（現在）→940人（平成27年）
- ◆ボランティア・市民活動を行う団体への助成に取り組みます。  
活動を活性化するための助成金を活用している団体数  
41団体（現在）→61団体（平成27年）

### 目標達成への方向性

(I) 第1期計画の5年間では、地域の福祉保健を推進する団体の取組数が増加するとともに、特定のテーマに沿って活動するNPO(\*)等の団体も増えてきています。

一方で、同様の取組を同じ時期に複数の団体が行っていたり、構成員の減少や高齢化が進むなど、担い手不足が大きな課題となっています。

第2期計画では、関係する団体どうしがお互いを知り、個性を認めあいながらゆるやかにつながり、協力することで、担い手一人ひとりの負担軽減を図り、地域の福祉保健を一層推進します。

(II) 自治会町内会やボランティアグループでは、活動を支える担い手不足や次の担い手育成が大きな課題となっています。

退職期を迎えた団塊の世代や中間層など幅広い世代の区民が、自治会町内会やボランティアなどさまざまな場面・分野、地域づくりに参加でき、活躍できる仕組みづくりを推進します。

目標達成に向けた取組

		連絡会や講座、行事等に新たな団体と共に取り組みます。		学生、子育て世代、団塊の世代、高齢者等対象者にあわせて、活動に関心を持ってもらう講座や行事を増やします。	
		互いの活動を知る	団体間の協力	世代間の交流	活動者を増やす
個人				掲示板や回覧等、地域情報に目を向け、関心があるものから参加します。	活動している人が身近な人に声をかけ、活動を伝え、参加するための橋渡しをします。
	団体	自分たちの活動を他の団体や周囲に伝える工夫をします。  【CLIPあこーん、サポート西】	同様のテーマで取組を行っている団体と協力しあって行事等を行います。  【ボランティア分科会、西保護司会】	行事や講座等を企画する際は、各世代が交流できるような工夫をします。  【デイサービス事業者、地区社会福祉協議会】	企画した行事を通じて、知りあった人に声をかけたり、参加の方法(時間の提供、技術の提供、アイデアの提供)を柔軟に考え、活動者を増やします。  【'98愛ネットワーク、老人クラブ】
行政		にしく市民活動支援センター(*)を中心に団体間の連携と活動の活性化を図ります。	地域活動を行なっている団体の活動を紹介し、団体どうしが共に活動するきっかけをつくります。		
	区社会福祉協議会	当事者やテーマ型の団体が地域生活に密着した活動を行えるよう、地域と連携できる仕組みづくりに取り組みます。		西区ボランティアセンターとして、新たな活動者育成のための研修や講座を実施します。西区在住者に限らず、在学・在勤者(企業)とも一緒に活動できる場面づくりをします。	
地域ケアプラザ		地域の団体、ボランティアグループ、サービス提供事業者等が交流できる場を提供します。		様々な世代を対象とした事業を実施し、地域とつながりが持てるよう支援します。	ケアプラザまつりや講座等様々な世代が参加する場を通じて、ボランティアを発掘、育成します。

## 基本目標5 子どもが健やかに成長できるまち

### 小目標

- ① 自分のからだを大切にする
- ② 良いこと、悪いことの判断力を身につける
- ③ 周りの大人は子どもを気にかけて、声かけや見守りをする
- ④ 子どもは自分やみんなの子どもとして、みんなで育てる

～第2期計画の重点推進目標～

子どもは自分やみんなの子どもとして、みんなで育てる

### 6年後の目標値

- ◆ 地域と子どもが交流する機会を増やします。  
地域の親子どうしが顔見知りになる場への参加者数  
約 5,200 人（現在）→7,600 人（平成 27 年）  
身近な地域の中で子育ての相談をする機会  
約 4,340 件（現在）→4,340 件（平成 27 年）  
※0～4 歳以上人口は 1 割減の見込みのため、現在の水準を維持
- ◆ 地域と学校、幼稚園、保育園の交流や育児支援の機会を広げます。  
交流回数 約 260 回（現在）→320 回（平成 27 年）  
育児支援の件数 約 920 件（現在）→ 1,100 件（平成 27 年）
- ◆ 福祉教育や体験学習に参加する人数  
約 460 人（現在）→ 550 人（平成 27 年）（延べ数）

### 目標達成への方向性

第1期計画の5年間で、西区の0～6歳の子ども数が大きく増加し、区民の子育て支援へのニーズは高まっています。

地域では、親子のふれあいや交流の場の提供、子育て情報の発信などが各団体・行政により行われています。

第2期計画では、子どもが幼い頃から地域とのかかわり方を学び、自分が周囲の大人から見守られていると感じ、心豊かに健やかに成長できるまちを目指します。

また、西区地域子育て支援拠点を中心に子育てに関する取組を行う団体がネットワークをつくり、子育て中の親の頑張りを地域で支えます。



目標達成に向けた取組

		地域と子どもが交流する機会を増やします。		地域と学校、幼稚園、保育園の交流の機会を広げます。	
		子どもを見守る	健全な心の育成	団体の連携	相談できる場を増やす
個人		幼少の頃から地域の行事に参加し、近隣の人と顔見知りの関係を築きます。	大人から声をかけ、見守ることで、子どもは自分が大切にされていると感じ、思いやりを学びます。		
	団体	地域で子どもを見守る大人が増えるよう働きかけ、地域と子どもをつなぎます。 【PTA、主任児童委員】	さまざまな体験を通じて、社会のマナーやルールを学び、豊かな心を育む機会をつくります。 【幼稚園・保育園】	各地区で行われている子育て支援の取組が広がるよう互いに協力しあいます。 【児童福祉関係分科会】	子育ての悩みを受け止め、子育て世代が孤立することのないよう支援します。 【幼稚園、保育園、更生保護女性会(*)】
行政		赤ちゃんの時から地域とつながるきっかけづくりを支援します。(西区地域子育て支援拠点・赤ちゃん教室)	学校と連携し、命の大切さを学ぶ機会を増やします。(小学生～中学生)	西区地域子育て支援拠点を中心とした団体のネットワークづくりに取り組みます。	身近な子育て支援の場として、保育園の保育機能の充実を図ります。 (未就学児)
		学校はPTAや地域の団体と協力し、子どもの見守り体制づくりに取り組みます。	学校は人権や福祉教育の中で地域とのふれあいや施設での体験学習を通じて、健やかな心を育成します。	学校を地域に開き、家庭・地域と連携して子どもの成長を支えあいます。 (学校開放、学びの支援、地域行事への参加)	
区社会福祉協議会	地域ぐるみで子育てを支援する関係をつくっていきます。 (親子ふれあい会など)	小中学生を対象とした福祉教育の中で、福祉についての理解を深めていきます。	子育て支援拠点とともに関係施設・団体と連携し支援の輪を広げます。	子育てに関する情報提供や関係機関との連携を深めます。	
地域ケアプラザ	デイサービス等の地域の利用者と子どもが交流できる場を提供します。	小中学生の福祉体験の場を提供し、地域とつながるきっかけをつくります。		親子支援の講座や事業を実施し、子育てに関する情報提供や楽しく活動できる場をつくります。	

## 基本目標6 必要な情報が正確に伝わるまち

### 小 目 標

- ① 地域の活動、行政の情報がいろいろな手段で伝わる
- ② 自分自身に必要な情報を選択する

～第2期計画の重点推進目標～

### 自分自身に必要な情報を選択する

#### 6年後の目標値

- ◆ 地区別、対象者別、年代別に情報をわかりやすく提供します。  
受け手側にあわせて発信する工夫を1団体1回以上取り組む。  
対象者別、年代別に必要な人に情報を伝える場に参加する人  
約1,900人（現在）→2,300人（平成27年）
- ◆ インターネットに情報を掲載する団体数を増やします。  
ホームページを持っている団体数  
約54団体（現在）→64団体（平成27年）
- ◆ 身近に情報を入手できる施設や拠点があることを伝えます。  
地域情報がどこにあるか知っている人を増やす。  
【個人の取組としてアンケート調査の予定】

#### 目標達成への方向性

第1期計画の5年間で、インターネットを利用する区民は増えていますが、広報紙・掲示板も情報を得る手段として多くの区民に利用されています。また、顔見知りの人から聞く口コミも情報を得る重要な手段です。

一方で、さまざまな媒体から様々なレベルの情報が数多く提供されている状況です。

自分の地域で行われている活動について知り、参加するきっかけとしていくこと、支援を求めたいときにその情報を得ることができることなど、一人ひとりが必要とする正確な情報を手に入れることができるための工夫が必要です。

第2期計画では、区民が自分自身に必要な情報を選択できるよう、情報を整理し、わかりやすく伝える取組を進めます。

# 目標達成に向けた取組

個人	<p>地区別、対象者別、年代別に情報をわかりやすく提供します。</p> <p>情報入手しにくい高齢者などには、自分が知っている情報を伝えます。</p>	<p>インターネットに情報を掲載する団体数を増やします。随時更新し、正確な情報を伝えます。</p>	<p>身近に情報を入手できる施設や拠点があることを伝えます。</p> <p>情報がどこに集まっているのか、日頃から関心を持ち、家族や身近な人に伝えます。</p>
団体	<p>情報の受け手側にあわせた情報発信の方法を工夫します。 (掲示板、回覧板、ちらし、ホームページ等)</p> <p>【シャーロックホームズ、すずらん、PTA】</p>	<p>地域情報をおとしたマップや情報カレンダーなどは随時更新し、タイムリーな情報を伝えます。</p> <p>【e ネットにし探検隊、第6地区子育て分科会】</p>	<p>子育て支援、健康づくりに関すること、介護に関する事など、団体が把握している情報を伝えるとともに、区役所や地域ケアプラザ、福祉保健活動拠点、地区センターなど入手できる場所を紹介しします。</p>
行政	<p>広報、ホームページ、ちらしなど手段を変えて、必要な人に情報が届くよう工夫します。また、情報を発信したい団体と発信手段を持っている団体をつなげる仕組みをつくりまします。</p>	<p>地域のイベント情報や区役所の事業など、広報よこはま区版やホームページでタイムリーな情報を伝えます。</p>	<p>身近な地域で情報が得られる施設や拠点があることを窓口や広報などを通じて広く伝えます。</p>
区社会福祉協議会	<p>収集した情報を整理し発信します。情報の入手が困難な人にも受け取りやすい工夫をして発信します。地域の団体などの情報発信を支援します。</p>	<p>広報紙「もくせい」やボランティア情報紙、ちらし、区社協ホームページなど、さまざまな媒体を使って情報を発信していきます。</p>	<p>他機関からの情報を整備し提供します。 あわせて、身近な地域で情報が得られる拠点があることを広く伝えます。</p>
地域ケアプラザ	<p>対象者に合わせて、地域へ出向いて情報を伝えたり、掲示板を活用するなど、情報発信の方法を工夫します。</p>	<p>広報紙の発行、ホームページの更新により地域に情報を発信します。</p>	<p>情報発信をする団体の後方支援を行い、インターネット、パソコンなどを学ぶ場を提供します。</p>



# 4 地区別計画

## 第1地区

### ～地区の特徴～

掃部山公園、岩亀稲荷、御所五郎丸の墓など歴史的な名所と横浜能楽堂や県立音楽堂など文化施設が多い地区です。古い町並みとマンションなどの新しい町並みが共存しています。



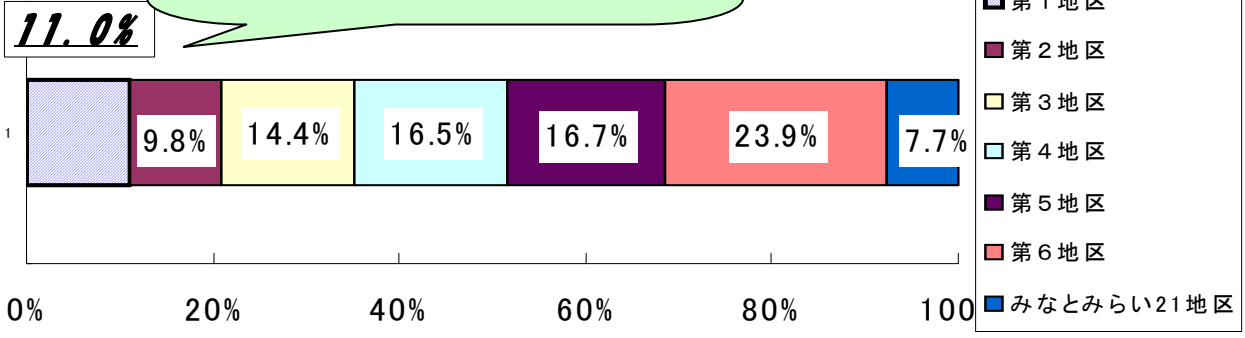
桜木町・宮崎町・戸部町・戸部本町・御所山町・花咲町

～掃部山公園～  
他にも歴史的な名所がたくさんあります。

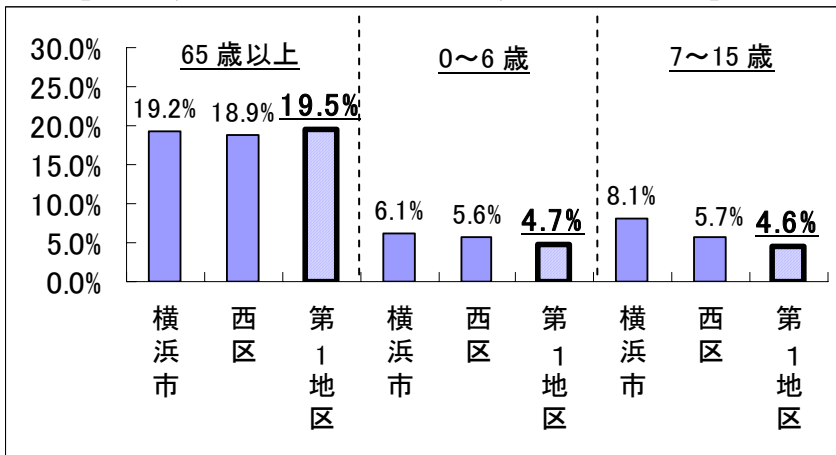


第1地区人口 **10,329人** **世帯数 6,106世帯**  
(1世帯あたり平均 1.7人)

【西区人口に占める地区人口の割合】



【西区年齢別人口割合と地区年齢別人口割合】



高齢化率は区より高く、19.5%となっています。  
一方、0～15歳以下の割合は低くなっています。  
1年間(平成20年10月1日～平成21年9月30日)の出生数は99人(区全体914人)でした。  
(データ：横浜市人口ポータル 平成21年9月末現在)



## 現在の地区の取組

- ・まもり隊、元気かい、ふれあい会（子どもや高齢者の見守り）
- ・活気ある健民祭の開催。
- ・納涼の夕べ、虫の音を聞く会、戸部小学校と地域の交流
- ・高齢者との交流会（行事やおまつりを通じた地域の交流）

### ～まもり隊～



登下校時に子どもたちを地域で見守っています。

### ～元気かい～



高齢者の会食を通じて交流を深めています。

### ～防災訓練の様子～



いざという時に備えて訓練しています。

### ～とべとべサロン（親子ふれあい会）～



身近な地域で親子がふれあえる場です。

### ～納涼の夕べ～



盆踊りや模擬店など子どもから大人まで楽しめます。

## 地区の課題

### （安心安全なまちづくり）

- ・路地が狭い、古い町並みが残っているところがあり、防災面で注意が必要
- ・分別などのごみ出しのルールを守らない・見守り活動に若い世代の参加が少ない。

### （地域の担い手づくり）

- ・町内会役員の高齢化・次世代の担い手不足・商店街に元気がない。
- ・町内会に加入しない人が増えている・地域の行事に参加しない人が増えている。

### （みんなが共存するまち）

- ・道が平坦ではなく、歩行が困難なところがある。

### （地域がつながりを持つまち）

- ・転入者など住民どうしの交流・ワンルームマンション居住者などと交流が少ない。

### （子どもが健やかなまち）

- ・核家族が増えて、気軽に相談したり、預けあう関係がもてない。
- ・日中働いている親が増え、地域と顔見知りの関係になりにくい。

### （情報が正確に伝わるまち）

- ・転入者に地域の情報が伝わりにくい。

## ～地区の目標～

# 目標 1 むこう三軒両隣 みんなで楽しく暮らせるまちづくり

## 具体的な行動計画

### 町内会の活動を活発にし、みんなが参加できるまちづくり

- (1) 転入者の方に町内会の活動を知ってもらえるよう、身近な人が継続的に働きかけます。
- (2) 掲示板や口コミなどで地域の情報や町内会の活動をPRし、ともに活動を行う人を増やします。
- (3) 大事な情報は回覧板を回す時に、注意を引く印をつけるなど伝え方を工夫します。
- (4) マンションの建設時などに、町内会への加入を促す仕組みづくりに取り組みます。

### 安全安心なまちづくり

日頃から、一人暮らしの高齢者の見守り活動など（ふれあい会）で要援護者の把握に努め、地域の事業所などとも協力しあい、防災をキーワードとした地域づくりを行います。

## ～計画案の検討まで～

地区の現状、課題、目標を地区の皆さんと地区懇談会で共に検討してきました。

町内会・自治会長  
地区社会福祉協議会  
民生委員児童委員協議会  
体育指導委員連絡協議会  
青少年指導員協議会  
子ども会育成連絡協議会  
老人クラブ  
女性団体連絡協議会  
更生保護女性会  
消費生活推進委員会  
戸部小学校PTA

### にこやか しあわせ 暮らしのまちプラン 第一地区懇談会

うちの街のいいところ  
みんなで少しずつできること

平成21年2月25日 西公会堂

21年2月

地域福祉保健計画推進イベントで中間振り返りをしました。

## ～地区懇談会の様子～



平成20年10月～平成22年3月まで懇談会を8回開催しました。  
今後も目標の達成に向けて地区で話しあいを続けていきます。



21年10月  
健民祭やケアプラザまつりでアンケートを行い、ご意見をいただきました。

## 目標2 それぞれの世代が継続して参加できるしくみづくり

### 具体的な行動計画

#### 新旧住民の交流を促し、近隣で声をかけあい、顔見知りの関係が広がるしくみづくり

- (1) 健民祭などの多くの人が気軽に参加できる行事や地区内の歴史的な名所を生かした行事を通じて、世代をこえた交流をさかんに行います。
- (2) 若い世代間で声をかけ合い、地域行事へ参加する人を増やし、顔見知りの関係になるきっかけをつくり出します。
- (3) 地域とのパイプ役になってくれる人や次世代の担い手を育成し、地域での交流を深めていきます。
- (4) やる気のある若い人が継続して活動できる組織づくりに取り組みます。

#### 子どもが地域の中で健やかに育つまちづくり

- (1) 親子で子ども会の行事などに参加しやすい雰囲気づくりをします。
- (2) 戸部小学校での語り部活動など、学校と協力しながら、子どもが地域の人と交流し、自分の住む地域を理解する機会をつくり出します。
- (3) 地域の中で、小学生、中学生、高校生がそれぞれ役割を持ち、活動に参加できるよう支援します。

#### ～区役所の取組～

- ◇自治会町内会の支援を通じて地域活動の活性化を図ります。
- ◇見守り活動を行う団体や高齢者支援を行う機関をつなぎ、体制を強化します。
- ◇区民まつりや歴史的な名所を広く紹介し、地区のつながりを深める支援をします。

#### ～区社会福祉協議会の取組～

- ◇地域住民に対して各団体の活動情報をより知ってもらう方法をともに考えていきます。
- ◇地区社協や地域団体、ボランティア団体などに向けた研修会を開催します。

#### ～地域ケアプラザの取組～

- ◇福祉・保健に関する情報を発信し、参加者どうしが地域で交流を継続できるように取り組みます。
- ◇小学生の登下校時の見守りや地域防犯パトロールの事務局としてかわります。
- ◇高齢者や親子が気軽に参加し交流を深めたり相談などができたりする場を提供します。

# 第2地区

## ～地区の特徴～

区役所に近く、医療機関・商店街・小中学校・幼稚園がそろい、住宅が密集しています。国道1号線に近く比較的平坦な地区です。



西戸部3丁目  
伊勢町3丁目  
中央  
西前町  
藤棚1丁目28～50

### ～杉山神社～

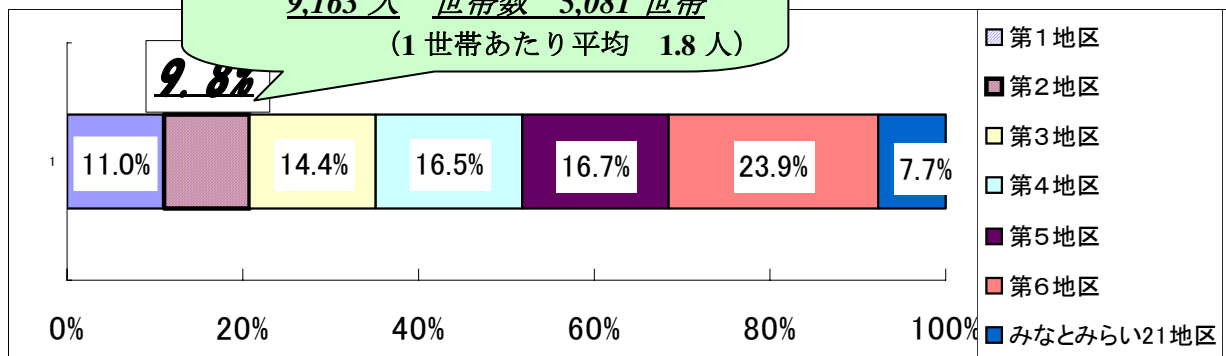
境内にある一對の福ネズミ。向かって右が男、左が女。回しながら願うと成就すると伝えられています。



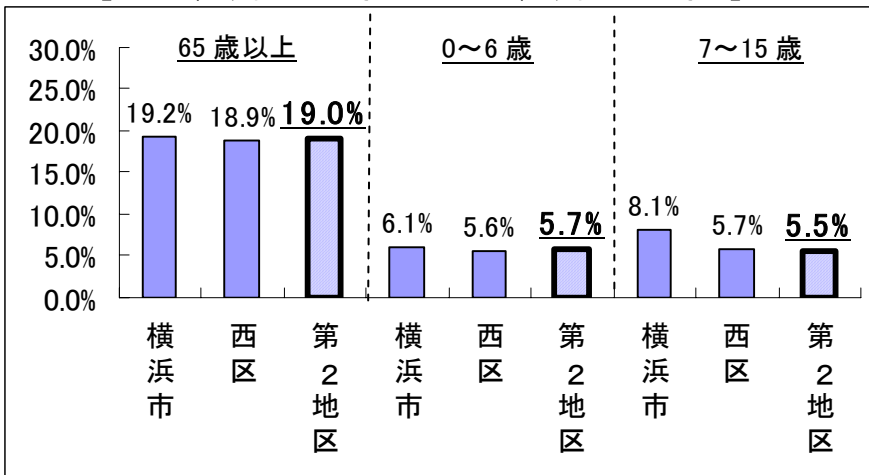
第2地区人口

**9,163人** 世帯数 **5,081世帯**  
(1世帯あたり平均 1.8人)

【西区人口に占める地区人口の割合】



【西区年齢別人口割合と地区年齢別人口割合】



高齢化率は区と同程度で、19.0%となっています。

0～6歳以下、7～15歳以下の割合も区の割合と同程度という結果でした。

1年間(平成20年10月1日～平成21年9月30日)の出生数は90人(区全体914人)でした。

(データ：横浜市人口ポータル)

平成21年9月末現在)



## 現在の地区の取組

- ・保健活動推進員を中心に毎月第2日曜日にウォーキング開催
- ・「ふれあいの夕べ」の開催
- ・商店街で品出し禁止へのキャンペーン実施
- ・ハザードマップの作成

～ふれあい会定例会の様子～



ひとり暮らし高齢者などの見守りを町内会単位で行っています。

～ウォーキングの日～



ウォーキングで健康づくりや仲間づくりをしています。

～らいびステーション～



商店街の一角。トイレ利用や、駅長さんに子どもをちょっと見てもらっての買い物も出来ます。

～ほっと幸せ会～



地域の高齢者へ配食サービスし、安否確認を行っています。

## 地区の課題

(安心安全なまちづくり)

- ・隣近所の人がわからない。 ・商店街の路上駐車が多い。

(地域の担い手づくり)

- ・町内会役員のなり手がいない。
- ・行事参加者の顔ぶれがあまり変わらない。

(みんなが共存するまち)

- ・商店街の通路で車いすやベビーカーの人などが通りづらい所がある。

(地域がつながりを持つまち)

- ・町内会未加入者の増加

(子どもが健やかなまち)

- ・子どもが少ない。 ・子どもが大きくなったら転居してしまうことが多い。

(情報が正確に伝わるまち)

- ・情報を流しても行事の参加につながらない。
- ・回覧板を読まない人が多い。
- ・回覧板で回覧される情報が多すぎて読みづらい

## ～地区の目標～

# 心の通いあった明るく楽しいまちづくり

ふたこと  
～二言あいさつをしましょう～

## 具体的な行動計画

### 災害・防犯に強いまちづくり

- ・ 自分たちのまち、第2地区を知るためのまち歩き（ウォーキング）やハザードマップの作成をします。
- ・ 地域での顔見知りを増やすためにまずは身近な家庭の中や地域の子ども達へのあいさつ運動を始めます。
- ・ らいぶステーションを通して障害者・高齢者と交流し、災害時のサポートについて考えます。

### 緑の多いきれいなまちづくり

- ・ 防災や防火にも役立つように家庭や地域で緑を植えます。
- ・ スポンサー付きの木を植えるなど、さまざまな工夫をして緑を増やします。

### 情報が正確に伝わるまちづくり

- ・ 地域の広報紙を作ります。（区の窓口で配布してもらえるように働きかけます。）
- ・ 転入時、町内会の必要性や加入のメリットを伝えていきます。
- ・ マンション建設時に、町内会への加入を促す仕組みづくりを検討します。  
（町内会の加入を行政からも勧めてもらえるよう働きかけます。）

### 戸部公園を中核としたつながりづくり

- ・ 自主的な楽しいイベントとなる清掃活動を行います。
- ・ 地域のおまつりなどの行事への参加を呼びかけ、交流を図ります。
- ・ 子どもから高齢者まで参加して戸部公園友の会を作り、公園に花を植えたり、清掃したりします。

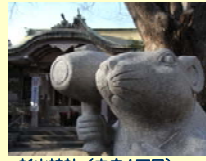


～計画案の検討まで～

地区の現状、課題、目標を地区の皆さんと地区懇談会で共に検討してきました。

- 町内会・自治会長
- 地区社会福祉協議会
- 民生委員児童委員協議会
- 体育指導員連絡協議会
- 青少年指導員連絡協議会
- 子ども会育成連絡協議会
- 老人クラブ
- 環境事業推進委員会
- 保健活動推進委員会
- 主任児童委員
- 家庭防災員

第二地区はこんな“まち”！



杉山神社 (中央1丁目)



願成寺 (西戸部3丁目)



西区役所 (中央1丁目)

21年2月

地域福祉保健計画推進イベントで中間振り返りをしました。

～地区懇談会の様子～



平成20年10月～平成22年3月まで懇談会を7回開催しました。

今後も目標の達成に向けて地区で話し合いを続けていきます。



21年10-11月

健康祭や区民まつりでアンケートを行い、ご意見をいただきました。



～区役所の取組～

- ◇防災の取組を始めとした地域の活動を幅広く知ってもらい、区民の関心を高め、参加者が増えるように皆さんの活動を支援します。
- ◇地域での具体的な取組み (戸部公園での交流活動や緑化活動など) に活用できる制度を紹介します。

～区社会福祉協議会の取組～

- ◇地域で取り組む緑化活動や清掃活動をPRし、地域に根付いた活動になるよう支援します。
- ◇新たな担い手を育てることに一緒に取り組みます。

～地域ケアプラザの取組～

- ◇「あいさつ運動」を職員が率先して行い、地域へと広めます。
- ◇交流の場を提供したり、若い世代や団塊の世代が地域参加できるような事業に取り組みます。
- ◇地域の行事やケアプラザの事業を広報紙やホームページ、掲示板などでわかりやすく発信します。

# 第3地区

## ～地区の特徴～

藤棚商店街から久保山にかけて急傾斜の山坂を持ち、狭い道が多い地区です。地区内には3つの商店街が連なり、16の町内会があります。



藤棚1・2丁目  
(1丁目28～50除く)  
元久保町  
東久保町  
久保町  
浜松町

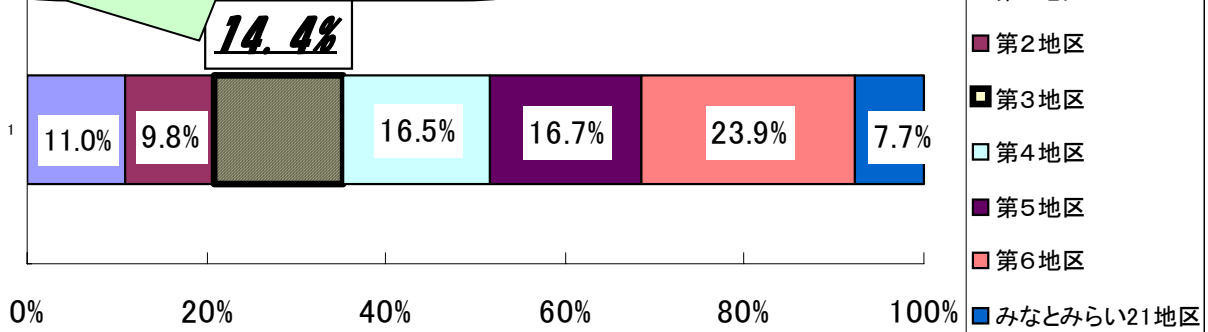
～藤棚商店街～  
藤棚商店街を始め3つの商店街が連なっています。



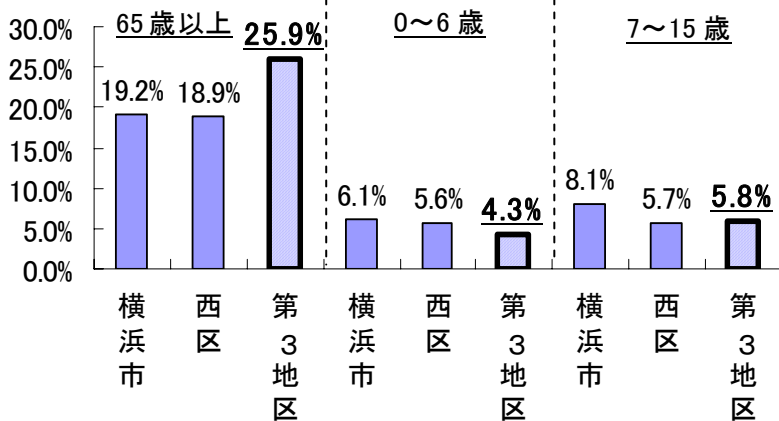
第3地区人口

**13,543人** 世帯数 **7,178世帯**  
(1世帯あたり平均 1.9人)

【西区人口に占める地区人口の割合】



【西区年齢別人口割合と地区年齢別人口割合】



高齢者の割合は西区全体の割合より高く 25.9% となっており、区内でも高齢化が進んでいます。

一方で乳幼児(0～6歳)、小中学生(7～15歳)の割合は、区の割合より 低かったり、同程度 です。

1年間(平成20年10月1日～平成21年9月30日)の出生数は106人(区全体914人)でした。

(データ：横浜市人口ポータル)

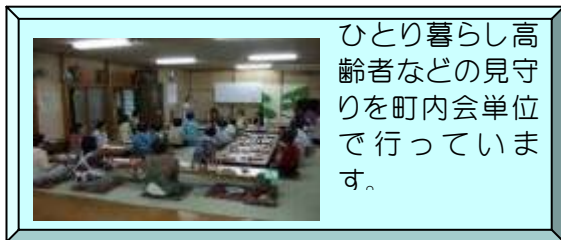
平成21年9月末現在)



## 現在の地区の取組

- ・ 防犯パトロール ・ 地域での子どもたちや高齢者の見守り
- ・ 地域でのごみ出しの協力
- ・ 小中学校から地域へ行事の参加招待
- ・ 東久保町夢まちづくり協議会による災害時危険箇所のチェックや、かまどベンチ・雨水タンクの設置など

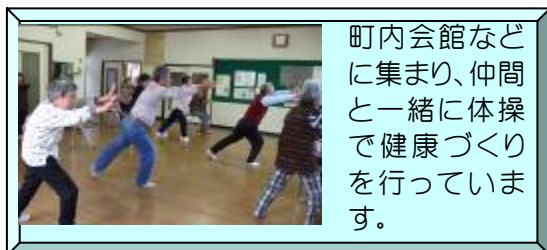
### ～ふれあい会交流会の様子～



### ～キティクラブ（子育て支援）～



### ～老人クラブ単位の体操教室～



### ～東久保夢まちづくり協議会～



## 地区の課題

### （安心安全なまちづくり）

- ・ 高齢者世帯が多い。 ・ 単身者のごみ出し ・ 商店街の路上駐車が多い。

### （地域の担い手づくり）

- ・ 町内会役員の高齢化 ・ 次世代の担い手不足

### （みんなが共存するまち）

- ・ 車いすやバギーで買い物に来る方が増えたが店前に商品が山積みされているため車いすなどが通りづらい。

### （地域がつながりを持つまち）

- ・ 転入者と地域のつながりが薄い。 ・ 地域と商店街の交流が少なくなった。
- ・ 山坂が多く、交通手段も少ないため、高齢者が地域の食事会などに参加しにくくなっている。

### （子どもが健やかなまち）

- ・ 子どもが少ない。

### （情報が正確に伝わるまち）

- ・ 転入者に地域の情報が伝わりにくい。

## ～地区の目標～

**目標 1 福祉施設が多くできたこの地区の特徴を活かして、さまざまな人がふれあえるまち**

### 具体的な行動計画

- (1) 世代や団体を超えて地域に住むすべての人がつながりを広げるために、防災訓練や公園清掃などの地域での行事を通じてふれあいの場づくりを進めます。
- (2) 既存のさまざまなマップの情報を取り入れて、誰もが使えるトイレの共通マークなど、見てわかる表示づくりや、街中で情報を見られる案内板づくりを進めます。
- (3) 地域の資源である福祉施設や商店街などに協力してもらい、高齢者や障がい者が生活しやすいまちづくりを進めます。

### ～計画案の検討まで～

地区の現状、課題、目標を地区の皆さんと地区懇談会で共に検討してきました。

町内会・自治会長  
地区社会福祉協議会  
民生委員児童委員協議会  
体育指導委員連絡協議会  
青少年指導員協議会  
市PTA連絡協議会  
老人クラブ  
保健活動推進委員会  
更生保護女性会  
みらい工房西  
ガッツビーと西  
生活支援センター西

### 地区の自慢

大勢子どもたちで毎年多くの作品が寄せられる  
にぎわう新春カルタ大会 第3地区作品展  
(藤柳地区センター) (稲荷台小学校コミュニティハウス)



21年2月  
地域福祉保健計画推進イベントで中間振り返りをしました。

### ～地区懇談会の様子～



平成20年10月～平成22年3月まで懇談会を7回開催しました。  
今後も目標の達成に向けて地区で話し合いを続けていきます。



21年9・10月  
健民祭やケアプラザまつりでアンケートを行いご意見をいただきました。

## 目標 2 山坂が多い地形でも、高齢者や障がい者が外出しやすいまちづくり

### 具体的な行動計画

- (1) 高齢者の見守り訪問・ふれあい給食など地域での助けあい・支えあい活動を強め、続けます。
- (2) 高齢者や障がい者が外出しやすいように、地域内の福祉施設などが協力しあい、地域内で誰もが使えるトイレ・休憩場所を増やします。
- (3) 高齢者や障がい者が外出しやすいように、坂道の休憩ベンチや階段の手すりの設置などを進めます。

みらい工房西



生活支援センター西



がつつ写真

ハートフル商店街



ハートフル商店街



#### ～区役所の取組～

- ◇地域での具体的な取組（トイレ表示や案内板の作成など）に活用できる制度について、情報提供します。
- ◇地域の取組や活動を支援してもらえるように関係機関や団体（障害者施設など）に働きかけます。

#### ～区社会福祉協議会の取組～

- ◇地域と福祉施設や商店街などの橋渡し役になります。
- ◇障がいや年齢を問わず誰もが活動に参加できるよう必要な情報を提供しながらもに活動します。

#### ～地域ケアプラザの取組～

- ◇障がい・子育て・高齢者（介護予防・認知症）の理解を深められる場作りを継続的に行います。
- ◇福祉保健活動に関する情報提供を正確に行います。
- ◇地域や行政と協働で地域を盛り上げます。（トイレ表示・案内板・ふれ合いの場など）

# 第4地区

## ～地区の特徴～

野毛山公園周辺には中央図書館や動物園があります。戸建てが多くを占める住宅地で、山坂が多く、道路が狭い箇所があります。



境之谷・東ヶ丘・  
赤門町・霞ヶ丘・  
西戸部 1・2丁目  
老松町・  
伊勢町 1・2丁目  
伊勢町 3丁目  
118～132

### ～野毛山公園～

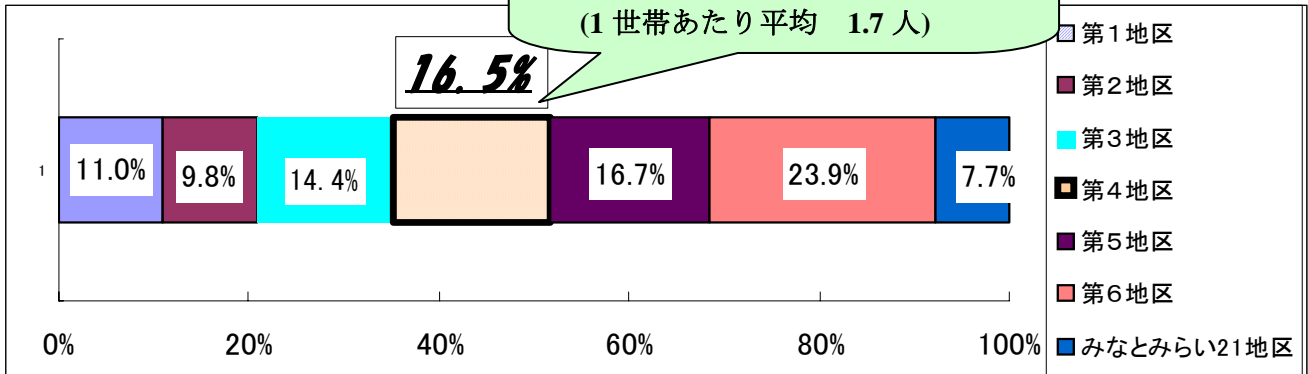
動物園もある、みんなに  
おなじみの公園です。



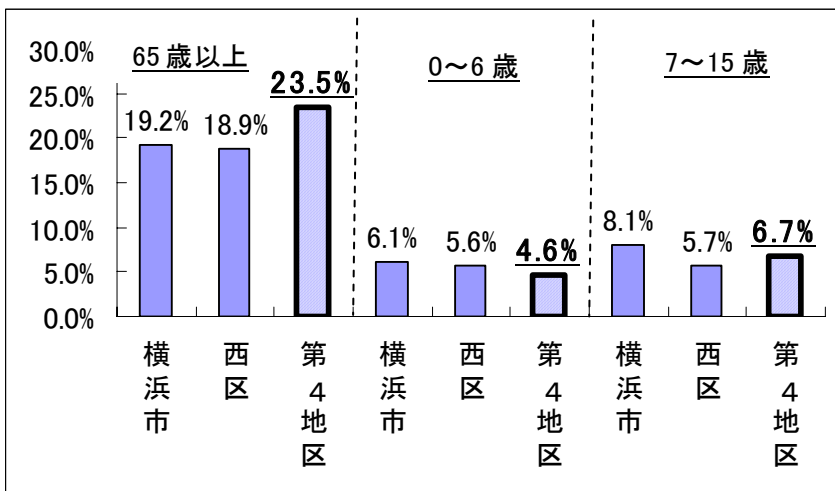
### 【西区人口に占める地区人口の割合】

第4地区人口

15,440人 世帯数 8,004世帯  
(1世帯あたり平均 1.7人)



### 【西区年齢別人口割合と地区年齢別人口割合】



高齢化率は区より高く 23.5% となっています。

一方、0～6歳以下の人口に占める割合は低く、7～15歳以下の割合は区の割合よりも高くなっています。

1年間(平成20年10月1日～平成21年9月30日)の出生数は90人(区全体914人)でした。

(データ：横浜市人口ポータル)

平成21年9月末現在)



## 現在の地区の取組

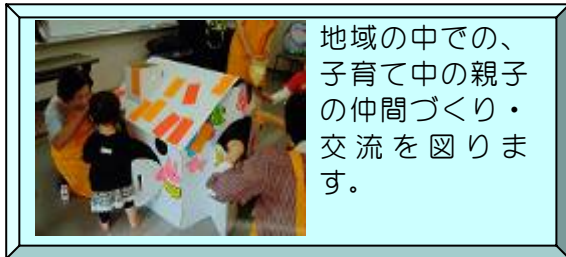
- ・「みんなのまつり」やコンサートの開催（地区社会福祉協議会主催、地区自治会連合会共催）
- ・各町内会での防犯パトロール ・高齢者の見守り
- ・学校主催の地域との交流行事 ・子育てサロンの開催
- ・地区社会福祉協議会とふれあい会合同の地区別の食事会の開催
- ・防災まちづくりに取り組んでいる協議会が活動しています。
- ・各自治会町内会でポスター・回覧を工夫して自作し、情報を伝えています。

### ～みんなのまつり～



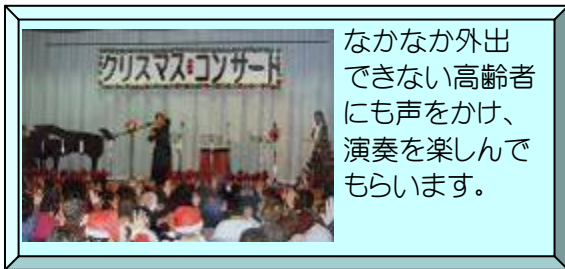
団体の活動紹介やアトラクション、地域作業所の展示販売などで交流を図ります。

### ～子育てサロン～



地域の中での、子育て中の親子の仲間づくり・交流を図ります。

### ～クリスマスコンサート～



なかなか外出できない高齢者にも声をかけ、演奏を楽しんでもらいます。

### ～ふれあい会～



ひとり暮らしの高齢者の方などを地域の方が見守る活動です。食事会で交流を深めたりもしています。

## 地区の課題

### （安心安全なまちづくり）

- ・単身高齢者が多い。 ・認知症高齢者の増加
- ・狭い道が多く、ごみ出しや緊急時の問題がある。

### （地域の担い手づくり）

- ・町内会役員の担い手不足

### （地域がつながりを持つまち）

- ・転入者と地域のつながりが薄い。
- ・山坂が多く、行事に参加してほしい人が地域の行事に参加しにくくなっている。

### （子どもが健やかなまち）

- ・自治会町内会によっては子どもの数がかなり少なくなっている。
- ・子ども関係の活動が手薄になっている。
- ・子育て家庭の母親が孤立感を感じている。

### （情報が正確に伝わるまち）

- ・インターネットで情報は氾濫しており、逆に必要な情報を選ぶことが難しい。

## ～地区の目標～

### 目標 1 みんなが自分のできることから始めるまちづくり

#### 具体的な行動計画

- (1) 地域の子どもたちにあいさつなど声をかけます。
- (2) 災害時の要援護者へのサポート体制を考えます。
- (3) 緑の多い環境をつくります。
- (4) みんなが活躍できるきっかけづくりを考えます。
- (5) 地域の中でどんなことが必要とされているか情報提供をしていきます。

#### ～計画案の検討まで～

地区の現状、課題、目標を地区の皆さんと地区懇談会で共に検討してきました。

町内会・自治会長  
民生委員児童委員協議会  
青少年指導員協議会  
女性部  
ふれあい会  
主任児童委員  
子ども会育成連絡協議会  
まつぼっくり会学校部  
'98 愛ネットワーク



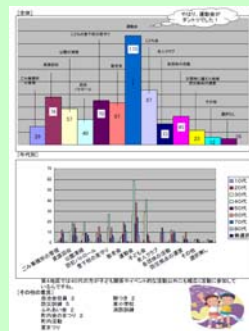
21年2月

地域福祉保健計画推進イベントで中間振り返りをしました。

#### ～地区懇談会の様子～



平成 20 年 12 月～平成 22 年 3 月まで懇談会を 6 回開催しました。  
今後も目標の達成に向けて地区で話しあいを続けていきます。



21年10月

大運動会やケアプラザまつりでアンケートを行い、ご意見をいただきました。

## 目標 2 世代を超えて思いやりのあるやさしいまちづくり

### 具体的な行動計画

- (1) 子育てに対する地域の情報など必要な情報を伝える工夫を考えます。
- (2) 高齢者と子どもたちとのふれあいの場を設けます。
- (3) 若い人が地域で活躍できるきっかけづくりを工夫します。

## 目標 3 いつまでも元気で暮らせるまちづくり

### 具体的な行動計画

- (1) いくつになっても参加して活躍できるような場・担い手となれるような場づくりを考えていきます。
- (2) 高齢者の地域での見守り体制を調整し、組織間の取組の重複を避け、計画的な実施を目指します。
- (3) 地域の中での集まる場や拠点の提供について考えます。

#### ～区役所の取組～

- ◇地域での活動を広く PR する方法をともに考え、関心を持って参加する人が増える支援をします。
- ◇日ごろの業務や事業を通じて気付いた地域の状況を関係団体に伝えます。

#### ～区社会福祉協議会の取組～

- ◇新たな担い手向けの研修や講座を開催します。
- ◇地域のつながりを作るためのきっかけづくりを支援します。
- ◇地域での新たな見守り体制について、団体とともに考えていきます。

#### ～地域ケアプラザの取組～

- ◇地域の活動・情報を広報紙などで紹介します。
- ◇世代を超えた交流の場を提供し、地域のさまざまな活動を支援します。(人材、知識、場所)
- ◇地域の皆さんが安心して生活できるように身近な福祉・保健の窓口となります。

# 第5地区

## ～地区の特徴～

横浜駅周辺に位置し、デパート、商店、繁華街、銀行などの高層ビルでにぎわう場所で、高齢者もビルの上層階に住んでいる人が多い。



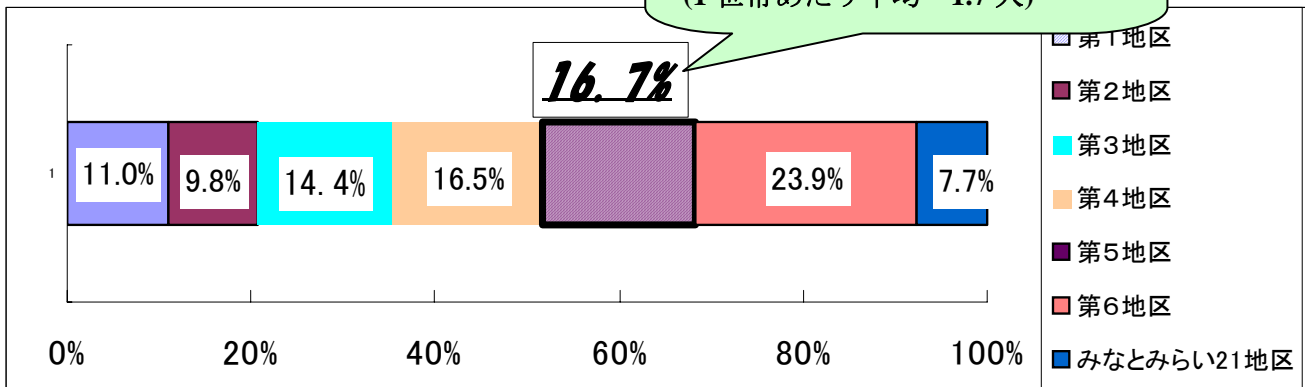
平沼 1・2 丁目  
南幸・北幸  
岡野町  
西平沼

～横浜駅周辺～  
横浜駅に近く活気あふれる地区です。

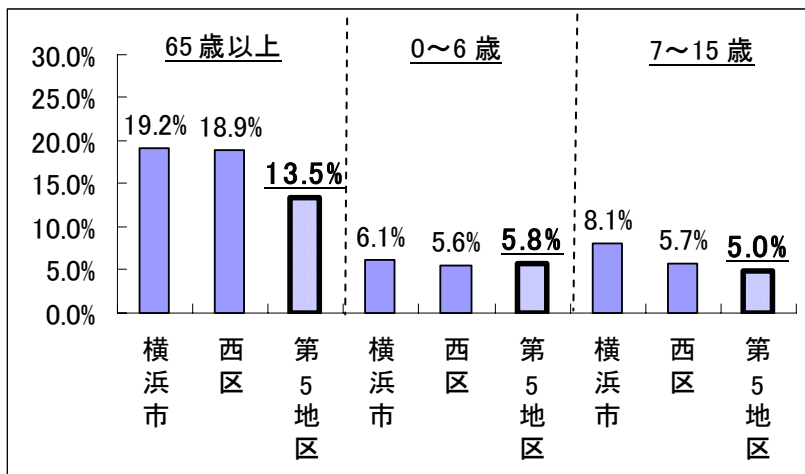


第5地区人口  
**15,614 人** 世帯数 **9,124 世帯**  
(1世帯あたり平均 1.7人)

【西区人口に占める地区人口の割合】



【西区年齢別人口割合と地区年齢別人口割合】



高齢化率は区より低く 13.5% となっています。

0～6歳以下の就学前児童の割合は高く、7～15歳以下の割合は低くなっています。

1年間(平成20年10月1日～平成21年9月30日)の出生数は186人(区全体914人)でした。

(データ：横浜市人口ポータル)

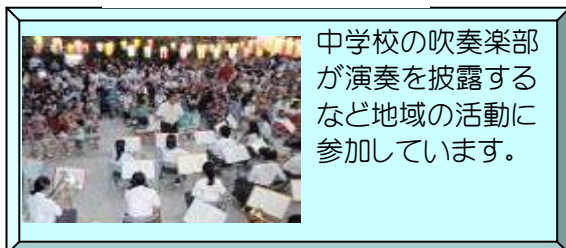
平成21年9月末現在)



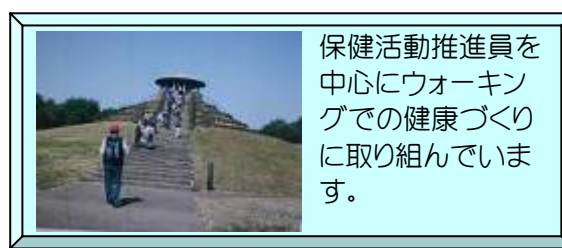
## 現在の地区の取組

- ・ さわやか清掃（岡野） ・ 平沼小見守り隊 ・ 駅の清掃活動
- ・ 高齢者の交流（友愛活動推進員や食事サービスグループ）
- ・ 町内会と商店街が協力し、取り組んでいる災害時に向けた訓練など
- ・ 老人クラブ、グランドゴルフなど幅広い年齢層での運動
- ・ 地域の防災訓練への作業所の参加
- ・ 岡二フェスティバル、芋煮会など行事を通じた交流

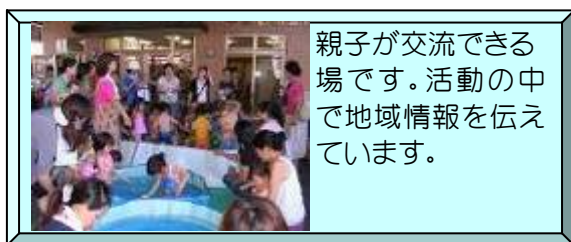
### ～水天宮のおまつり～



### ～ウォーキング～



### ～親子ふれあい会～



### ～芋煮会～



## 地区の課題

### （安心安全なまちづくり）

- ・ 横浜駅周辺では人の出入りが多く、防犯面で心配 ・ 高齢者などの把握が困難
- ・ 災害時の帰宅困難者の問題

### （地域の担い手づくり）

- ・ 町内会役員の高齢化 ・ 次世代の担い手不足 ・ 一人の人が複数の役割を担っている。

### （みんなが共存するまち）

- ・ 障害者に地域の行事の情報が届きにくい。
- ・ 障害者からの情報発信が不足しており、活動が見えにくい。

### （地域がつながりを持つまち）

- ・ 高齢者どうしの交流が希薄 ・ 転入者と地域のつながりが薄い。
- ・ 団体間の交流が少ない。 ・ マンションでの交流が少ない。

### （子どもが健やかなまち）

- ・ 子どもが増えて学校で教室が不足している。 ・ マナーを知らない子どもがいる。

### （情報が正確に伝わるまち）

- ・ 転入者に地域の情報が伝わりにくい。

## ～地区の目標～

# 目標1 気持ちよくあいさつができて顔の見える安心できるまち

## 具体的な行動計画

- (1) 子ども、若い世代があいさつする習慣を身につけます。あいさつをし、声をかけあいます。
- (2) 一声運動で知らない人にも声をかけます。
- (3) おまつりで知り合ったり、町内会の行事と一緒に取り組みます。
- (4) 団体が互いの活動を伝えあいます。
- (5) 新築マンションに転居してくる人に町内会の活動を事前に伝えます。
- (6) 『にこやか しあわせ 暮らしのうた』を広めます。

地区の現状、課題、目標を地区の皆さんと地区懇談会で共に検討してきました。

町内会・自治会長  
民生委員児童委員協議会  
体育指導委員連絡協議会  
青少年指導員協議会  
子ども会育成連絡協議会  
老人クラブ  
女性団体連絡協議会  
更生保護女性会  
消費生活推進員会  
家庭防災員  
保健活動推進員会  
環境事業推進員  
友愛活動推進員会  
食事サービスグループ すずらん  
西区手をつなぐ会  
岡野中学校PTA

## ～計画案の検討まで～

### わがまち自慢(4)!

#### ★ 地域活動が活発

平沼小 見守り隊

ほほえみ会(会食交流)



その他に、防犯パトロールや清掃活動なども活発に行われています

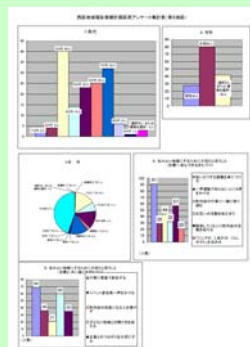
21年2月

地域福祉保健計画推進イベントで中間振り返りをしました。

## ～地区懇談会の様子～



平成20年11月～平成22年3月まで懇談会を7回開催しました。  
今後も目標の達成に向けて地区で話し合いを続けていきます。



21年10月

地域のおまつりなどで計画へのご意見をいただきました。

## 目標2 世代・新旧・企業を交えた、共に過ごすまちづくり

### 具体的な行動計画

- (1) 季節ごとのイベント（おまつり、餅つきやスポーツ）を通じて知りあいます。地域のイベントに家族で参加します。
- (2) イベント参加者へ声をかけ、担い手に誘います。
- (3) 町内会の役員になる人を増やします。
- (4) 子どもにイベントやおまつりを通じて、地域の人顔を知ってもらい、地域とのかかわり方を伝えます。子ども会の活性化を図ります。
- (5) 企業と住民が地域の清掃活動に共に取り組むなど、企業とのつながりを大切にします。

はじめよう 今日からわたしにできること

にこやか しあわせ くのうた

♪ 水仙の花が咲いたら 春はもうすぐやってくる  
新しいこと何かしたいな そんな気持ちになってくる  
はじめよう 今日からわたしにできること  
声をかけたら 今日からあなたとお友達



『にこやか しあわせ くのうた』は計画のイメージソングです。

□ずさむとつながりあうことの大切さが伝わります。

第5地区では親子ふれあい会やおまつりなどで広く歌われています。

#### ～区役所の取組～

- ◇赤ちゃん教室や子どもが地域の皆さんと顔見知りになるきっかけを事業の中でつくり、あいさつをし、声をかけあえる関係づくりを支援します。
- ◇町内会の役割や行事を広報などで広く周知し、地区で活動に参加する人が増えるよう支援します。

#### ～区社会福祉協議会の取組～

- ◇地区社協や地域団体、ボランティア団体など、既存の団体が活動を深めるため研修会を開催します。
- ◇団体や地域の活動情報を地域に発信する支援を行います。
- ◇地区内の興味関心をみんなで知り合う仕組みづくりをします。

#### ～地域ケアプラザの取組～

- ◇子どもや親子向けの事業を通して、地域とのかかわり方やあいさつの大切さを伝えます。
- ◇ケアプラザの事業やおまつりなどで『にこやか しあわせくのうた』を広めます。
- ◇団塊の世代が地域参加できる事業や出前講座などを行い、地域の皆さんの架け橋になるよう努めます。

# 第6地区

## ～地区の特徴～

西区の中で一番人口の多い地区。神奈川区、保土ヶ谷区と接しており、地形は山坂が多い地区です。15歳以下人口の割合が高く、65歳以上人口の割合が区平均よりやや低くなっています。



浅間町・南浅間町  
浅間台  
楠町  
宮ヶ谷  
南軽井沢  
北軽井沢

～南軽井沢公園・宮ヶ谷公園～  
地区内に公園が多く、地域のふれあいの場になっています。

南軽井沢公園

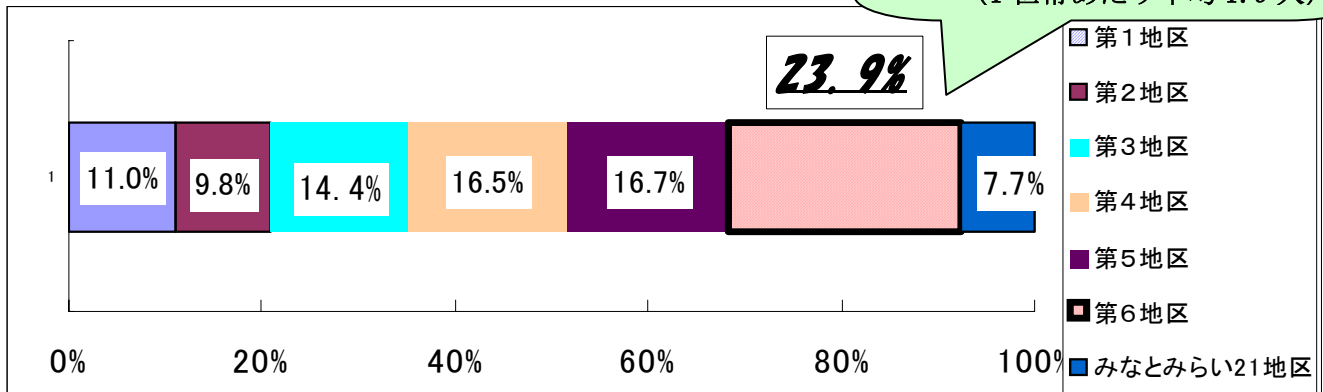
宮ヶ谷公園



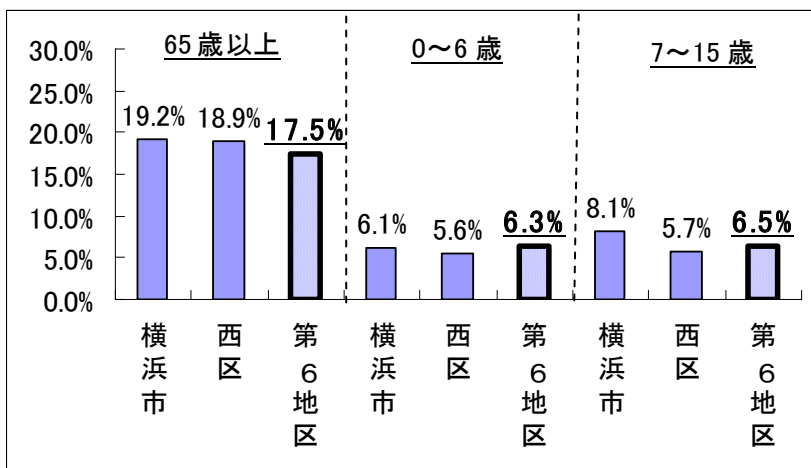
第6地区人口

**22,501人** 世帯数 **12,020世帯**  
(1世帯あたり平均1.9人)

【西区人口に占める地区人口の割合】



【西区年齢別人口割合と地区年齢別人口割合】



高齢化率は区より低く 17.5% となっています。  
一方、0～15歳以下は区より高くなっています。  
1年間(平成20年10月1日～平成21年9月30日)の出生数は221人(区全体914人)でした。

(データ：横浜市人口ポータル

平成21年9月末現在)



## 現在の地区の取組

- ・浅間台小学校と高齢者との交流
- ・防犯パトロール（警察、消防団と連携）
- ・焼き芋大会で地域の交流
- ・健民祭で幅広い年齢層の交流

### ～浅間神社のおまつり～



町内会からおみこしが出て、毎年盛大に行われます。

### ～ママのホットステーション (子育て支援)～



地域の親子の交流と子育て支援の場です。

### ～健民祭～



町内対抗リーグでは予選、決勝と真剣勝負で盛り上がります。

### ～高齢者と中学生の交流(西ともしび)～



地域の中学生や小学生と高齢者の交流を深めています。

## 地区の課題

### (安心安全なまちづくり)

- ・ひとり暮らし高齢者の把握が困難
- ・ごみ出しのルールを守らない。
- ・近隣に住んでいる人の顔がわかりにくい

### (地域の担い手づくり)

- ・町内会役員の高齢化など次世代の担い手不足
- ・自治会町内会に関心のない人の増加
- ・一人の人が複数の役割を担っている。
- ・老人クラブの会員が減少

### (みんなが共存するまち)

- ・地域の中で立ち寄れるトイレが少ない。

### (地域がつながりを持つまち)

- ・転入者と地域のつながりが薄い。
- ・マンションでの交流が少ない。
- ・団体どうしの活動が見えにくく、活動が重複している。

### (子どもが健やかなまち)

- ・働く親が増えるなど、子ども会の担い手不足

### (情報が正確に伝わるまち)

- ・転入者に地域の情報が伝わりにくい。
- ・回覧物が多すぎる。
- ・情報を受け取る側の関心が薄い。

## ～地区の目標～

# 人と人のつながりを大切にコミュニケーションのあるまちづくり

## 具体的な行動計画

### ～皆さんの参加をお待ちしています～

#### 町内(会)への関心を高め、人とのつながりをつくります。

- (1) 町内会の活動へ気軽に参加できるよう、いろいろな場所・機会を通じて声をかけ、参加しやすい雰囲気づくりに取り組みます。
- (2) おまつりや健民祭、敬老の日など地域の行事への参加をきっかけに近隣の人と顔見知りになります。
- (3) 防犯・防災への取組を進めます。
- (4) 町内会行事の中で子どもの活動をPRして親子での参加を呼びかけます。

#### 町内会の情報の伝え方を工夫します。

- (1) 掲示板や回覧板で、地域の情報を伝える時、連絡先をわかりやすく記入したり、行事の日程などは早めにお知らせします。
- (2) 若い世代や転入者に町内会の活動を知ってもらえるよう、広報紙や声かけなど働きかける方法を工夫します。

#### 子どもから高齢者まで世代を越えて、みんなが地域の活動を担います。 (地域活動の担い手を増やします。)

- (1) 子ども会や少年部の活性化のために町内の相談役が支援し、将来的に地域のリーダーになれるような人を育てていきます。
- (2) 若い世代と高齢者が交流する機会を町内でコーディネートします。
- (3) 地域の行事の企画をする時に女性部や子育てが落ち着いた人、子どもや若い世代、新しい参加者に声をかけ、みんなが関心を持って楽しく参加できる工夫をします。
- (4) 町内の活動(班長、子ども会役員など)への参加をきっかけに、引き続き「自分ができること」を手伝ってくれる人や若い世代でも仕事をしながらできる範囲の活動に参加してもらおう働きかけをし、担い手を増やします。

～計画案の検討まで～

地区の現状、課題、目標を地区の皆さんと地区懇談会で共に検討してきました。

- 町内会・自治会長
- 地区社会福祉協議会
- 民生委員児童委員協議会
- 主任児童委員
- 体育指導委員連絡協議会
- 青少年指導員協議会
- 子ども会育成連絡協議会
- 老人クラブ
- 女性団体連絡協議会
- 保健活動推進委員会
- 環境事業推進員
- 高齢福祉関係分科会
- 宮ヶ谷小学校PTA
- 在宅介護者のつどい「あけぼの会」

第6地区の自慢

子育て支援に関する様々な情報をカレンダー形式で発信



軽井沢公園にたくさんの親子が集合!

子育て、高齢者支援など  
いろいろな活動がさかん



21年2月  
地域福祉保健計画推進イベントで中間  
振り返りをあました。

～地区懇談会の様子～



平成 20 年 11 月～平成 22 年2月まで懇談会  
を7回開催しました。  
今後も目標の達成に向けて地区で話し合いを  
続けていきます。



21年9・10月  
健民祭やケアプラザまつり  
で計画へのご意見をいただき  
ました。

～区役所の取組～

- ◇町内会や地域の活動を広くPRし、関心を持ち、参加する人が増えるよう支援します。
- ◇子育て支援拠点や、にしく市民活動支援センターを中心に地域活動の活性化を支援します。

～区社会福祉協議会の取組～

- ◇今後の担い手である若い世代にも町内会や地域に関心を持ってもらえるよう、町内会活動を広報紙などで発信していきます。
- ◇地域活動に関心を持ってもらえるような講座・研修会を開催します。

～地域ケアプラザの取組～

- ◇事業やケアプラザまつりを通して、地域の皆さんがコミュニケーションをとれる場を提供します。
- ◇福祉保健に関する講座や地域で活動する団体どうしの情報交換の機会をつくり、担い手を広げていきます。

# みなとみらい21地区

みなとみらい21地区については、第2期計画の区全域計画の取組を通じて福祉保健の推進を図ります。また、今後地区の皆さんが主体となったみなとみらい21地区の地区別計画の策定を進めていきます。

## ～地区の特徴～

みなとみらい21地区は、みなとみらい21事業(\*)に沿って計画的なまちづくりが進められており、高水準のインフラ(\*)と景観を備えた首都圏を代表するまちとして発展を続けています。

文化・スポーツ施設・企業が集積するとともに、平成15(2003)年のM. M. TOWERSを皮切りに都市型高層住宅が次々と建設され、人口が急増しています。

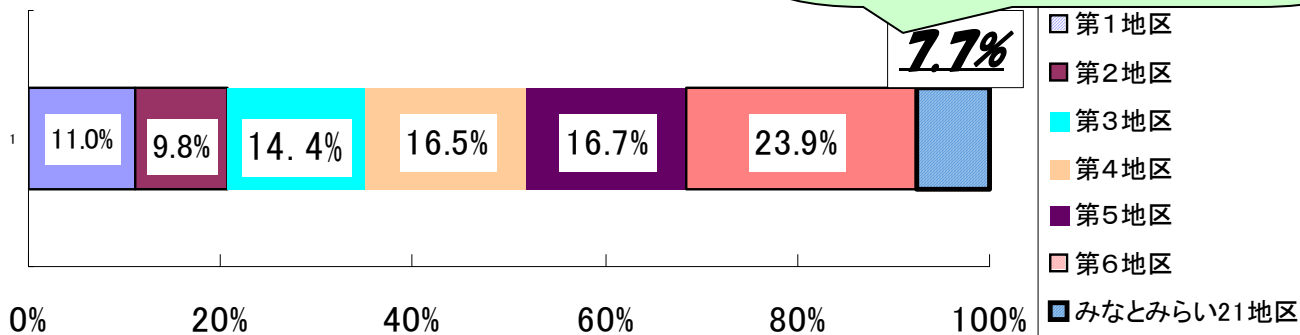


みなとみらい一丁目  
みなとみらい二丁目  
みなとみらい三丁目  
みなとみらい四丁目  
みなとみらい五丁目  
みなとみらい六丁目

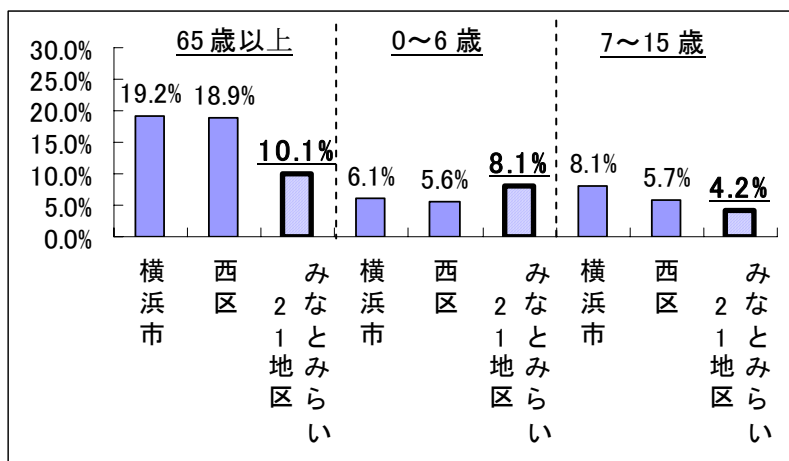


【西区人口に占める地区人口の割合】

みなとみらい21地区人口  
**7,251人 世帯数 3,583世帯**  
(1世帯あたり平均2.0人)



【西区年齢別人口割合と地区年齢別人口割合】



高齢化率は区より低く 10.1%となっています。

一方、0~6歳以下の割合は 8.1%と高くなっています。

1年間(平成20年10月1日~平成21年9月30日)の出生数は122人(区全体914人)でした。

(データ：横浜市人口ポータル

平成21年9月末現在)



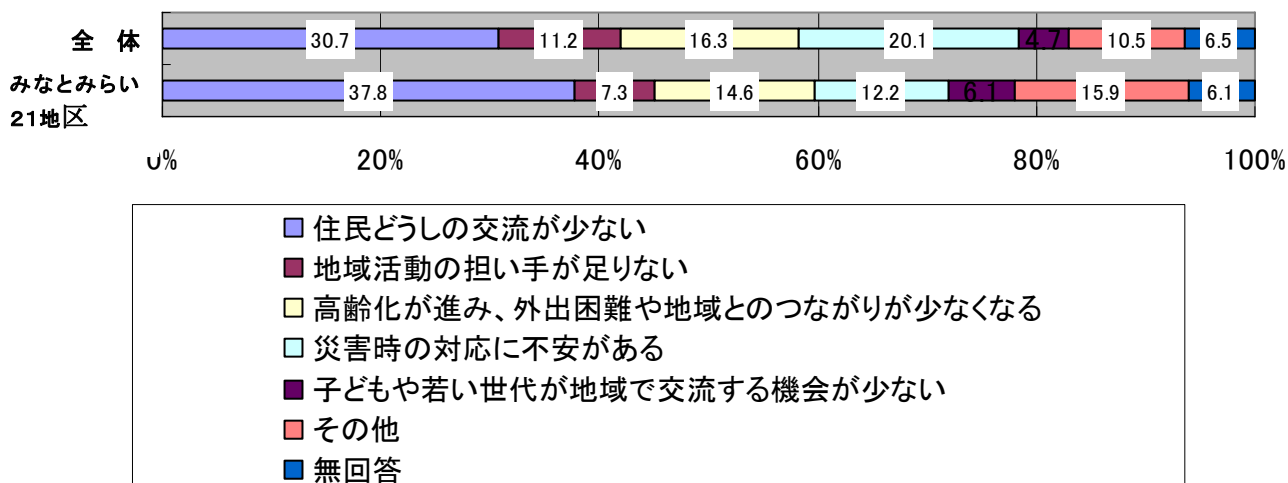
## ～地区の状況～

さまざまな世代の新しい住民が増えたことで、世代間のつながりづくりも視野に入れ、住民自らが地域コミュニティの創出や地域活動の活性化を図るため、自治会組織結成への取組も始まっています。

また、みなとみらい21地区の企業・住民が連携してイベントを実施するなど、地域まちづくりの推進や既存市街地との一体化の促進に取り組んでいます。

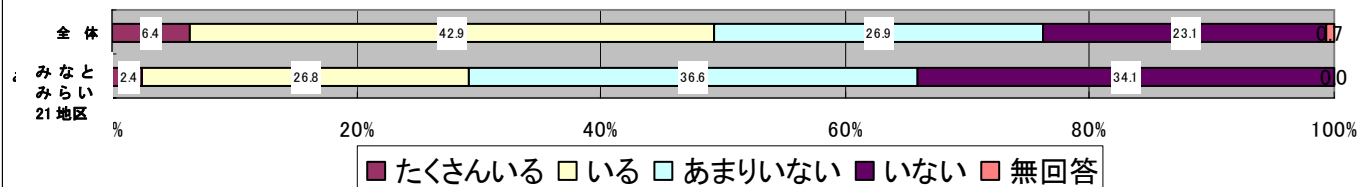
平成21年度に実施した区民アンケートでは、みなとみらい21地区の住民の回答について、次のような特徴がありました。

### 住みよい地域にするために解決されるとよいと思う問題



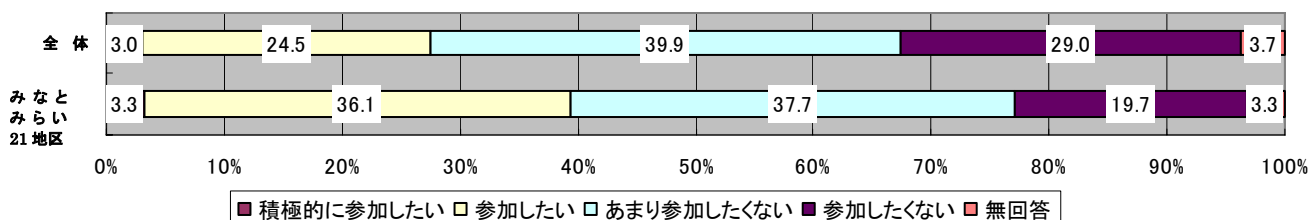
「住民どうしの交流が少ない」と回答した人が37.8%で西区の他の地区よりも多い状況でした。

### 困った時、助けてくれる近隣や友人の有無



「あまりいない・いない」と回答した人が70.7%で他の地区よりも多い状況でした。

### 自治会などで行う地域行事への参加意向



一方、自治会などで行う地域行事への参加意向として、「参加したい」と回答した人は39.4%で他の地区よりも高い結果となりました。

アンケート結果からは、「住民どうしの交流が少ない」ことを地域の課題として認識しつつ、各種の行事などには「参加したい」と考えている住民が相当数に上ることがわかりました。

今後は、地域住民・地元企業・行政がともに力を合わせ、みなとみらい21地区の地区別計画の策定などを通じて、地域のつながりづくりを進めます。



# 5 推進支援の仕組み

第2期西区地域福祉保健計画は、さまざまな世代の人やサポートが必要な人が地域社会の一員として活躍し、横につながり合うまちづくりを目指し、区民・団体・行政・区社協・地域ケアプラザがそれぞれ推進の主体として役割を分担し、あるいは協働して取り組む計画です。

とりわけ、区役所・区社協・地域ケアプラザはそれぞれの取組に加え、財政的な支援や情報提供等を通じ、一体となって区民・団体の計画推進を支援する役割を担います。

## 1 財政的な支援（区社協）

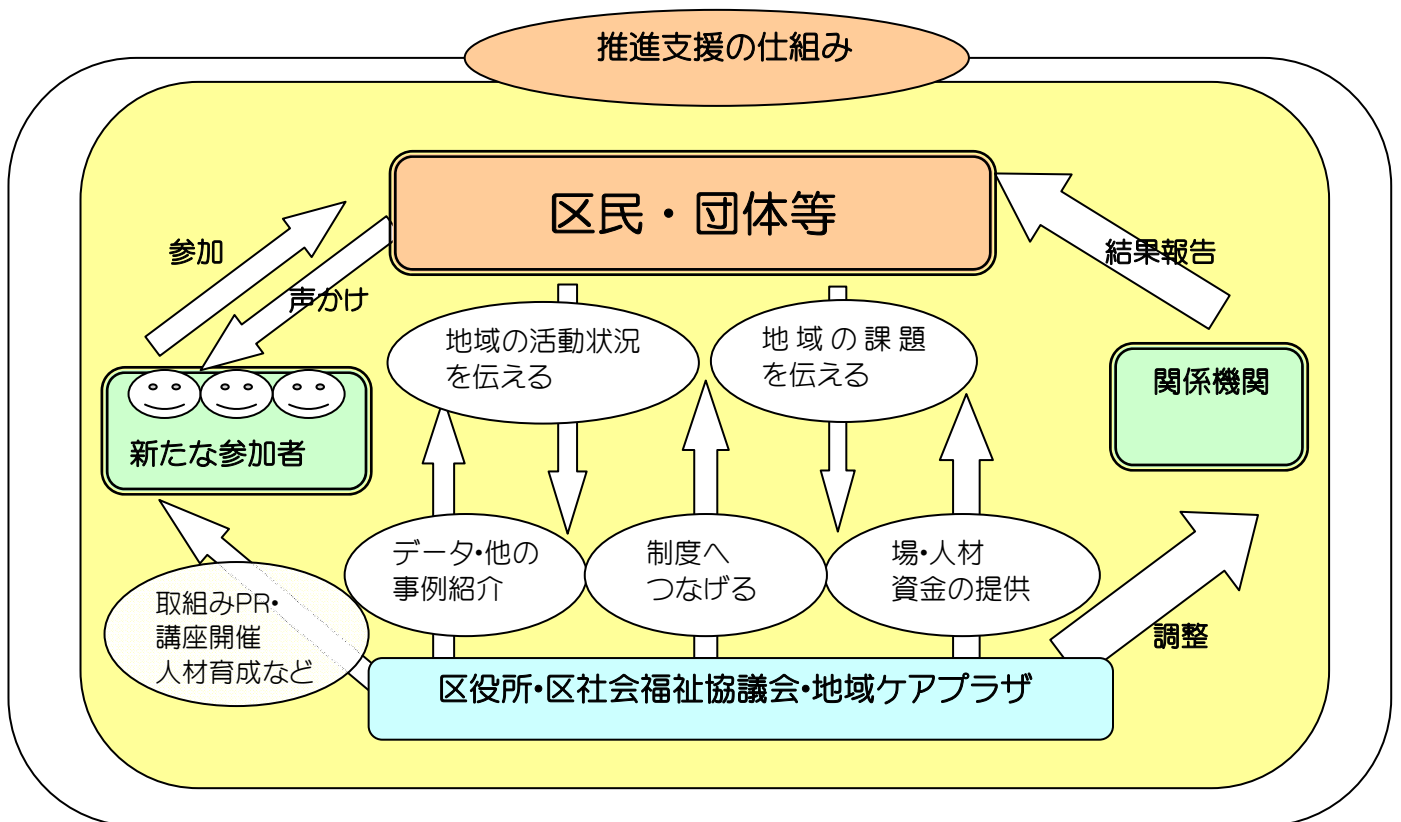
区社協は、「西区社協ふれあい助成金」に加えて新たな助成制度「にこやか しあわせ ぐらしのまち基金」を創設し充実を図ります。地域の課題解決に向けた活動の活性化や新たな活動の掘り起こし、担い手づくり・人材育成など団体・地域の活動を資金面で後押しします。

これらの助成金制度は、共同募金や善意銀行（区民の寄附）を財源としており、地域の皆さんの温かい志を、地域の皆さんが取り組む、より住みやすいまちづくりに活かしていきます。

## 2 情報提供、人材育成などの支援（区役所・区社協・地域ケアプラザ）

区役所は、地域の統計データや他地域の事例などの取組のヒントや区民・団体が地域活動に活用できる諸制度について情報提供するとともに、関係機関との調整を行います。

また、区役所は、区民・団体の計画推進の取組を広く周知するとともに、区社協・地域ケアプラザは、さまざまな関係機関と連携を強化し区民向け講座を共催で開催することや活動の場を提供することなどにより、地域福祉・保健の理解者や新たな活動者を増やしていきます。



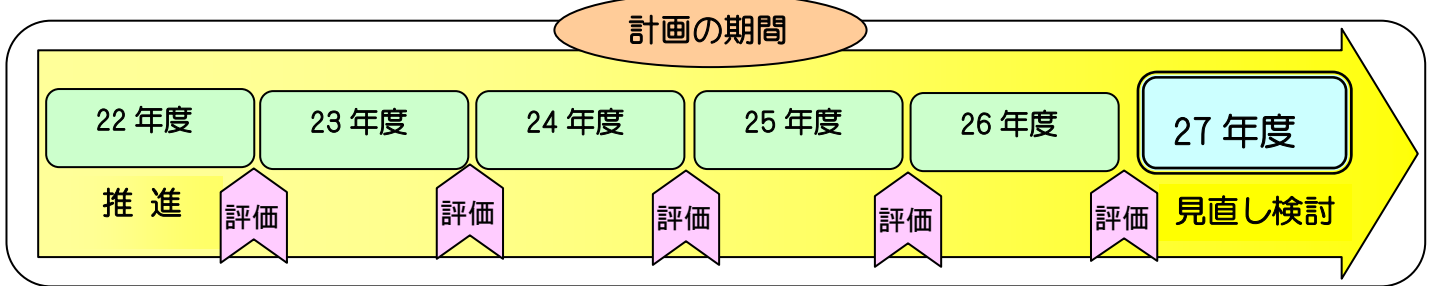




# 6 評価の仕組み

## 1 毎年度の評価

この計画は、平成 22 年度から平成 27 年度までの 6 か年計画です。取組状況について毎年評価を行い、翌年度の推進に反映します。



## 2 評価の仕組み

区内の福祉保健の関係団体の代表者からなる「西区地域福祉保健計画推進・評価委員会」において、毎年、区全域計画及び地区別計画の振返りを踏まえた計画全体の評価を行います。

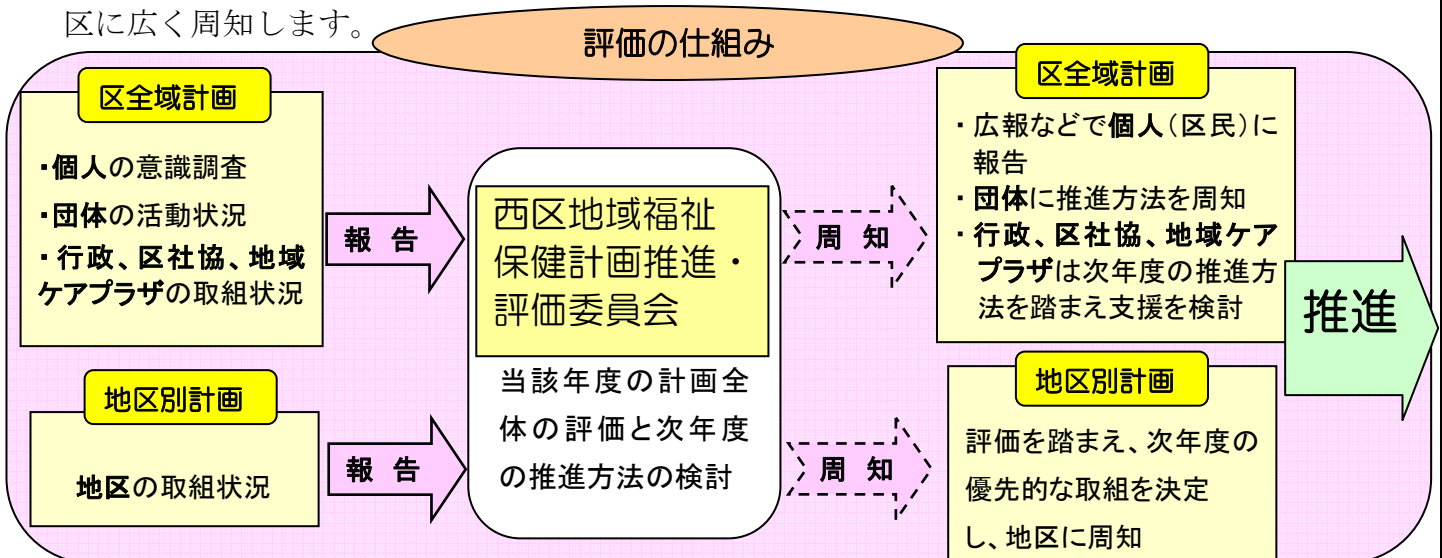
### (1) 区全域計画の振返り

計画の取組主体である個人、団体、行政、区社協、地域ケアプラザは次の方法で振返りをを行います。

個人	地域の行事や区民まつりなどにおいて、福祉保健に関する意識や取組状況についてアンケート調査を行います。
団体	基本目標ごとに定めた重点推進目標を中心に、団体間の連携、地域とのつながりや団体として力を入れたことなどについて、1 年間の活動状況を報告します。 結果をまとめ、次年度以降、団体どうしが連携して活動を活性化するきっかけとするとともに、広く区民に周知します。
行政・区社協・ 地域ケアプラザ	基本目標ごとに定めた重点推進目標の達成を目指し 1 年間の取組状況を報告します。推進・評価委員会での評価を踏まえ、次年度の推進や団体の支援、個人へのはたらきかけなどについて検討します。

### (2) 地区別計画の振り返り

地区の目標達成に向けた検討状況、具体的な取組の進捗状況などについて、各地区において振り返ります。各地区の振返りを踏まえ、地区ごとに次年度の優先的な取組を決定し、地区に広く周知します。



### **3 第2期計画期間全体の評価と第3期計画に向けて**

#### **(1) 第2期計画全体の評価**

##### **ア 福祉保健の目標値(区民の意識)の達成**

地域の福祉保健が計画の最終年次である6年後にどの程度推進したか、評価するため「福祉保健の目標値」を設定しました。

計画推進の5年目にあたる平成26年度に区民アンケートを実施し、計画期間中に区民の意識がどのように変化したのか把握し、福祉保健の目標値の達成について評価します。

##### **イ 重点推進目標の達成状況**

「重点推進目標」について、個人、団体、行政、区社協、地域ケアプラザにおける6年間の達成状況を計画の最終年度である平成27年度に、団体ヒアリング・アンケートなどにより、重点推進目標の達成状況を評価します。

#### **(2) 第3期計画に向けて**

区民アンケート、重点推進目標の達成状況による第2期計画の評価や社会情勢の変化などを踏まえ、第3期計画を策定します。

## 参考 第1期計画の振り返り

### 基本目標1 安全が確保され、安心なまち

#### ～個人の取組～

##### 区民アンケート結果まとめ (P. 19 参照)

「西区は治安が良く、安全が確保されたまちだと思う」と回答した人の割合が 56.7%と平成 15 年度に比べると 18.6 ポイント増加しました。

「公共の乗り物でのマナーを守る」と回答した人の割合が平成 15 年から 3.3 ポイント減少しているほか、「ごみ出しのルールを守る」「ポイ捨てをしないというルールを守る」も目標達成まで 20 ポイント以上の開きがあります。

##### アンケート、地区別懇談会、地域のつどいなどでの区民の意見 (課題)

- ・ 住宅密集地に住んでおり、地震が起きた時の逃げ場がなく、不安を感じている高齢者が多い。
- ・ 路地が狭く、救急車が入れないところもあり、防災面で注意しなければならないところがある。
- ・ 横浜駅周辺では人の出入りが多く、防犯面で心配。
- ・ 個人情報の問題があり、高齢者などの把握が困難になっている。

##### 区民から寄せられたアイデア

- 知らない人どうしてもあいさつができれば、防犯性も高まり、何かあった時も話しやすくなる。
- まず、顔見知りになり、はじめてコミュニケーションがとれる。

#### ～団体・行政の取組～

##### 目標 1 に対する取組数

【平成 17 年度】 → 【平成 20 年度】

86 件増                      160 件                      246 件

##### 団体・行政が力を入れた具体的な取組

【自治会町内会】地域の防犯パトロールを強化

【子ども会】集団下校時のあいさつ運動を実施

【老人クラブ】友愛活動で高齢者の見守り

【ふれあい会】見守られる人と見守る人との輪ができ、町内会活動の活性化になった。

【行政】「こども 110 番の家」(\*)の登録数が増加。また、学校との交流会を 5 校で実施しました。

【区社会福祉協議会】(障がい福祉関係分科会) 自分たちや地域ができることについて話し合い、「災害時にサポートが必要な人のための支援マニュアル」を作成。  
災害ボランティアネットワークの立ち上げ。

## 基本目標2 活気にあふれ、健康なまち

### ～個人の取組～

#### 区民アンケート結果まとめ

「自分が健康だと感じている」「生活習慣病などが特にない」と回答した人の割合は増加しています。

「過去1年の間に健康診断を受けた」と回答した人の割合に増減はありませんでした。健康診断を受けなかった理由として、「忙しくて受けられない」「費用が高くて受けられない」と回答した割合が高くなっています。

健康維持のための運動への取組は1.4ポイント減少し、バランスの良い食事など食生活の改善に取り組んでいる人の割合は3.8ポイント増加しています。

#### アンケート、地区別懇談会、地域のつどいなどでの区民の意見（課題）

- ・ 健康診断を受けたいが、忙しくて受ける時間がない。
- ・ ひとり暮らしの高齢者は食事づくりが面倒になりがちで、3食食べないことが多い。
- ・ 子どもが小さいとなかなか運動する機会が少ない。

#### 区民から寄せられたアイデア

- グランドゴルフなど幅広い世代が取り組めるスポーツを通じて、地域で健康づくりを進めている。
- 自治会町内会で体操教室に取り組んでいる。
- 毎日少しずつ意識して、体を動かしたい。スポーツセンターなども利用したい。
- 近くの公園で行われているラジオ体操に参加している。朝、規則正しい時間に活動を始め、近隣の人とも顔なじみになる。

### ～団体・行政の取組～

#### 目標2に対する取組数

	【平成17年度】	→	【平成20年度】
<u>160件増</u>	112件		272件

#### 団体・行政が力を入れた具体的な取組

- 【医師会】禁煙外来を開設したり、紹介
- 【食品衛生協会】食中毒防止キャンペーンを開催
- 【生活衛生協議会】区民まつりで健康増進についてPR
- 【保健活動推進員会】ウォーキングの日設定などにより区民の運動習慣の定着化を図る。
- 【さくら連絡会】リハビリのために行っているゲートボールを始める前に、血压測定をして健康管理に力を入れている。
- 【行政】ウォーキングを日常習慣化するため、マップやスタンプ帳などの啓発物品を作成

## 基本目標3 一人ひとりの個性を認めあい、みんなが共存するまち

### ～個人の取組～

#### 区民アンケート結果まとめ

「障害者児・者と共に活動を行う機会があった」、「これから参加したい」と思う割合が共に減少しています。

「ちょっと困ったことがあった場合に助けてくれる近隣の人や友人がいる」と答えた割合が4.6ポイント減少しました。また、「異なる世代との交流の場へ参加したい」という人の割合は減少しています。

#### アンケート、地区別懇談会、地域のつどい等での区民の意見（課題）

- ・ 支援が必要な人が何に困っているのかがわからない。
- ・ 障害児と地域で活動する機会が少ない。
- ・ 山坂が多い地域では、高齢になると遠くまで買い物に行ったり、ごみ出しすることや分別が大変になる。

#### 区民から寄せられたアイデア

- 障害者が自分の活動内容を地域に情報発信することが大切である。
- 頼まれればできることがあるが、困っている人がどこにいるのかがわからないので、橋渡しをしてくれる人が身近にいるとよい。
- 近隣で隣組のような組織をつくる。困った時に近くで必ず連絡ができる人がいて、まず聞いてくれるようなしくみづくり。

### ～団体・行政の取組～

#### 目標3に対する取組数

【平成17年度】 → 【平成20年度】

21件増

124件

145件

#### 団体・行政が力を入れた具体的な取組

【手話サークル西】講演という形で多くの聴覚障害者の話を聞き、手話技術だけでなく、聴覚障害者をより深く理解する。

【はーとメンバーズ】ピアカウンセリングの場を広める。

【まつぼっくり会成人部】地域のおまつりへ参加

【小学校】運動会種目に車椅子を取り入れるなど車椅子体験学習の実施

【みらい工房西】地域の小中学生と交流を持ち、障害についての理解を深めてもらう。

【行政】障害者団体と協働で、区民向けの障害の理解に関する啓発講座を行う。

【区社会福祉協議会】(障がい福祉関係分科会)障害理解に関する啓発のため、「障害者週間キャンペーン」を実施。

## 基本目標4 地域全体がつながりを持つまち

### ～個人の取組～

#### 区民アンケート結果まとめ

「ちょっと困っている人に行っていること」について、「すでに支援を行っている」とした割合は増えています。約6割の人が「困ったことがあった時、近隣の方に助けてもらいたい」と答えています。一方で「困っている人がどこにいるのか分からない」と答えた人も多く、両者を橋渡しするしくみづくりが必要です。

また、「地域の中で自分の世代とは違った方と共に活動する機会があれば、参加したい」とした割合は2.5ポイント減少しています。

#### アンケート、地区別懇談会、地域のつどいなどでの区民の意見（課題）

- ・ 地域活動は活発だが、各団体が縦割りになっている。互いの活動を理解しあう機会が少ない。
- ・ 複数の団体で同じような活動をしており、役割分担などについて話し合いが充分行われていない。

#### 区民から寄せられたアイデア

- 地域の行事を行う際に、地区社会福祉協議会を中心に各団体が連携して企画・運営をし、地域に根付いている。団体をまとめる機能が大切。
- 高齢者の見守りや子育て支援など、民生委員・児童委員だけでなく、自治会町内会役員、友愛活動推進員、更生保護女性会(\*)、ボランティアなどが役割分担し、一緒に取り組んでいる。
- 力仕事、料理上手、電気関係に詳しいなど自分の得意分野を生かし、町内で助け合う。掲示板などを活用し、広く活動内容を周知する。また、退職したばかりの人に地域活動の参加を促す。

### ～団体・行政の取組～

#### 目標4に対する取組数

【平成17年度】 → 【平成20年度】

31件増

60件

91件

#### 団体・行政が力を入れた具体的な取組

【食事サービスグループ】定例会を設けて意見交換

【保育園】研修会などに参加し、他園との連携を結ぶ機会をつくる。

【地域ケアプラザ】企業ボランティアと高齢者や介護者を対象とした事業を企画実施

【区社会福祉協議会】課題別分科会（地区社協・高齢・障害・児童・ボランティア市民活動）を設置し、地域・施設・団体の連携を図り、情報交換を行うほか、研修・マップづくり・イベントなどを実施。

【行政】子ども関係団体が連携しやすい仕組みづくりの検討



## 基本目標5 子どもが健やかに成長できるまち

### ～個人の取組～

#### 区民アンケート結果まとめ

未成年の喫煙については、「ほとんど見かけない」と回答した割合は16.8ポイント増えましたが、21年度においても「よく見かける、時々見かける」と回答した人が39.8%であり、引き続き未成年の喫煙防止に取り組んでいく必要があります。

子どもへの声かけ（0.9ポイント増）については5か年での大きな変化はありませんでしたが、子どもへ注意できるかについては、3.7ポイント減でした。

#### アンケート、地区別懇談会、地域のつどいなどでの区民の意見（課題）

- ・子どもの数が減っている地域では、子ども会活動が困難になっている。一方、子どもの数が増えているところでは幼稚園の数や小学校の教室が不足している。
- ・道路を歩く時のマナーやポイ捨てなどルールを守らない子どもがいる。
- ・転居してきて周囲に知人がおらず、子育てに悩んでいる親がいる。

#### 区民からよせられたアイデア

- 子育て支援の場で若い世代に自治会町内会の活動や地域情報を伝え、地域が子どもたちを見守っていることを教えている。
- 自治会町内会を年代別に部会に分けて、子どもの頃から地域の活動に参加し、地域への理解を深めるとともに、世代間でマナーやルールを教える。
- あいさつをしなかった子どもも声かけを積極的に行い、顔見知りになる事であいさつを返してくれるようになった。

### ～団体・行政の取組～

#### 目標5に対する取組数

【平成17年度】 → 【平成20年度】

43件増

75件

118件

#### 団体・行政が力を入れた具体的な取組

- 【歯科医師会】 学校歯科医、幼稚園歯科医が食育についての講話の機会を見つけ実施
- 【小学校】 学校保健委員会で早寝早起き朝ごはんについて啓発。6年生の薬物防止教育への取組
- 【子育てプロジェクトにじ】 地区社協と連携し、ケアプラザで3世代交流を実施
- 【食生活等改善推進員会】 子どもや若い世代とのふれあい交流を通じた健康づくりの普及
- 【区社会福祉協議会】（児童福祉関係分科会）子育て支援を行う団体向け研修会の実施
- 【行政】 子育てにかかわる団体どうしの連携のきっかけづくりのため、リーフレットを作成

## 基本目標6 必要な情報が正確に伝わるまち

### ～個人の取組～

#### 区民アンケート結果まとめ

西区からのお知らせや情報の入手方法として、「ホームページから得る」とした割合が1.6ポイント増加しました。一方、広報よこはま西区版(6.2ポイント減)、回覧板(9.5ポイント減)、区役所窓口のチラシ(4.5ポイント減)といずれの入手方法も減少しています。

「インターネットを活用している」と回答した割合は平成19年48%が21年度には55.1%と7.1ポイント増加しました。

#### アンケート、地区別懇談会、地域のつどい等での区民の意見(課題)

- ・情報量が多すぎて、何が必要な情報なのかわかりにくい。
- ・パソコンを利用しない人もいるので、掲示板や回覧板などを活用するが、枚数が多く、正しい情報が伝わりにくい。
- ・身近な地域での情報や団体の活動を伝える方法がない。

#### 区民から寄せられたアイデア

- ホームページに自分ができるボランティア内容などを掲載し、支援が必要な人が情報を得る。
- 病院などの待ち時間であれば、掲示されているチラシをよく読む。より広く知ってもらいたい情報はチラシを掲示する場所を工夫する。(バス停など)
- 若い世代は、パソコンや携帯電話のメールなどから情報を得る傾向がある。
- 近隣の人から行事に誘われたり、同じ世代の人から聞く口コミ情報が信頼感を得やすい。

### ～団体・行政の取組～

#### 目標6に対する取組数

【平成17年度】→【平成20年度】

34件増

36件

70件

#### 団体・行政が力を入れた具体的な取組

【薬剤師会】ホームページを通じた情報提供

【更生保護女性会】子育て支援の場で母親たちに情報提供

【獣医師会】野良猫問題について相談を受け、一緒に考える会があるということを伝えた。

【eネットにし探検隊】各地区で行われている地域に密着した行事や団体の活動をまとめた情報を発信

【行政】広報よこはま西区版に、タイムリーな情報を掲載し内容の充実を図った。

【区社会福祉協議会】ホームページを改訂し内容の充実を図った。新たなボランティア情報紙を発行。チラシの作成講座を開催し、情報発信する団体を支援した。

団体ヒアリング まとめ

【全体】

団体名	活動の概要	今の活動状況について(新しく始めたこと・力を入れている活動など)	これから取り組みたい・取り組もうと思っていること
eネットにし探検隊	地域活動の情報をホームページで紹介しています。また、毎週1回、情報アドバイザー活動を行っています。	アドバイザー活動だけでなく、自主事業も実施できるようになりました。	ケアプラザの自主事業「カメラ倶楽部」とのコラボレーション(情報収集のボランティアとして) 防災や被災時を考え、なるべく多くの人との情報共有
CLIPアコーン	対人関係などで不安を感じ生きづらくなっている方などの電話相談支援	担い手の育成: 定例会・学習会の開催 同じ活動をする他団体と連絡をとりあっています。	活動内容の周知(チラシの作成・勉強会での配布など)
ケアプラザ	誰もが住み慣れたまちで、健康で安心して暮らせる地域をつくっていくための拠点で、地域の福祉・保健活動の支援、福祉保健の窓口、通所介護などの機能があります。	閉じこもり予防・介護予防 支えあい勉強会・介護予防事業・あけぼの会へ力を入れている 出前講座の拡大 子育て支援(フリースペース、0歳児～プレママの子育て支援(母主体の支援の場)、パパと子どものふれあい) 地域交流・社協と合同で講座開催	自主グループとして継続していけるような地域での介護予防教室の実施と支援。 現在地域の中で自主運営されている体操教室などのさらなる支援。 子育て支援のつながりから地域へつながりを作る 事業の周知方法としてチラシの配布や掲示板の活用と共に直接地域に出向き、事業の説明を行っていく。 保育付きの事業で地域との交流促進を図る ケアプラザや事業の周知を促進する
地区社会福祉協議会	地域の中のいろいろな会員(個人や団体)が、自分たちの地域の福祉のまちづくりを目的に協力しあい、活動する団体です。	親子ふれあい会や高齢者食事会のほか、地域向けの福祉に関する研修会を行っています。	地域の特性を生かした福祉活動を行っています。
西保護司会	保護司法に基づき法務大臣の委嘱を受けた民間のボランティアで、罪や非行を犯した人の更生指導や、犯罪予防活動を行なっています。	「社会を明るくする運動」を更生保護関係団体だけの運動だったが区民を巻き込んで実施しました。	「社明運動」の推進組織づくりと恒年行事としての実施
保健活動推進員	市民の健康づくりや生活習慣病の予防を中心とする保健事業を推進する活動を行なっています。	講習会関係の開催2～3回/年 体力づくりのためのころぼんよ体操の実施ほか ウォーキング 子育て支援 健康づくりのための料理	男性の方にも参加しやすいように曜日の変更や「そばうち」のように男性も参加したくなるような内容の事 ころぼんよ体操の普及のためにいろいろな町内会館などを回りたい。
民生委員・児童委員	援護を要する人々を把握し、相談・援助等活動や、地域の中で誰もが安心して生活できるように地域福祉活動をしています。	町内の定例会でふれあい会の定例会の報告・情報交換	マンションでは管理人との顔つなぎや連絡を普段から行い、関係づくりを図る。 もう一歩踏み込んだ声かけや支援をしていきたい。
ボランティア市民活動分科会	区社協会員のボランティアグループ・市民活動団体が集まり、それぞれの活動の中から見える地域の課題を情報交換しあい、解決のために各グループで何ができるのかを話し合っています。	研修会・見学会を行うほか、区民まつり等での団体のPR活動をしています。	ボランティア活動の啓発を行ってきたい。

団体ヒアリング まとめ

【高齢者関係】

団体名	活動の概要	今の活動状況について(新しく始めたこと・力を入れている活動など)	これから取り組みたい・取り組もうと思っていること
赤い靴	高齢者向けの食事サービスボランティアグループで	食事内容に力を入れています。	現状維持
高齢者福祉関係分科会	区社協会員の高齢者福祉の施設や団体が集まり、それぞれの活動の中からも見える地域の課題を情報交換しあい、解決のために何ができるかを考えています。	「おたすけマップ」を作成したことで、団体間のつながりが出来ました。	高齢者福祉について学び、分科会メンバーが高齢者福祉について地域に発信していけるようにしていきたい。
サポート西	ひとり暮らし高齢者等に、小修繕などの作業の手伝いをするボランティアグループです。	元大工やペンキ工、電気工が入会してきたためこれらの仕事を増やそうと力を入れています。	工夫を凝らした活動のPR
シルバー体操指導員	高齢者に適した体操やレクリエーションの地域指導者として、横浜市の指導者養成事業を終了し、地域の体操教室などで活動しています。	地域での自主的な体操教室の指導 老人クラブ単位での体操教室の指導 ケアプラザでの転倒骨折予防教室OB会の指導	
水仙会	高齢者向けデイサービス・サロン活動を行っているボランティアグループです。	健康体操や茶話会	参加者や、ともに活動する仲間を増やしていきたい。
デイサービス	介護保険制度に定められた通所介護施設です。	高齢者の自立支援の取組(自分のことは自分で行う)や介護予防を目標に知識啓発を毎日行い、高齢者の機能維持・改善に力を入れている。 園児や小学生との交流活動や中高生の職業体験やボランティア実習を積極的に受け入れています。 送迎時に地域の子どもや高齢者・障害者などへの見守りや防犯にも気を配っている。 地域への周知	自立支援の考え方を取り入れた利用者一人ひとりに合ったプランの作成 ケアプラザの中にあるデイサービスの利点をもっと地域にPRし、認知度を高める。 ヨコハマいきいきポイントの活用によりボランティアを増やしデイサービスの活性化。 職員・スタッフのスキルアップのための研修
西・ともしび	高齢者向けの会食・配食サービスを実施しています。	配食・会食サービス 健康体操や手話コーラス 小学校との異世代交流	広報紙をPCで作成し、複数が関わられるように、又データを残しておきたい。 会食会に出てきてほしい人のケア 担い手を増やし、配食数の増加や活動の充実をしていきたい。
ほっと幸せ会	地域の高齢者への配食サービスボランティアグループです。安否確認しています。	ケアプラザの職員を同行し、実情をみてもらい連携をこころがけている。	「おたすけマップ」を各戸配布し、有効活用していきたい。
みつわの会	高齢者向けの配食サービスボランティアグループです。		自分たちのスキルアップ
老人クラブ	60歳以上を対象とし自治会町内会などを単位に結成され、高齢者の社会参加、生きがい対策など様々な活動を行っています。	仲間づくり・健康づくり・生きがいづくり	老人クラブ以外の自治会からの情報による広報紙の作成。

【子ども関係】

団体名	活動の概要	今の活動状況について(新しく始めたこと・力を入れている活動など)	これから取り組みたい・取り組もうと思っていること
子育て支援プロジェクトにじ		「なないろ広場」で地域情報を勢力的なスタッフが取材している	身近な地域の中で気軽にいけるサロンやカフェができ、スタッフは地域で子育てに一段落ついた人が関わってくるとよい。
児童福祉関係分科会	区社協会員の子育て・児童福祉関係の団体が集まり、共通のテーマを見つけ、学んでいます。	お互いの団体を知るために、団体紹介の様式を使い、知り合いました。また、外部講師を呼び、子育て支援の現状を知る勉強会をしました。	地域子育て支援拠点と連携して、区内の子育て関係者や団体とのネットワークづくりに取り組みます。
シャーロック・ホームズ	子育て支援～青少年自立支援まで幅広く相談や情報の発信、居場所づくりに取り組んでいるNPO法人です。	メール配信で広く活動を周知し、広場に來れない母にも情報が伝わるような努力 母の心身のコンディションを整え、孤立化を防ぐこと	様々な世代が集えるハッピーローソンの取組 小学生の居場所づくり(親や学校以外の大人に見てもらおうきっかけ)
主任児童委員	児童福祉に関する事項を専門的に担当し、地域の児童健全育成活動や母子保健活動の推進に関する活動を行っています。	地区民児協・行政などの活動への協力 登下校時の子どもや育児中の母親への声かけ 親子ふれあい会や赤ちゃんふれあい教室への参加 主任児童委員が応急手当普及員の資格を持ち、心肺蘇生法教室の講師として活動している。	地域子ども達への声かけの継続 関係団体と連携して情報交換をしたい。 地域で子ども会・PTA・主任児童委員三団体の会議を持ちたい。 多くの地域の方・学校他関係機関の人と顔見知りになること。

団体ヒアリング まとめ

【障害関係】

団体名	活動の概要	今の活動状況について(新しく始めたこと・力を入れている活動など)	これから取り組みたい・取り組もうと思っていること
愛ネットワーク	西区の精神保健福祉ボランティアグループです。	精神障害者共同地域作業所の食事づくり、バザーや配食の手伝いなどの活動をしています。	活動者を増やす取組(会員向けにボランティア案内送付)
さくら連絡会	身体障害者や高齢者を対象にリハビリ目的で室内ゲートボールの実施をしています。	参加者の血圧測定の結果の大学の先生に寄る評価・指導。時々、健康講話をしてもらっています。	「いるかの会」の会員を増やして障害を持つ人々の健康増進・交流に貢献していきたい。
生活支援センター西	精神障害者の居場所づくりや相談支援を行っています。	主には訪問活動(引きこもり支援)に力を入れています。 活動は全てオープンにしており、誰が来ても構わないというスタイルをとっています。	隠れない・隠れさせない社会づくりを目指したい。
障害福祉関係分科会	区社協会員の障がい関係団体が集まり、障がい理解を進めるために、イベント・講座の開催などを実施しています。	障がい者週間キャンペーン、災害時に支援が必要な人へのサポートについての取り組み、障がい当事者との交流会などの実施	障がい当事者自身の発信力を高めるためのしくみづくりに取り組みます。
第一戸部荘	精神障害者のためのグループホーム(共同での生活の場)です。	西区地福計画目標1の小目標:マナーやルールを守り、お互いの信頼を深める。	
西区生活支援ネットワーク	西区在住の障害児・者の家族が、様々な障害種別をこえ相互の連携・情報交換を行ないながら、より良い地域での暮らしを考え活動しています。	障がい児者の日常生活の充実と社会的自立に向けての取組	障がい児者を知ってもらう機会として、地域の中で一緒に取り組める企画 学校に障がい児啓発について障がい児の母から話すような啓発活動の実施
はーと工房	精神障害者の地域共同作業所として、作業・仲間との交流や憩いの場・次のステージへの準備の場となっています。	はーとの会独自のバザーや地域でのバザーなどに物品販売などで積極的に地域参加しています。	新たな障害への対応能力の強化、新作業所の必要性 常設販売スペースの確保
まつぼっくり会 学校部	障害を持った子どもたちの生活体験の場として、西区を中心に活動している地域訓練会です。		地域に広く周知して会員数を増やし、活動の幅を広げたい。
みらい工房西	脳血管疾患の後遺症などによる中途障害者の自立と社会参加をめざして、創作・軽作業・生活訓練などを行う活動場所です。	地域の小中学生と交流を持ち、障害についての理解を深めてもらう事 地域の人に活動内容を伝えます。 西区内の作業所と共同で自主製品を持ち寄り、一つの商品を企画・販売するプロジェクトの開始	地域防災訓練への参加 障害者理解や生活習慣病予防の重要性について地域へ啓発活動 積極的な広報活動 地域関係団体や障害者団体との連携強化
無限夢工房	横浜市地域活動支援センター・作業所型の一つで3つの作業所を持つNPO法人です。主に就労支援の場ですが、障害の種類を問わず、個別の支援を大切にしています。	メンバー会議を開催し、些細なこともメンバー達で決定するようにしています。 地区の防災訓練の参加や清掃活動で地域との交流を図っています。	一人の対象者に複数の施設が関わりさまざまな相談にのれるようなネットワークづくり 施設・団体の周知・広報活動
特定非営利活動法人レスパイト・ケアサービス 萌	障害児・者を介護する家族に対し、訪問介護・居宅介護・ボランティア活動・療育相談事業を提供しています。	社協の分科会で障害児を理解してもらう働きかけを行います ホームページを充実させ、自分たちの団体の活動を周する事	障害児が成長、安定した際に在宅生活を支えてくれる地域内のヘルパーや訪問看護ステーションとのつながりを作りたい 新しい障害児を受け入れて地域へ帰す橋渡しができるように地域とのつながりを作りたい 障害児の理解や対応方法についての啓発活動。 災害時に公的機関の対応がスムーズにいくように地域で障害児の存在を把握してほしいことを伝えていきたい

## 第2期計画用語集(案)

	用 語	説 明
あ	新しい大都市制度	我が国の国際競争力を高め、国全体の発展に貢献していくため、日本を代表する大都市にふさわしい、府県から独立した新たな大都市制度を構想・検討します。
え	NPO法人(特定非営利活動法人)	特定非営利活動促進法」に基づき、設立された法人で、特定の分野において、不特定かつ多数のものとの利益の増進に寄与することを目的とする活動を行ないます。
く	区社会福祉協議会	社会福祉法に基づき、地域住民やボランティア、福祉保健関係者等の協力を得て、福祉のまちづくりをめざす民間団体です。詳しくは西区社会福祉協議会ホームページ( <a href="http://www.yoko-nishishakyo.jp/">http://www.yoko-nishishakyo.jp/</a> )
	グループホーム	障害者や高齢者が、小人数(5人から9人)を単位とした共同住居の形態で、食事の支度や掃除、洗濯などをスタッフが利用者とともに共同で行う、家庭的な雰囲気の中で共同生活を送る場。
こ	広域自治体	県や道(州)など広い範囲を治める地方公共団体や、複数の基礎自治体が集まって構成される地方公共団体のことです。
	更生保護女性会	犯罪・非行予防活動や子育て支援活動など、保護司活動への協力を通して明るい社会づくりをめざすボランティアです。
	こども110番の家	「こども110番の家」とは、あぶない時は、いつでも逃げ込める家のことです。子供の安全を地域住民みんなで守るという目的でつくられました。
	サポートを必要とする人	障害者や高齢者に限らず、日常生活の中で、何らかの支援を必要としている人。
し	食生活等改善推進員	各区で実施している食生活改善セミナーを受講した方が食生活改善を目的に活動しています。
	(法人型)障害者地域活動ホーム	障害児者の地域生活を支援する拠点施設。デイサービス事業や余暇活動支援などを実施しています。



せ	精神障害者生活支援センター	地域で生活する精神障害者の社会復帰、自立、及び社会参加を促進するため、精神保健福祉士などによる日常生活相談や日常生活に必要な情報の提供を行っています。 また、規則正しい生活維持のための食事サービス、入浴サービス、洗濯サービスの提供および、各センターによる自主事業(レク・イベント等)や地域交流活動などを行っています。
ち	地域運営(エリアマネジメント)	生活圏域の一定のまとまり(エリア)において多様な担い手が更なる連携を図って主体を構成し、地域人材、地域資源を活かす等により、地域の課題解決や地域価値の向上等の目的・目標に向けて取り組み、地域の特性を重視した魅力あるエリア(地域)としてマネジメント(運営)していく活動
	地域ケアプラザ	誰もが住み慣れたまちで、健康で安心して暮らせる地域をつかっていくための拠点で、地域の福祉・保健活動の支援、福祉保健の相談窓口(地域包括支援センター)、通所介護(デイサービス)などの機能があります。
	地域子育て支援拠点	就学前の子どもとその保護者が遊び、交流するスペースの提供、子育て相談、子育て情報の提供などを行う子育て支援の拠点。地域で子育て支援に関わる方のために研修会なども実施しています。
	地区社会福祉協議会	地区社会福祉協議会は、地域住民に最も身近な社協として地域の方々が「自分の地域は自分たちで良くしていこう」という気持ちで組織された任意の団体です。西区では連合町内会・自治会毎に組織され、現在6つの地区社協があります。
に	にしく市民活動支援センター	さまざまな分野の市民活動、ボランティア活動を応援する拠点。市民活動に関する相談の受付、資料や情報の提供、ミーティングコーナーや会議室等の提供などを行っています。
ぴ	ピアカウンセリング	カウンセリングの専門家ではなく、同じ立場にある仲間として、平等と相互性に基づく人間関係の中で、日常の様々な問題への対処について相談支援することです。
ふ	福祉保健活動拠点	福祉保健活動拠点とは、自主的に福祉保健の活動などをおこなっている団体などが、交流・打合せ・研修などに利用できる施設です。
	ふれあい会	ひとり暮らし高齢者等への見守りや訪問活動などのふれあい福祉活動を行う西区独自の地域組織で、自治会町内会単位で結成されています。
ほ	保健活動推進員	地域の健康づくりの推進役、行政の健康づくり施策のパートナー役として、地域において活動しています。自治会町内会から選出され、市長が委嘱しています。